

平成26年度指定スーパーグローバルハイスクール

研究開発完了報告書課題研究成果報告書 2017~2018 (第4年次)



2018 (平成 30) 年 3 月

玉川学園高等部・中学部(東京) Upper & Lower Secondary Division, Tamagawa Academy, Tokyo

平成 29 年度

スーパーグローバルハイスクール事業

研究開発完了報告書課題研究成果報告書

第4年次

平成 30 年 3 月 玉川学園高等部・中学部

玉川学園スーパーグローバルハイスクール(SGH) 研究開発完了報告書・課題研究成果報告書(第 4 年次・2017~2018)

目次

•	研究開発完了報告書(別紙様式3)	2
•	課題研究について 実践報告・分析・課題・今後の取り組み	
	1. グローバル・キャリア講座 2017	10
	2. Tamagawa Academy Super Global Leaders 48	25
	3. 12 年公民科選択科目「ワールド・スタディーズ」	27
	4. アフリカン・スタディーズ 2017	32
	5. 自由研究「グローバルスタディーズ」	38
	6. ラウンドスクエア たまがわ会議	41
	7. ヨーロピアン・スタディーズ 2018	49
	8. 模擬国連	57
	9. 全体の取り組み	64
•	課題外研究について	
	≪1≫英語に対する取り組み	64
	≪2≫PKO 写真展、難民映画祭の開催	71
	≪3≫玉川学園 SGH 広報活動	73
	≪4≫定期評価	74
	≪5≫卒業生に対する追跡調査	84
•	目標設定シート (別紙様式7)	88
•	生徒成果物	96
•	執筆担当	132

平成 30 年 3 月 30 日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 東京都町田市玉川学園 6-1-1 管理機関名 学校法人玉川学園 代表者名 理事長 小原 芳明 印

平成 29 年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を,下記により提出します。

記

- 1 事業の実施期間
 - 平成29年4月3日(契約締結日)~平成30年3月30日
- 2 指定校名

学校名 玉川学園高等部・中学部 学校長名 小原 芳明

3 研究開発名

国際機関へキャリア選択する全人的リーダーの育成

4 研究開発概要

将来、国際機関や国際NGOに勤務し、その中でリーダーとして活躍するために必要なキャリア教育を、実際に現場で活躍した、あるいは活躍している方々を講師に招き実践する。その上で、現在、世界中で発生している、あるいは発生の可能性のある諸問題に関心を持たせ、その問題が自分と関連があることを認識させる。さらに、政治、宗教、民族、歴史、文化などの多様性を認識させ、自ら知識や情報を得て、他者を理解し受け入れる姿勢を育成する。そして、氾濫する情報から真実をとらえる力、それを基に正しい判断を下す力、問題解決に向け前進することのできる強い意志を持たせる。また、実行するために不可欠なコミュニケーション能力・語学力とリーダーシップを育成する。

5 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

光沙耳口						実施	日程					
業務項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専任の支援スタッ フの雇用		実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
海外研修プログラ ムの実施支援				実施						実施		
学内ネットワーク による広報支援	実施	実施	実施	実施	実施	実施						
日英ホームページ 等制作支援	実施	実施	実施	実施	実施	実施						
SGH 事業の進捗管 理	実施	実施	実施	実施	実施	実施						
BLES プログラム	実施	実施	実施	実施	実施	実施						

(2) 実績の説明

● 専任の支援スタッフの雇用

➤ 指定校において、SGH 事業の充実した取組推進および円滑な運営を図るため、海外諸機関との連携交渉等を担当する海外交流アドバイザー(非常勤職員)1名と、経理事務や資料整理等の事務作業等を担当する事務補助員(非常勤事務員)1名を雇用した。

● 初等中等教育部門および法人部門との連携協力

- ▶ 指定校における海外研修プログラムの実施にあたっては、初等中等教育部門の海外研修 プログラムの企画・調整・運営を担当する学園国際交流センターが支援を行った。
- ▶ 指定校の研究開発成果の普及に関する取り組みにおいて、学内ネットワークによる広報については、初等中等教育部門のコンピュータ・ネットワークの管理運営を担当する学園マルチメディアリソースセンターIT支援室が全面的に支援した。日本語・英語ホームページ制作については、玉川学園ホームページを総括して管理運営する教育企画部広報課の連携協力のもと実施した。また、本学の学校案内や学校説明会において、SGHの取り組みを紹介した。ホームページにSGHの活動状況や関連情報を分かりやすく掲載したことにより、事業普及の波及効果が得られ、取り組みを参考としたい高等学校等に対する活動の促進が図られたと考えられる。
- ▶ 非常勤職員・事務員の雇用、委託費の管理、物品の調達等については、法人部門の総務 部、人事部、経理部との連携により、適正な運用を図るべく実施した。

● SGH 事業の進捗管理

- ▶ 管理機関の責任者および担当者は、毎月開催される実行委員会に出席し、管理機関として、連携や視点への助言を行ったほか、円滑な指定校運営がなされるよう学内諸機関・会議への協力要請等も機動的に行った。
- ▶ 今年度は運営指導委員会を平成29年7月5日及び平成30年2月23日に開催し、海外

国内の有識者から、本事業の進捗、課題、今後の計画等について専門的見地から指導・助言を受けた。

● 玉川学園 (K-12) としての取り組み

▶ 昨年度から、文部科学省から「教育課程特例校」として指定を受け、日本語と英語によるバイリンガルプログラムである BLES (ブレス: Bilingual Elementary School)を小学校1年生から開始し、2年が経過した。BLES の目標は、国際社会において責任ある行動をとることができる人材の基礎を育てることであり、玉川学園で導入している国際バカロレア (IB) クラスへつながる国際的な教育を実施している。国際化する大学進学への起点ともなるプログラムであり、本年度も学内外に向けて広報活動を行った。

6 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目			実施	期間((契約日	~	平成:	30年3	月 30	月)		
未伤识日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12月	1月	2月	3月
①グローバル キャリア講座 2017	準備 実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施	検証
② Tamagawa Academy Super Global Leaders 48	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	検証
③ワールド・ スタディーズ (World Studies)	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	検証		検証	
④アフリカン・ スタディーズ (African Studies)	生徒募集	参加生徒決定	事前指導	事前指 導/実施		事後 指導	事後 指導				検証	
⑤自由研究「グローバル・ スタディーズ」	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	検証
⑥たまがわ会議	準備	準備	準備	実施		検証						
⑦ヨーロピアン・ スタディーズ (European Studies)	参加生徒決定	事前指導	参加生徒決定	事前指導	参加生徒決定	事前指導	参加生徒決定	事前 指導	事前 指導	実施/事 後指導	事後指導	検証
8模擬国連	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	検証

(2) 実績の説明

◆課題研究について

①グローバルキャリア講座 2017 (国際機関、団体から講師を招いての講座)

目的: 1. 本学 SGH 研究課題の5分野―貧困、人権、環境、外交、国際協力―に関する理解 を深める。

2. 国際機関での仕事とはどのようなものか、キャリアイメージを持つ。

実施形式: 1. 全校で参加する講話形式 2. 学年ごとに参加する講話形式

3. 生徒が主体的に参加するTED形式

②Super Global Leaders 48 (生徒の活動内容をポイント化したもの)

目的:SGH活動に対する意識の向上を図る。

③ワールド・スタディーズ (12 年生 選択授業 4 単位)

目的:世界の諸問題に関しての知識をアクティブラーニング方式で身につけた上で、ディベート、ディスカッション、ポスターセッション等を行い、発信力やリーダーシップを身につける。

④アフリカン・スタディーズ ボツワナ共和国、南アフリカ共和国での研修

目的:事前研修で両国が抱える課題を研究した上で現地に赴き、課題解決に向けての方策を 導き出し、実行に移す。

⑤自由研究「グローバル・スタディーズ」 (総合的学習の時間 2単位)

目的:各自設定したテーマに基づき研究を重ね、世界的な課題の解決に向けての方策を導き出し、論文にまとめる。

⑥たまがわ会議 (ラウンドスクエア実行委員会主催)

目的:世界的私立学校連盟である「Round Square」の6つの理念 (Internationalizm, Democracy, Environmentalism, Adventure, Leadership, Service) に基づき、生徒が自発的に3日間活動。リーダーの指示のもと、ボランティアを始めとする諸活動を実施することで、体験を共有し、それを個々が発信する。

- ⑦ヨーロピアン・スタディーズ オランダ王国・スイス連邦・ポーランド共和国での研修 目的:1. 事前研修で国際機関(赤十字、UNHCR等)について調べ、そこで働く日本人職員から直接話を聞き、現在抱えている問題を知り、キャリア選択のイメージを抱く。
 - 2. 負の世界遺産であるアウシュビッツを訪問し、世界中の多種多様な人権問題の課題解決に向けての方策を導き出し、実行に移す。
- ⑧模擬国連 (自由選択科目 1単位)
 - 目的:1. 毎年1つのテーマを定め、その問題を調査した上で、模擬国連の手法を使って課題解決策を参加者全員で導き出す。
 - 2. 英語を共通言語とし、他者とのコミュニケーションを図る。
- 7 目標の進捗状況、成果、評価
 - ①グローバルキャリア講座 2017

内閣府国際平和協力本部事務局、外務省、日本赤十字社、JICA をはじめ IMF、ILO 等の国際機関、各種 NPO 法人より講師を招き、今年度は 17 回実施した。TED 形式のグローバルキャリア講座に関しては、生徒の認識が定着し、7 回の講座に延べ 888 名が出席した。中間評価で指摘を受けた、「単発的・受動的」という点を改善すべく、今年度、新たな試みとして、6 月 15 日、22 日、29 日の 3 回に渡り、WFP (World Food Program)で長年活躍された忍足謙朗(おしだり けんろう)氏との会談を交えたシリーズ化した講座を開催した。第一回目は、講師の出演番組を観て、知識を深め、疑問点を明確にし、第二回目は講師との会談を通じて、疑問を解決し、第三回目に生徒のみでディスカッションを行い、世界の食糧問題解決の糸口を模索した。その後も WFP の活動に関心を持

ち続け、様々な活動に参加した生徒もいた。そのうちの一人がWFPエッセイコンテストにおいて最優秀賞を受賞した。また、生徒が希望する講師を招いての講座を開催することもできた。さらに、ボランティアの生徒が講座の準備を進める体制が確立しつつある。生徒のSGH活動への関心喚起には、なくてはならない講座となっている。

②Super Global Leaders 48

ポイント制度も定着し、生徒、保護者からの問い合わせが相次いだ。自ら目標ポイントを設定し、意欲的に SGH の諸活動に参加している生徒も多い。

- ③ワールド・スタディーズ (12 年生 選択授業 4 単位) +12 年生特別授業 (12 月~1 月) 生徒に対するアンケート結果より、目標は達成できている。知識獲得のみならず、自己の 行動変容への動機づけもみられている。アクティブラーニングを通じて、下記の5つの学 習目標を達成していると思われる。
 - 1. 個人として人間の価値、他の人々の価値、社会的、文化的、家族的背景を尊重する心を育てる。
 - 2. 多様な文化が存在する社会、相互依存的な世界で生活する一員として、諸問題が自分たちに関わりのあることを知ろうとする積極性を養う。
 - 3. 他の文化の価値を発見し、それから学ぼうとする視点を重視する。
 - 4. すすんで他の人々と特に異なる文化や状況にある人々の感情や視点を想像しようとする洞察力を訓練する。
 - 5. 地域・国家・国際レベルにおいて、真の民主主義の原理を尊重し、より公正な世界を実現しようとする行動力をつける。

また、12年生特別授業では、教師用ハンドブックの原案となるアクティビティを実践し、 生徒、教師からのフィードバックを分析している。

④アフリカン・スタディーズ ボツワナ共和国、南アフリカ共和国での研修

生徒 17名が参加し、5月より毎週1回、合計7回の事前研修を行った。JICA 職員とボツワナからの留学生(大学生)を招き、現地の具体的なイメージを喚起する事前研修を実施した。また、現地校で行うプレゼンテーションを作成した。その後 2017 年7月 22 日から9日間、現地で研修に臨んだ。JICA ボツワナ支所、海外青年協力隊員が実際に活動している現場の視察や、スラム街(タウンシップ)、ロベン島(ネルソン・マンデラ氏が収監されていた監獄跡)の見学という貴重な体験を通じて、参加者は両国の現状と課題解決の困難さを身をもって感じていた。本学園のある町田市は 2020 年東京オリンピック・パラリンピックで、南アフリカ共和国のホストタウンをすることになっており、現地での広報活動の一環として今回、ケープタウンにあるセント・サイプリアンス校において、町田市 PR のためのプレゼンテーションを行った。帰国後は、報告会と課題研究発表会を数回実施した。

高校生段階において貴重な体験となるこの研修が、グローバルな課題に対する具体的なイメージを抱かせ、価値観に変化をもたらし、参加者の進路選択に多大な影響を与えている。

⑤自由研究「グローバル・スタディーズ」 (総合的学習の時間 2単位×3学年)

履修者は計 25 名で、各自で研究テーマを設定し、問題の探求や関連する諸活動への参加・イベントの企画等を通じて研究を進め、その成果を発表し、最終的には「自由研究論文」にまとめた。60 以上ある講座から希望選択した生徒の意識は高く、自発的に研究を進めた。各種発表会に多くの生徒が参加、出席し、その中の一人が第 2 回関東甲信越静地区スーパーグローバルハイスクール課題研究発表会において、英語プレゼンテーション部門で金賞を受賞した。また、今年度は 2020 プロジェクトチームとして、まず 12 年生 3 名が町田市役所に出向き、東京オリンピック・パラリンピックでのホストタウン担当者と接触し、3 年越しの活動を開始した。この活動は現在、アフリカン・スタディーズに参加した10 年生を含む 6 名に引き継がれている。この 6 名は 2019 年に開催されるラグビーワールドカップも念頭に置き、町田市内での南アフリカ PR 活動、南アフリカに向けての町田市の PR 活動に着手し始めている。他の SGH の活動と並行してグローバル・スタディーズを履修している生徒も多く、本学園の SGH の根幹をなしている。

⑥たまがわ会議

2017 年 7 月 18(火)~20 日 (木)の 3 日間に実施し、108 名が参加した。今年度のテーマを "Human-rights issue (人権問題)"と設定し、ワークショップを通じて理解を深化させた。 自主運営が定着し、実行委員の中心メンバーがリーダーシップを発揮していた。日常の活動を通じて、学年の上下関係を意識せずに生徒が自由に発言できる環境が整えられている。 ユニクロと UNHCR が共同で行っている 「届けよう服のチカラプロジェクト」への参加も 3 年目となり、近隣保育園の横の繋がりを活用し、その範囲を年々拡大してきている。 また、LGBT という高校生では扱いにくい問題に焦点を当て、自分たちで講師を決め、招聘することに成功した。多様性を理解する上で貴重な体験をし、さらに LGBT を研究課題として街頭でインタビューを実施し、それを基に論文を執筆した生徒もいた。

⑦ヨーロピアン・スタディーズ オランダ王国・スイス連邦・ポーランド共和国での研修生徒 18名が参加し、9月より合計 8回の事前研修、2017 年 1月4日(水)~1月14日(日)の現地研修、事後研修を行った。「外交」「人権」「国際協力」の分野における生徒の個人研究を深め、国際機関へのキャリア選択を実現する全人的リーダーの資質を養うグローバルな学習機会を与えることを目的とし、国際刑事法廷メカニズム、平和宮、在オランダ日本国大使館、ビネンホフ(オランダ・ハーグ)、アムステルダム)、国連人権高等弁務官事務所、国連難民高等弁務官事務所、国際労働機関、国際赤十字(スイス・ジュネーブ)、アウシュビッツ収容所、シンドラーの琺瑯工場(ポーランド・クラクフ)を訪問し、研修を重ねた。研修後、個々のテーマに基づき更に研究を深化させ、3月12日に開催した SGH・SSH生徒研究発表会にて発表した。現地の訪問先での体験は、玉川学園 SGH 研究開発計画の目的として掲げている国際機関や国際 NGO でリーダーとして活躍することのイメージを明確にし、「将来、国際機関や NGO で活躍したい」とアンケートに答える生徒が参加者の半数に及んだ。

⑧模擬国連 (自由選択科目 1単位)

10年生24名、11年生の13名が履修した。今年度は「寒冷化における食料安全保障」を テーマとし、年間を通じて、食糧安定共有を目指し、地球温暖化の先に起こりうる寒冷化 ・法・経済・農業政策などの観点から具体的な行動計画を策定した。それぞれの国に関し ての背景を調べ、それを基に Position Paper を作成させ会議に臨ませた。2018年2月3 日、4日に実施した「玉川模擬国連1日会議」には、高等学校17校から129名が参加し、 実際の国連で行われている流れに沿って意見を収束していき、決議案が承認された。事前 研修会では、FAO 駐日事務所代表のンブリ・チャールズ・ボリコ氏、政策研究大学院大学 教授の株田文博氏を講師として招聘し、人口増加や新興国の食生活の変化が与える影響、 先進国の食料ロス・廃棄問題など、食料安全を脅かす世界的な問題の概要と国際機関の取 り組みについての講義を受けた。履修した生徒の中には、個人的に世界的に行われている 模擬国連に参加した者がいた。また、2017年 10月 10日に指導者育成を目的として、全国 中高教育模擬国連研究会主催の教員対象模擬国連会議を本校で実施した。14 校 21 名の教 諭が参加し、模擬国連研究会の有志の協力の元、「シリア情勢」を議題に会議体験をした。 意欲的に取り組んでいる生徒がいる一方で、約3分の1の生徒がアンケートで否定的な回 答をしている。来年度は、初期の段階で講座開設の目的、履修生徒の未来像を明示してい きたい。昨年度の課題「初心者が多く、会議に向けての手続きの流れを十分理解していな い状態で会議形態に入ってしまった。」という点に関しては、継続履修者が多くいたため に大幅に改善された。

◆課題外研究について

《1》英語に対する取り組み

上記①~⑧の取り組みを通じて、英語習得の必要性を多くの生徒が感じており、各種検定受験者も増加している。また、教科としてアクティブラーニングを取り入れ、主体的に生徒が英語に取り組む機会を多く設けている。

《2》広報、普及に関して

学内外にホームページを通じて情報を発信しつづけている。グローバル・キャリア講座は、毎回録画、You Tube にアップし、講座に参加できなかった生徒や外部の方々でも見られるようにしている。ペガサス祭での展示、探求型学習生徒発表会(10月)での発表、教員向け模擬国連(10月)、SSH と合同で生徒課題発表会(3月)を開催した。

8 次年度以降の課題及び改善点

①グローバルキャリア講座

SGH 指定終了後の実施の可能性を模索している。これまで構築してきた国際機関、各種団体との協力関係を活用し、生徒にとって実のある講座を継続していく体系を整備する。今年度、主に木曜日の昼休みと土曜日に実施していたが、カリキュラム変更に伴い、土曜日の実施分を月曜日に実施することとなる。実施回数が減少するので、内容を精選しなければならない。

②Super Global Leaders 48

ポイント付与の基準は SGH 指定期間での変更を最小限にし、混乱を招かないようにすることとした。これまでは 9 年生からの累計ポイントで年度末に表彰していたが、来年度は、9 年生、10 年生は 1 年間の合計で優秀者を表彰することにする。その一方で、SGH 指定が残り 1 年となることから、SGH の活動に対する取り組みに消極的な生徒も増加することが懸念される。ポイント目当ての生徒がいたことも否めないが、活動への参加が自らの糧となることを更に認識させていく。

③ワールド・スタディーズ

目標は達成しているが、さらに充実したものとなるように創意工夫を重ねていく。カリキュラム変更が実施される関係で、名称変更、授業内容の再編など、見直しを迫られる。

④アフリカン・スタディーズ

来年度は、費用、移動距離の長さ、滞在時間の短さ、現地での交流プログラム改善を図るため、南アフリカ共和国のみの訪問とする方向で計画中である。その後の実施に関しては、 引率教員の負担を鑑み、ヨーロピアン・スタディーズと隔年で実施する方向を検討中である。

⑤自由研究「グローバル・スタディーズ」

来年度より、自由研究の指導体制が改変され、個々の指導者設定の分野から、教科に即した 5 つの分野(人文、社会、数学・科学、芸術、健康科学)を選択することとなる。(10 年生 から)したがって、グローバル・スタディーズを履修する生徒は、11、12 年生のみとなる。研究の内容をより充実したものにしていくためにも、専門機関の方や大学教授などにアドバイスを得る機会を更に増やしていきたいと考えている。

⑥たまがわ会議

目標は概ね達成できている。さらに充実したものとなるように創意工夫を重ねていく。

(7)ヨーロピアン・スタディーズ

世界情勢が不安定な中、安全性を確保しつつ有意義な研修にするために的確な情報を入手し行程を決定していく。現時点では、来年度も今年度と同じ行程で実施する方向である。

⑧模擬国連

目標は概ね達成できている。さらに充実したものとなるように創意工夫を重ねていく。

成果の普及を目指し、来年度も一般公開の発表会を開催していく。ペガサス祭、探求型学習研究会、生徒研究発表会を学内で開催する。また、5年間の集大成として教師用ハンドブックを編集し、出版する予定である。

【担当者】

担当課	学園教学部学園教学課	TEL	042-739-8081
氏 名	横松 健二	FAX	042-739-8929
職名	学園教学課長補佐	e-mail	k12affairs@tamagawa.ed.jp

実施報告と分析・課題・今後の取り組み

- ◆課題研究について
- 1. グローバル・キャリア講座 2017

【実施報告】

(1) 全校·学年単位講話形式

2017年10月20日に全校生徒を対象としてSSH・SGH 合同企画で、JAMSTECより高井研氏を招いて、講座を開催した後、関心の強い生徒を交えてのディスカッションを行った(①回目)。理系の分野で世界的に活躍している講師を招いたことは生徒にとって新鮮

学年	時数	講座番号
9 年生	2 時間	26回目
10 年生	2 時間	4①□目
11 年生	1 時間	① □ 目
12 年生	2 時間	349日日
全校対象	2 時間	① □ 目

で、今まで SGH の活動に関心が薄かった理系の生徒が積極的に講座に参加していた。 SSH の課題研究を進めている生徒と SGH の課題研究を進めている生徒の間で、同じ問題 に対するアプローチの仕方に違いがあることを再認識し、双方の利点に気付くことができ た点で成果があった。



高井氏に自分の意見を聞いてもらう



和やかな雰囲気に満ちた講座



熱弁を振るわれた高井氏



高井氏を囲んでの座談会

また、生徒の中から講師として招聘したい人物の名前が挙がり、実現できた初めてのケースとなった点も大きな成果であった。

(2) 学年対象

9年生から12年生の4学年を対象に計7回実施した(11年は1回、それ以外の学年は2回)。講師として、様々な国際援助活動に携わってこられた宮川(小林)佳子氏(9年、12年生対象)、ケニア「こどもたちの家」設立者である松下照美氏(10年生対象)、特定非営利活動法人国際連合世界食糧計画 WFP 協会理事で事務局長の鈴木邦夫氏(11年、12年生対象)、難民を助ける会(AAR JAPAN)から櫻井佑樹氏(9年生対象)、穂積武寛氏(10年生対象)を招聘した。



国際協力の大切さを力説する宮川(小林)佳子氏



ケニアでの活動を説明する松下照美氏



WFPの活動を説明する鈴木邦夫氏



"インクルーシブ"の大切さを伝える櫻井佑樹氏



アフガニスタンの悲惨な現状を紹介する穂積武寛氏

各講座とも、質疑応答では数々の質問が生徒から寄せられ、それぞれの講師の方々は分かり やすい言葉を選びながら温かく回答してくださった。世界各地で悲惨な現状を目の当たりに してこられた方々の言葉は重く、生徒にも十分に伝わっていた。講座が終了しても、質問し きれなかった生徒が講師の方々を中心に輪をなし、時間を惜しみながら質問している姿が見 受けられた。











本校は、SSH の指定も受けており、生徒の中には理系を選択している生徒が約3割いる。自然とSSHとSGHのどちらかを選択して活動する風潮が生じているが、SSHの課題研究が決して"グローバル"と無縁ではないことの気づきに全校生徒、学年対象のグローバル・キャリア講座が役立っている。

(3) TED 形式 (1)567(10(12)15回目)

今年度は7回、木曜日の昼休み(12:35-13:15)を利用して実施した。内閣府国際平和協力本部事務局から西村正二郎氏、元WFP(世界食糧計画)スーダン局長の忍足謙朗氏、IMF国際通貨基金シニア広報マネージャーの関岡智美氏、映画プロデューサー・ディレクターのマサ・ヨシカワ氏、玉川大学ユネスコクラブの櫻井茉奈氏を講師として招聘した。



ユーモアを交えて話される西村正次郎氏





実体験を披露された関岡智美氏



奇抜な帽子で生徒に印象付けたマサ・ヨシカワ氏



身近さが感じられた櫻井茉奈氏

TED 形式は任意参加となっているが、毎回、多くの生徒が出席し、熱気を帯びた講座となっ ている。上級生の参加姿勢を下級生が目の当たりにできることが生徒の成長にもつながって いる。質問の質も高く、講師の方々から好意的なコメントをいただいている。また、7月に 実施した「たまがわ会議」では、ユニクロと UNHCR が共同で行っている「届けよう服のチ カラプロジェクト」に参加し、株式会社ファーストリテイリング・ユニクロから、田部裕作 氏と本校の卒業生でもある安田徹氏を招聘し、プロジェクトに関する講義をしていただい た。そして、今年度のテーマ、"Human Rights"に関連した LGBT 問題に関する理解を深 化させるために東京レインボーブライド共同代表、NPO ハートをつなごう学校代表である 杉山文野氏を招聘した。杉山氏は生徒側から講師招聘の希望が出て、実現した講義となった。



熱弁を振るわれる杉山文野氏



プロジェクトの趣旨を説明する安田徹氏



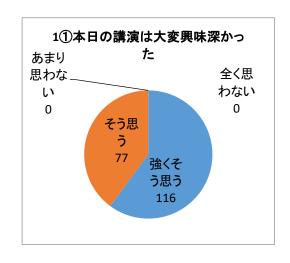
質疑応答で生徒の声に耳を傾ける田部裕作氏(右)

人権を様々な角度から掘り下げるために、4月より生徒たちはたまがわ会議に向け準備を進めてきた。その際、高校生として扱いにくい LGBT の問題にも切り込んだ。当日、生徒にどのような反応があるのかを客観的に観察していたが、多様性を受け入れる姿勢が身についており、真剣に講義に耳を傾けている姿が印象的であった。

オフサイト形式(学外での講座)を今年度もスーパーグローバル大学に選出されている立教 大学との連携により3日間(7月25日~27日)実施する予定であったが、参加希望者が定 員に届かず、やむなく中止とした。英語検定準1級以上が参加条件となっており、それがハ ードルとなってしまった。来年度、違った形式で実施する方向性を模索していく。

【分 析】

それぞれの形式で、目標である「本学 SGH 研究課題の 5 分野一貧困、人権、環境、外交、国際協力―に関する理解を深める」、「国際機関での仕事とはどのようなものか、キャリアイメージを持つ」という点に関しては、ほぼ目標を達成していることが生徒に対するアンケート結果から推測できる。

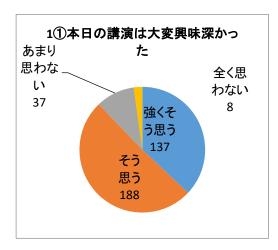


第1回 西村 正二郎氏

出席者数:193名

生徒のコメント:

PKO がメディアで取り上げられることがあるが、実際の活動には様々な側面があることがわかった。

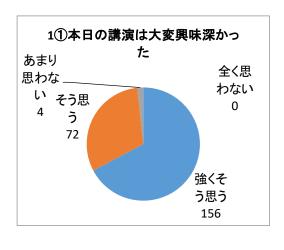


第2、3回 宮川(小林)佳子氏

出席者数:370名

生徒のコメント:

「外の世界を知るために、まずは自分の 国のことを知らなければならない」とい う実体験を伴った言葉が印象に残りま した。自分に不足していた部分だと思い ました。

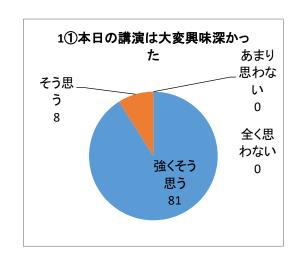


第4回 松下 照美氏

出席者数:232 名

生徒のコメント:

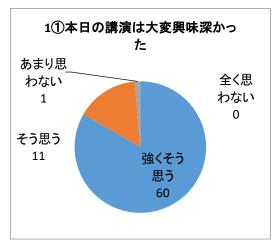
シンナー中毒が子供たちにも蔓延している ケニアの現状にショックを受けました。身の 危険もある中で、愛情をもって一人でも多く の子どもを救おうとしている先生の姿に感 動しました。私も何かお役にたてることをし たいと思います。



第6回 忍足 謙朗氏

参加者数:89名

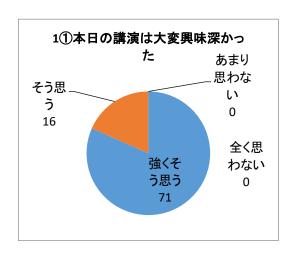
生徒のコメント: WFP がとてつもない規模の 物資配給を行っていることに驚きました。その 中で、決断を下すことの難しさをお話を通して 知りました。いろいろな国の方々を取り仕切る ことの難しさも知りました。



第8回 杉山 野氏

出席者数:72名

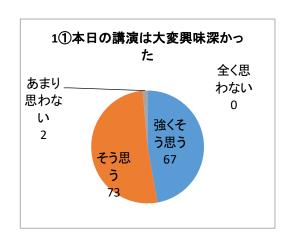
生徒のコメント:多様性を受け入れることは簡単にはできない人が多いと思いました。まずは相手の身になって理解しようと努力することから始めることが大切だと感じました。私はヘイトスピーチが大嫌いなので、今日の体験を共有できるようにしたいと思いました。

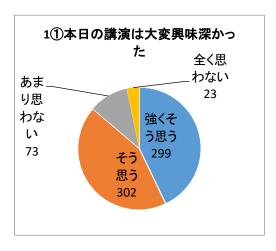


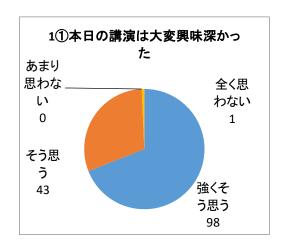
第9回 田部 裕作氏・安田 徹氏

出席者数:87名

生徒のコメント:私はよくユニクロで衣類を購入するが、要らなくなったら捨てていた。誰かの役に立つなんて考えもしなかった。ただ売るだけでなく、不要になった物品を困っている方々に利用してもらうという企業の姿勢に感銘した。これからは捨てないで役立てたい。







第10回 関岡 智美氏

出席者数:142名

生徒のコメント:先進国の常識が通じない状況があることを知り驚きました。IMF は教科書では目にしたことはありましたが、その業務内容は今日初めて知りました。これからはただ機関の名称を覚えるだけでなく、何をしているのかを知るべきだと感じました。

第11回 高井 研氏

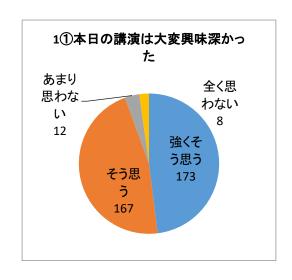
出席者数:697名

生徒のコメント:今回の内容はとても興味が持てるものだった。なぜ勉強しなければならないのか理解できた気がした。壮大な事業を取り仕切っている方の印象が大きく変わった。自分も将来、何か大きなことができるような気がした。

第12回 マサ・ヨシカワ氏

出席者数:142名

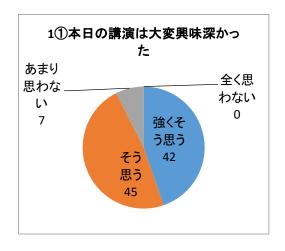
生徒のコメント:「興味があることをまずやって みる」という言葉は、実際に興味を持ち続け、努力して職業に結び付けたマサさんが言うと重み がある。世界に通用する人たちはきっと、同じよ うな生き方をしているのではないかと思った。



第13、14回 鈴木 邦夫氏

出席者数:360名

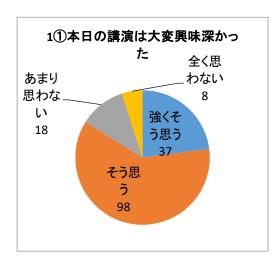
生徒のコメント:日本の廃棄食糧の多さに愕然 としました。廃棄しないで済むなら、飢餓に苦 しんでいる世界中の人々を救うことができる のに。まずは私たちの毎日の生活を見直さなけ ればならないと思いました。「もったいない」 という言葉が日本から失われてきているのだ と思います。



第15回 櫻井 茉奈氏

出席者数:94名

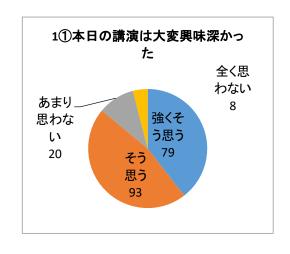
生徒のコメント:私はユネスコに興味があったので、今日、玉川大学にこういう活動をしているサークルがあることがわかって、とても有意義でした。私も将来、大学生になったら活動したいと思います。



第16回 櫻井 佑樹氏

出席者数:161名

生徒のコメント:紛争や内戦は食糧難や貧困に 直結する問題だと思っていましたが、障がい者 の支援もあることに気づかされました。インク ルーシブな教育環境の大切さも学びました。 今、日本にいながら私たちができる書き損じは がきの回収を積極的に実行したいと思います。



第17回 穂積 武寛氏

出席者数:200名

生徒のコメント:アフガニスタンの障がい者の現状がよくわかりました。インクルーシブは健常者側の意識改革を行わなければなりませんが、それが一番難しいことなのかもしれません。私も将来、障がい者支援の仕事につこうと考えています。障がい者だけでなく健常者へのアプローチも大切なことを覚えておこうと思います。

どの回も、肯定的な意見が8割を超えている。目標がほぼ達成されていることが分かる。 また、講座の準備、進行、片づけに生徒が積極的に関わるようになった点が今年度の成果で ある。また、出席できなかった生徒や家庭で話題とする時の題材として、各講座は録画し、 QR コードを貼り付け、You Tube にアップしている。

【課題と今後の取り組み】

TED 方式に参加する生徒が固定化されつつある。国際機関や活動に強い興味関心を示す生徒が参加している。生徒へのアプローチの仕方を改善し、多くの生徒が興味を示す講座にしたい。一番の課題は、今後の継続方法である。来年度、本校はカリキュラム変更に伴い、土曜日の授業が廃止される。月曜日の1時間目に移行するが、予定では学年単位でのグローバル・キャリア講座回数が今年度の3分の1となる。また、講師との調整連絡役として事務員を雇用しているが、SGH 指定終了後は、教員のみで行わなければならなくなる。これまで培ってきた人脈とノウハウをどう役立てていくか、現在、協議中である。



グローバルキャリア講座 2017 スケジュール



日付	時間	講師(敬称略)	所属	形式	略歴 【テーマ分野】
① 4/27(木)	12:45- 13:15	西村正二郎	内閣府 国際平和協力本部事務局 (PKO)	TED 方 式	東京外語大卒業後、アメリカン大学で、 国際平和・紛争解決の専門で修士号を取 得されました。国連南スーダンミッショ ンでは情報分析官、国連アフガニスタン 支援ミッションでは政務官・特別補佐官 として勤務され、その後、外務省緊急・ 人道支援課、在南スーダン大使館、国連 代表部にて、安全保障理事会などで国連 による紛争対応に関する業務に従事。 【外交・国際協力】
②③ 5/13 (±)	9:00- 9:50 10:10- 11:10	宮川 (小株子	元 JICA ・ ピース・ウィ ンズ・ジャパン・日本赤十 字・外務省職員	9年12年	高等部出身。2006 年東海大学政治経済学部を卒業後、2007 年英国イースト・アングリア大学大学院開発学部で紛争・ガバナンス・国際開発修士号取得。その後、UNHCR 駐日事務所インターン、青年海外協力隊(ケニア)を経て、緊急・復興支援に従事するようになる。国際 NGO・ピース・ウィンズ・ジャパンではケニア駐在員として難民支援に携わる。その後、東京を拠点として、日本赤十字社本部では東日本大震災復興支援事業・シリアをは東日本大震災復興支援事業・シリアカにおける紛争後の復興支援事業等を担当、外務省におの復興支援事業等を担当、外務省による国際緊急援助隊派遣や緊急援助物資供与等を担当。現在は主婦。【外交・国際協力】
④ 6/10 (±)	9:00- 9:50	松下照美	ケニア・「こどもたちの 家」設立者	10 年	45 年徳島県生まれ、68 年玉川大学文学 部芸術学科卒。幼稚園に勤務しながら反 核・平和活動に参加。徳島に生活の拠点を移し、作陶生活に入る。94 年にウガン ダで子どもたちの施設でのボランティアをきっかけに、96 年ケニアへ移住し NGO を設立。ウガンダで「HDCC」を設立し「子どもたちの家」を開設し、路上の子どもを追った映画「チョコラ!」撮影に参加。2009 年映画とともに 4 か月間日

⑤ 6/15 (木)	12:45- 13:15	TBS 情熱大陸 「忍足謙朗~ 国連職員」視 聴(2006)		TED 方 式	本を巡り、2010 年新「子どもたちの家」 をオープンした。 情熱大陸視聴 (27 分・2006) 、NHK スペ シャル (2014) 紹介 【外交・国際協力】
⑥ 6/22(木)	15:45- 17:30	忍足謙朗	元 WFP (世界食糧計画) ス ーダン局長	TED 方	30年以上にわたって国際連合に勤務し、1989年からは国連世界食糧計画 (World Food Program WFP) に勤め、特に紛争地、自然災害地、などで緊急食糧支援を行う。2006年にスーダン共和国にて、当時、世界最大規模の緊急支援を指揮。77国籍からなる、3000人のスタッフを統括する。2009年から2014年、WFPアジア地域局長に就任。タイ、バンコクをベースにアジア14カ国の支援の総責任者となる。紛争が続くアフガニスタンから、政治的に複雑な北朝鮮などの現場にも何度も入り、指揮をとる。この道のリーダー的存在として2006年にTBS「情熱大陸」、2014年にNHK「プロフェッショナルー仕事の流儀」に出演する。2015年から日本で活動を始めて、国際協力に興味を持つ若い世代の育成に力を入れている。アメリカ、バーモント州、School for International Trainingで国際行政学一修士号を取得。番組を踏まえた質疑応答&ディスカッション
⑦ 6/29 (木)	15:45- 17:30	生徒 自主セッシ ョン	前週受けての討論	TED 方 式	「私たちの行動計画」グループワーク、 成果物提出
⑧ 7/19 (水)	13:00 -14: 00	杉山 文野	東京レインボープライド 共同代表理事、セクシュ アル・マイノリティーの 子どもたちをサポートす る NPO 法人ハートをつな ごう学校代表	たまが わ会議	フェンシング元女子日本代表。早稲田大学大学院にてジェンダー論を学んだ後、その研究内容と性同一性障害の診断を受けた経験を織り交ぜた『ダブルハッピネス』 (講談社)を出版。韓国語翻訳やコミック化もされ話題を呼ぶ。渋谷区男女平等・多様性社会推進会議委員も務め、日本初となる同区の同性パートナーシップ証明書発行にも携わる。

⑨ 7/20 (木)	9:00- 10:00	安田 徹田部裕作	株式会社ファーストリテ イリング 『服のカ』プロジェクト	たまがわ会議	1999 年玉川大学文学部卒業後、東海大学 附属相模高等学校 体育科勤務。株式会社ファーストリテイリングに入社し、静岡市に配属。日本各地で店長として勤務し、2012 年に中国上海オフィスでの勤務も経験。2015 年より現職。株式会社ユニクロ町田鶴川店店長。2010年京都大学法学部卒業。2011年株式会社ユニクロに入社。大阪の店舗に配属され、半年後に店長、1年後に東京本部マーケティングチーム配属。その後店舗に帰任し、様々な店舗で店長を経て2016年現任。
⑩ 9/28(木)	12:45- 13:15	関岡 智美	International Monetary Fund 国際通貨基金シニ ア広報マネージャー	TED 方 式	高校卒業後、英国へ留学。事情により中退し帰国。様々な職を経てテンプル大学ジャパン(教養学部経済学科)に編入。大学在学中の1997年からブルームバーグニュース東京支局でインターンを始め、卒業後は記者(英語ニュース)として金融・通信業界などを担当。2007年に記者から広報に転身し、日系および外資系企業で広報を担当。2010年にIMFアジア太平洋地域事務所の広報マネージャーとして着任。フルタイムで働きながら1年間大学院に通い、2012年早稲田大学公共経営研究科修了、公共経営修士号取得。現在はメディア対応、国際会議およびセミナーの企画・運営、一般向けのアウトリーチ、採用広報などを担当。
① 10/20(金)	8 : 30– 11 : 15	高井 研 生徒発表お よびディス カッション	国立研究開発法人 海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 深海·地殼内生物圏研究 分野 分野長 (農学博士)	全学年	超好熱菌の微生物学、極限環境の微生物生態学、深海・地殼内生命圏における地球微生物学を経て、現在は地球における生命の起源・初期進化における地球微生物学および太陽系内地球外生命探査にむけた宇宙生物学を研究。 1997年京都大学大学院農学研究科水産学専攻博士課程修了。日本学術振興会特別研究員、科学技術振興事業団科学技術特別研究員、米国パシフィックノースウェスト国立研究所博士研究員を経て、2000年海洋研究開発機構(当時海洋科

					MALL //- 1
					学技術センター)入所。2005 年地殻内微
					生物研究プログラムグループリーダー
					を経て、2014年より現職。第8回日本学
					術振興会賞(2012年)、第8回日本学士
					院学術奨励賞(2012年)など受賞。
					日本とアメリカで、プロデューサー、ラ
					 イター、コーディネーター、ジャーナリ
					 ストなど、映画、テレビ、ミュージック
					 ビデオなど映像の仕事にさまざまな立
					場で幅広く携わる。「ロスト・イン・ト
					ランスレーション」(2003/ソフィア・
(12)	12:45-	マサ・ヨシ	 映画プロデューサー・	TED 方	フンパレーション] (2000)フライッ コッポラ監督)、「アートフル・ドヂャ
11/16(木)	13:15	カワ	ディレクター	式	一ス」(1998/保田卓夫監督)などの映
11/10()()	10.10	73 7	7,1000	10	一次」(1990)は出手八温目)などのは
					画しも表げヘメックを彷めた。「ミッヤー タニの猫」(2006/リンダ・ハッテンドー
					フ監督)では共同制作・撮影を勤める。
					2016 年に『ミリキタニの猫』の追悼編と
					も言うべき短編『ミリキタニの記憶』を
					製作・監督。
					1958 年生まれ、愛知県出身。東京大学文
	10:10-		 特定非営利活動法人		学部卒業後、㈱電通へ入社。海外事業、
13(14)	11:10		│ │国際連合世界食糧計画	11 年	│海外外資企業の日本国内での広告キャ │
11/18(土)	11:20-	鈴木 邦夫	WFP 協会	12 年	ンペーン、 日系企業の海外キャンペー
	12:10		理事・事務局長		ンなどを担当。欧州、中国での駐在をは
					じめ海外での事業体験多数。2015年3月
					(㈱電通 退社し、2015年10月より現職。
					2003年にサークルとして設立され、2005
					年に文化会として認可、2012年5月には
15)	12 : 45-	櫻井 茉奈	 玉川大学ユネスコクラブ		日本ユネスコ連盟及び東京都ユネスコ
1/18(木)	13 : 15	日下部 遼	エ州八子ユギバコブラブ	TED	連絡協議会に組織登録され、広い国際的
				方式	視野を養い、世界の様々な方と交流する
					ことを目的として活動している。
					1978 年生まれ。中央大学卒業後、原子力
					安全研究協会、日本地雷処理を支援する
16	10 : 10-	+111 +1- 14-14-1	難民を助ける会		 会に勤務。タジキスタンやザンビアの事
1/27(土)	11 : 00	櫻井 佑樹	(AAR JAPAN)	9 年	務所に勤務後、2016年より難民を助ける
					会へ所属。東北事業の福島支援を担当。
					 千葉県出身。
(17)	11 : 20-		難民を助ける会		 1967 年生まれ。大学で英語を専攻後、当
2/10(±)	12 : 10	穂積 武寛	(AAR JAPAN)		時の国際協力事業団(現国際協力機構、
_,			(1001 0/0 /01/		53・2 国内の300 プイスロー(の自体の)の1次件、

プログラム・マネージャー

10 年

JICA)に入り、開発途上国向け技術協力 事業に携わる。JICA 退職後、大学院進学 を経て 2009 年に AAR に入り、海外での 緊急人道支援に従事。現在は総務・人事、 啓発事業を担当。NGO 安全管理イニシア ティブ (JaNISS) 世話人代表も務める。 東京都出身。













2. Super Global Leaders 48

【実施報告と成果】

2014年度より SGH 諸活動への参加を促すため、「玉川学園スーパーグローバルリーダーズ 48 (SGL48)」システムを構築して 4 年が過ぎた。SGH の関連活動への参加、語学資格の 取得、各種イベント・コンテストへの挑戦、海外研修、ホームステイ受け入れなどに対して ポイントを付与する仕組みである。各個人のポイント管理は SGH 事務局で行い、生徒は普 段学校連絡やメールにて使用している教育ネットワークシステム (CHaT NET) により、累積ポイントや全校及び学年における順位を確認できる。年度末には、ポイント上位獲得者に 対して表彰を行う。活動記録証明書も発行できるようにし、推薦入試等でも活用がみられる。 本年度も SGH の諸活動に参加を促すという役割を十分に担っていたと考えられる。特に保護者への認知度が上昇している。

【成 果】

- 1. 自ら目標ポイントを定め、取り組んでいる生徒が見受けられた。ポイント付与の基準を明確にし、生徒、保護者に理解しやすいように提示した。
- 2. ポイントに関する生徒、保護者からの問い合わせが多くなった。活動証明書の存在と活用方法が周知徹底できたからであると思われる。

【課題と今後の取り組み】

SGH 指定期間が残りわずかであることから、2年後にはポイント制度が廃止されるという 憶測が生徒内にあり、SGH の活動に対する取り組みに消極的となった生徒が増加した。ポ イント目当ての生徒がいたことも否めないが、活動への参加が自らの糧となることを周知 徹底させたいと考えている。また、SGH 指定終了後も名称を変更し、内容を精選した上で このポイントシステムを継続する方向で検討中である。

●2017 年度生徒参加 SGL48 登録項目の一部(学内含)

玉川模擬国連1日会議参加
MUN in K-International School 参加
アルク翻訳コンテスト 2017 出場
東洋英和女学院レシテーションコンテスト出場
瀬戸内・松山国際写真俳句コンテスト(英語)応募
関東甲信越静地区 SGH 生徒課題研究発表会 金賞受賞
慶応大学未来構想キャンプ参加
高校生のための議員インターンシップ参加
上智大学講演会「人間の安全保障の役割」参加
筑波大ジュニア・グローバルリーダーズプログラム選出
JICA エッセイコンテスト 優秀賞受賞
カナダ留学フェア参加
アメリカ留学 EXPO 参加
国際機関合同就職説明会参加
UNHCR 難民高等弁務官講演会出席
学内 探求型学習研究会生徒発表
学内 英語レシテーションコンテスト出場
学内 SGH サポートボランティア

●生徒に提示したポイント



GTEC 550~649 点

TOEFL 57~86 点

IELTS 4.0∼5.0



玉川学園スーパーグローバルリーダーズ 48 活動の概要

文科省から本学への「スーパーグローバルハイスクール」指定に伴い、「グローバルな」諸活動への生徒参加を促すために各活動へポイントを付与し、在学中に貯めた獲得ポイントに応じて上位の生徒を「玉川学園スーパーグローバルリーダーズ 48」として認定、表彰する学内制度です。

*玉川学園 SGH 研究課題名は「国際機関へキャリア選択する全人的リーダーの育成」です。

*この活動は、玉川学園 SGH 課題研究内の基礎育成ステージとして位置づけられています。

*グローバルキャリア (GC) 講座とは、国際機関の多くが扱っている主要 5 領域 (本学課題研究テーマ=貧困、人権、環境、外交、国際協力) の専門家を国内外の大学や国際機関から招いて講話を聞いて知的基盤を構築する連続講座です。

*対象となる検定・資格は中 3~高 3 までの在学中全て、その他の記録は中学 3~高校 3 年次、高校 1 年次入学者は 3 年次までの累積加算になります。 2017年4月

ポイン ト数	活動名	ポイン ト数
5	グローバルキャリア (GC) 講座参加	3
5	英語エッセイコンテスト応募	3
5	英語を使った各種コンテスト応募	3
5	レシテーションコンテスト入賞	3
5	英検準2級	3
5	TOEIC 385~549 点	3
5	GTEC 350~549 点	3
5	TOEFL 40~56 点	3
5	JICA 高校生国際協力エッセイコンテスト応募	2
5	日本国連協会「高校生のスピーチコンテスト」応 募	2
5	課題研究テーマに関するコンテスト応募	2
4	高 3 (12 年)ワールド・スタディズ、WSE 修得	2
4	自由研究グローバル・スタディズ修得	2
4	自由研究アドベンチャー研究修得	2
4	高 2(11 年)「英語会話」修得	2
4	中 3~高 3(9~12 年)「模擬国連」修得	2
4	ラウンドスクエア実行委員 or 社会奉仕実行委員	2
4	留学フェア参加	1
4	大使館イベント参加	1
4		
4		
4		
4		
4		
	ト数 5 5 5 5 5 5 5 5 5 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	ト数 店動名 5 グローバルキャリア (GC) 講座参加 5 英語エッセイコンテスト応募 5 英語を使った各種コンテスト応募 5 英検準2級 5 万0EIC 385~549点 5 GTEC 350~549点 5 TOEFL 40~56点 5 JICA 高校生国際協力エッセイコンテスト応募 5 財 無国研究テーマに関するコンテスト応募 4 高3 (12年) ワールド・スタディズ、WSE 修得 4 自由研究グローバル・スタディズ修得 4 自由研究アドベンチャー研究修得 4 高2 (11年) 「英語会話」修得 4 中3~高3 (9~12年) 「模擬国連」修得 4 ラウンドスクエア実行委員 or 社会奉仕実行委員 4 日本 4

4

4

4

3. ワールド・スタディーズ

【実施報告】

- ① 12年生公民科選択科目(4単位) ワールド・スタディーズ
- (1) 参加者

ワールド・スタディーズ

22 名

環境・人権学(12~2月12年生特別講座)

17名 延べ39名

- (2) 日時
 - ① ワールド・スタディーズ 4月~12月 4単位・火曜および金曜の3~4時限目 計79時限
 - ② 12 年生特別授業 環境・人権学 1 月中 計 20 時限場所 高学年校舎 315 教室

(3) 内容

①ワールド・スタディーズ

学習目標

- ○個人として人間の価値、他の人々の価値、社会的、文化的、家族的背景を尊重する心を育てる。
- ○多様な文化が存在する社会、相互依存的な世界で生活する一員として、諸問題が自分たちに関わりのあることを知ろうとする積極性を養う。
- ○他の文化の価値を発見し、それから学ぼうとする視点を重視する。
- ○すすんで他の人々と特に異なる文化や状況にある人々の感情や視点を想像しようとする洞察力を訓練する。
- ○地域・国家・国際レベルにおいて、真の民主主義の原理を尊重し、より公正な世界を実現しようとする行動力をつける。

成績評価

ダイアリー・期末レポート・スクラップブック・グループワーク・学習参加度で評価。

評価割合 <レポート30%・ダイアリー30%・スクラップ20%・授業態度20%>

5 (100-85) 4 (84-70) 3 (69-50) 2 (49-35) 1 (34-0)

- ○各テーマはグループワークとディスカッション中心のアクティブラーニング方式で行われた。
- ○新聞スクラップ学習は以下の SGH の個人研究テーマ分野(貧困・人権・環境・外交・国際協力)より選択させ、4~11 月末まで探究させた。

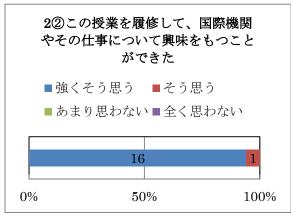
使用副教材

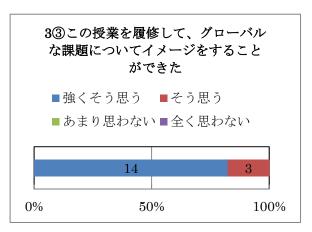
- ・ 「私と世界 6 つのテーマと 12 の視点」綾部真雄編 メディア総研
- 新聞記事、他

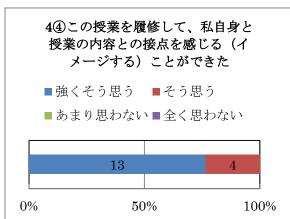
<u>時期</u> 4月	1	4月11日	<u>2017</u> 導入	WSとは何か
47	2	4月11日	等八	自分の意見を主張する
	3		メディアの中の偏見	スクラップテーマ登録・1日のニュース
	4	4月14日		1日のニュース
	5	4月18日		イメージと認識・全体の絵~開発途上国における貧困のイメージと現実
	<u>6</u>	4月18日 4月21日		イメージと認識・全体の絵〜開発途上国における貧困のイメージと現実 雑誌のなかのイメージ
	8	4月21日		ファッションモデル新聞記事・映像・フェイクニュース
	9		グローバル化	グローバル化は人を幸せにしたか
	10	4月25日		若い女性と水夫
	11	4月28日		副教材より映像 中国とパプアニューギニア
	12	4月28日		CMの分析
	13 14	5月9日	貧困とは何か	恐怖の文化 ボーリングフォーコロンバイン 無人島ゲーム
5月	15	5月12日	真图とは同か.	桑桑と小猫
<u> </u>	16	5月12日		貧困の輪
	17	5月16日	メディア	テレビ朝日出張授業「ニュース番組のつくられ方」
	18	5月16日	~==.	テレビ朝日出張授業「ニュース番組のつくられ方」
	19		貧困とは何か	ソリウスサムラ「エチオピア飢餓地帯を行く <u>」</u>
	20 21	5月19日 5月30日		<u>討論</u> 貿易ゲーム
	22	5月30日		貿易ゲーム
6月	23		人口問題	人口問題シミュレーション・途上国版+日本編
	24	6月2日		発表
	25		貧困、テロリズム、行動	映画「わたしはマララ」
	26	6月6日		映画「わたしはマララ」・討論
-	27 28	6月13日	難民問題とは何か	難民写真の分析
	28	6月16日	天正人 回処とは刊か	難民問題シミュレーション ドキュメンタリー Living with Refugees
	30	6月16日		討論
	31		貧困と闘う	ドキュメンタリー 忍足氏
	32	6月20日		討論・WFPエッセイコンテスト執筆
	33		偏見と闘う	In Group Out Group
7月	34 35	6月23日 6月27日		<u>討論</u> 青い目茶色い目
/ /3	36	6月27日		討論
	37		シティズンシップ教育	
	38	6月30日		都議選模擬選挙
	39		国際協力	異文化体験BafaBafa
	40	7月4日		異文化体験BafaBafa
	41 42	7月7日	未来	未来の想像図
	43	7月7日	国際協力	Future Time Lines ゲストスピーカー Harry氏
	44	9月5日		ゲストスピーカー Harry氏
	45		人権とは何か	子どもの権利条約
	46	9月8日		子どもの権利条約
	47	9月12日		私たちの権利宣言
10月	48 49	9月12日 9月22日		権利の侵害「世界がもし100人の村だったら」 権利と責任
ЮЭ	50	9月22日		権利と責任
	51		SDGsとは何か	2030までの気候変動 未来のシナリオ
	52	9月26日		2030までの気候変動 未来のシナリオ
	53	9月29日		ゲーテ生合同授業「気候変動インタビュー」「SDGsのゴール分析」
	54 55	9月29日 10月3日		ゲーテ生合同授業「SDGsのゴール分析」 クローズアップ現代「SDGs」
11月	56	10月3日		テローステック現代「SDGs」 Future Wheels「SDGsを考える」
,,	57			ゲーテ生合同授業「スナッピードラマ」
	58			ゲーテ生合同授業「SDGsドイツと日本の比較」
			権利と対立	こどもの権利条約 権利の対立に関するマンガ
		10月13日	~ .= , ~ , .> ~ ++ ~	こどもの権利条約 権利の対立に関するマンガ
		10月17日	<u>シティズンシップ教育</u>	<u>衆院選模擬選挙</u> 衆院選模擬選挙
	63		平和と外交	ピースフルネゴシエーション
	64	10月24日		ピースフルネゴシエーション
		10月31日		ドキュメンタリー「ノーマンミネタ9.11を救った日系人」
		10月31日		ドキュメンタリー「ノーマンミネタ9.11を救った日系人」
	67 68	11月7日 11月7日		ドキュメンタリー「5月の14日間」 ドキュメンタリー「5月の14日間」
	69	11月10日	平和と自分	図形合わせ
		11月10日		図形合わせ・TEDシェーンコイサン「To This Day」
	71	11月14日		平和メッセージ合わせ
12月	72	11月14日		「兵役拒否~イスラエル18歳の決断」
		11月17日		「兵役拒否~イスラエル18歳の決断」・討論
		11月21日 11月21日		<u>ミリキタニの猫</u> ミリキタニの猫/討論
			未来と行動	ミウイダーの個/ 計画 Future Time Chairs
		11月24日		人生ロードマップ
	78	11月28日		USA for Africa
環境人材		2年特別授		
		12月12日	気候変動	2.玉川環境2封印された封筒
		12月15日		3.玉川環境3意見交換の輪
1月		<u>12月15日</u> 1月12日		5.玉川環境5気候変動の未来の輪 6.玉川環境6気候変動の緩和対策
. /3		2018/1/16,19	外交	0.玉川環境のXI恢复動の機和対象 7.玉川外交国際1リーダーシップの特性
	84			8.玉川外交国際2変化の担い手
	85	1月23日		18.玉川どこで一線を越えますか
		1月26日		9.玉川環境7人権と気候変動
	87		トたいナケン	22.玉川バナナの旅
2月	88 89		<u>人権とは何か</u> 未来	23.玉川子供の仕事と児童労働 16.玉川未来の袋
-/3	90		気候変動	24.玉川気候変動の未来
		_,		

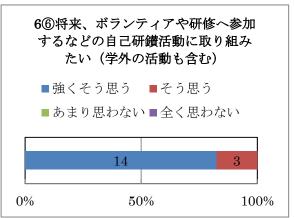
【分析】

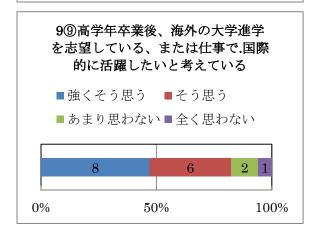
(3) 年間評価表から

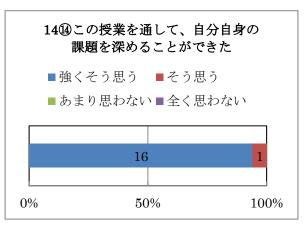












履修生徒による年間フィードバックシートの結果からみると、今年度も学習目標の達成を鑑みられる。特に、学習内容を自己の行動変容へつなげようという動機付け、および、本校 SGH 研究課題の国際機関へ対するイメージは生徒に植え付けられたのではないかと推察される。

② 12 年生特別授業「環境・人権学」 【実施報告】

学習テーマ 環境(気候変動)、人権、外交 実施日

79	12月12日	気候変動	2.玉川環境2封印された封筒
80	12月15日		3.玉川環境3意見交換の輪
81	12月15日		5.玉川環境5気候変動の未来の輪
82	1月12日		6.玉川環境6気候変動の緩和対策
83	2018/1/16,19	外交	7.玉川外交国際1リーダーシップの特性
84	1月19日		8.玉川外交国際2変化の担い手
85	1月23日		18.玉川どこで一線を越えますか
86	1月26日		9.玉川環境7人権と気候変動
87	1月30日		22.玉川バナナの旅
88	1月30日	人権とは何か	23.玉川子供の仕事と児童労働
89	2月2日	未来	16.玉川未来の袋
90	2月2日	気候変動	24.玉川気候変動の未来

SGH 指定 5 年間の成果物として、2019 年に本校の実践を元にした教師用のハンドブックの 出版を予定している。これは本校のハイパネル委員長の David Selby 氏(サスティナビリティフロンティアーズ)と共同出版する予定であるため、SGH 研究テーマのなかでも環境と人権に主に焦点をあてたアクティビティを行った。

【分析と成果】

以下、授業履修生徒の授業の様子と事後アンケートの結果を掲載する。データの結果をみると、ほとんどの生徒が授業を通して、グローバルな課題と自分との接点を見出すことが出来たと回答した。また、知識獲得のみならず、自己の行動変容への動機付けもみることができた。2018年度にかけて約100の新規アクティビティをテストしてフィードバックしていく予定である。さらに、本校のSGH研究課題である「国際機関へキャリア選択する全人的リーダーの育成」においても、国際機関への興味関心を高める効果をみることができた。

テーマ【人権】世界人権宣言と気候変動



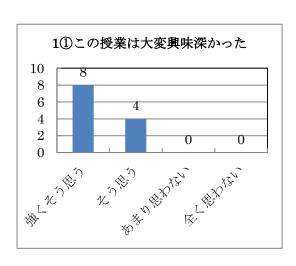


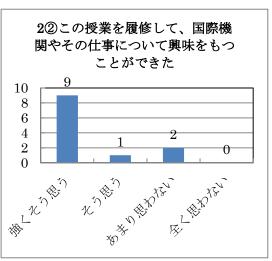
テーマ【外交】

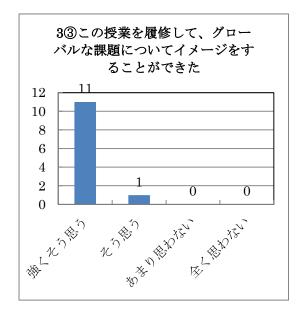


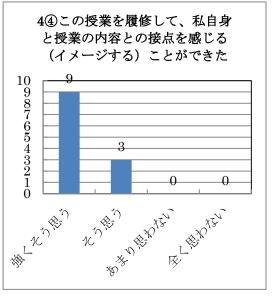


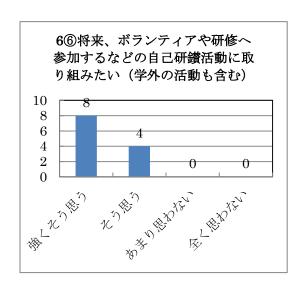
○年間フィードバック結果











4. アフリカン・スタディーズ 2017

【実施報告】

参加者: 生徒 17名 (11年 男子4名、女子5名、10年 男子2名、女子6名) 引率教員 2名 添乗員 1名(JTB)

日 時: 2017年 7月22日(土)~7月30日(日) 9日間

場 所: ボツワナ共和国、南アフリカ共和国

内容: ・マル・ア・プラ高校(ボツワナ)訪問

・JICA ボツワナ支所での研修及び JICA プロジェクト視察

・セイント・サイプリアン高校(南アフリカ)訪問とプレゼンテーション

・ロベン島(ネルソン・マンデラ氏が収容されていた刑務所跡)見学

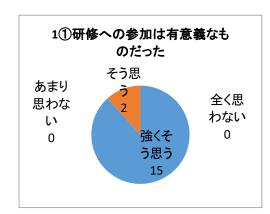
・タウンシップ(貧困層の人々が生活する区画)訪問

・ボルダーズビーチ (ペンギン保護地区) 見学

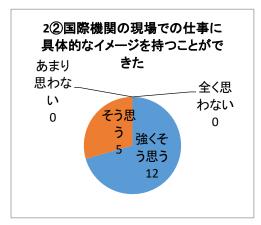
【分析と成果】

- ・ボツワナ共和国、南アフリカ共和国が抱える問題を生徒が認識し、その問題解決への支援 の有り方を考える機会を得た。
- ・アフリカ現地での体験をすることにより、日本で自分なりにイメージしていたアフリカと 印象を新たにすることとなり、ステレオタイプで物事を判断してはいけないという認識を 持つことができた。
- 「アフリカ」には沢山の国々があり、それぞれの特徴があるということを認識することができた。

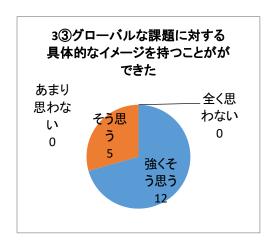
- ・アフリカ大陸では比較的恵まれている、ボツワナ共和国や南アフリカ共和国においても、 水不足や電力不足があることを現地で実際に体験することにより、日本における生活が豊かなものであるということを実感することができた。
- ・もともと海外支援に興味関心のある生徒が研修に参加したが、JICAでの研修は、生徒たちを刺激し、将来的にも海外支援に携わる職業を選択してみたいという喚起となった。
- ・セイント・サイプリアン高校で、玉川学園のある町田市についてプレゼンテーションをする機会を得たことにより、ケープタウンの高校生に町田市のことを紹介することができただけでなく、改めて日本の高校生である自分たちの生活や行動を客観的に振り返ることができた。
- ・プレゼンテーションを現地で行うことで、その練習を重ねたことにより、そのスキルがアップした。
- ・文化祭や「学びの技」発表会などでの展示発表を通じて、問題や課題を多くの生徒と共有 することができた。
- ・今回は、事前学習をしっかりと行ったことにより、アフリカ南部の歴史や文化などをある程度予備知識を入れた状態で現地に行くことができ、現地での様子を理解するうえで役立った。



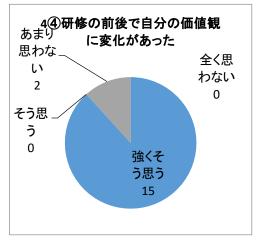
研修後に行ったアンケート結果を掲載する。まず、①の「研修への参加」に関して、全員が肯定的な印象を持っている。感受性が高く、柔軟に物事を判断できる高校生の段階において、アフリカというイメージだけが先行してしまう地域で研修を行うことはかなり意義があるものだと判断できる。



次に、②「国際機関の仕事のイメージ」に関しても、 全員が肯定的な意見を示している。JICA ボツワナ支 所訪問は、特に参加生徒から高評価を得た。青年海外 協力隊員が実際に活動している現場を訪問したこと で、イメージが確立されたものと思われる。



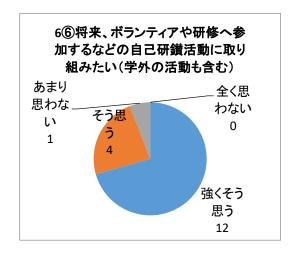
③「グローバルな課題へのイメージ」も全員が肯定的な回答をしている。南アフリカ、ケープタウン郊外でタウンシップを訪問したことが、特に印象に残っているというコメントがほとんどであった。

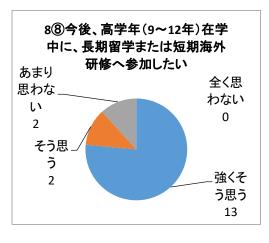


④「価値観の変化」は、事前学習で得た知識と現地での体験に大きなズレがあったためだと思われる。あまり変わらなかったと回答した2名のコメントは、研修前から世界の紛争地域や貧困に苦しむ国々の状況を把握し、理解が深かったためというものだった。

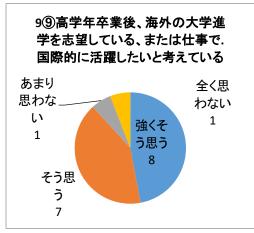
⑤「ボランティア活動」に関しては、意識の変化が顕著である。⑥「今後の活動」への意欲に結び付いている。



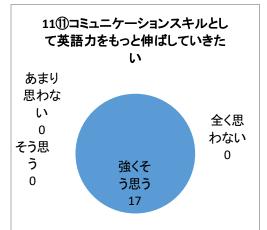




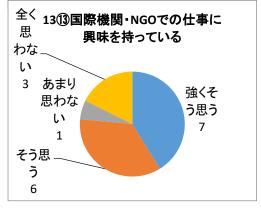
⑧「留学や海外研修」への姿勢も前向きになっている。 全校生徒へのアンケートでは、肯定的な回答は30%に 満たない。



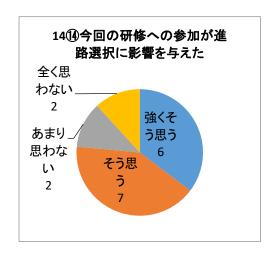
⑨「将来の方向性」では、グローバルな視野を持つようになっている。



そして最も顕著な回答が、⑪「英語の必要性」である。 実体験を通じて、コミュニケーションの重要性、その 際に使う英語の必要性を実感したために、全員が「強 くそう思う」と回答した。過去の研修でも同様の結果 が得られている。



③「国際機関・NGOへの関心」も、全校生徒へのアンケートより、意欲的な意見が多い。



そして、玉川学園 SGH がテーマとしている国際機関へのキャリア選択に大きな影響を与えていることが分かる。

【課題と今後の取り組み】

前年度に比べて、滞在期間が短くなったことにより、行程が非常にきついものとなってしまい、 以下の課題点が生じた。

- ①生徒の疲労度も高まり、ロベン島でのバスの時間に疲れて寝てしまう生徒が見られただけでなく、タウンシップでは疲労が重なることで少し気持ち悪くなってしまう生徒も見られた。今回は、運良く大きく寝込むような生徒が出なかったのは幸いであるが、そうなる可能性も感じられた。
- ②今までよりも滞在期間を短くしたことにより、現地の高校生と触れ合う時間も短くなってしまった。また、アフリカの郊外や貧困層の暮らす生活を間近に見る機会がなくなり、そのことを残念がる生徒も見られた。
- ③今回のようなタイトなスケジュールだと、飛行機のディレイや生徒の体調不良などにより 予定の行程をこなせない可能性も出てくるので、次回からはもう少し余裕のあるスケジュ ールにした方が良いと思った。
- ②前回の引率者との引き継ぎなどもあったが、実際に経験してみないと分からない点が多くまた帰国してからの発表の準備等、突然振られる仕事も多く、もう少しその辺りの引継ぎをしっかりとするべきだと感じた。
- (5)出発までのプレゼンテーションの準備は、もう少し計画的に行う必要があった。

来年度の行程を現在作成中であるが、南アフリカ共和国1ケ国のみで研修を行う方向で動いている。現地のラウンドスクエア加盟校の協力を得て交流プログラムを実践するとともに、移動に掛かる時間を短縮し、余裕を持った行程で実施できるプランを考えている。また、再来年度以降も継続したいと考えているが、引率教員の負担を考え、ヨーロピアン・スタディーズと隔年で実施する検討に入る。



ボツワナ マルアプラ校にて



ケープタウン セント・サイプリアンス校で 町田市を PR



マルアプラ校の食堂で昼食



JICA ボツワナ支所での講義



ロベン島 ネルソン・マンデラ氏が 収監されていた独居房



タウンシップ訪問



セント・サイプリアンス校でのひと時

5. 自由研究 グローバル・スタディーズ

【実施報告】

履修者:10年生11名、11年生9名、12年5名 計 25名

日 時:毎週金曜日、自由研究時 (14:25-15:40)

場 所:316 教室、または MMRC (マルチメディアリソースセンター)

内 容:自由研究「グローバル・スタディーズ」は、貧困問題、人権問題、環境問題、(リーダーシップ(外交)、国際協力)について探究し、学園展や生徒発表会、外部研修などで成果を発表する自由研究グループ。自らの関心領域に沿って、個人またはグループで研究テーマを設定し、関連する諸活動への参加やイベントの企画などを通し、積極的に研究を進めていく。最終的には「自由研究論文」という形で成果をまとめている。

(具体的な実施内容)

● 4~6月 個人研究テーマ決め

貧困問題、人権問題、環境問題、(リーダーシップ(外交)、国際協力)の3~5分野に

おいて、それぞれが興味のある分野を探り、個人研究に向けてテーマを絞っていくために、交渉ゲームや担当教諭による講義を中心とした学習を行った。また、12年生では、英語によるプレゼンテーションに挑戦をしたいという生徒でグループをつくり、英語ネイティブスピーカーの ELF (English as a Lingua Franca) 教員協力のもと、昨年度の研究内容を詰めていった。

● 10月 第5回探究型学習研究会への参加準備及び研究発表(10月28日)11名の生徒がポスターセッションによる口述発表を行った(一部、グループによる共同研究)。このうち、2名が英語によるプレゼンテーションに挑戦をした。



ポスターセッション会場の様子



下級生に説明をする生徒



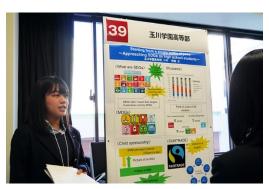
英語でのプレゼンテーション

・ 12月 立教大学主催 第2回関東・甲信越静地区 スーパーグローバルハイスクール課題研究発表会へ出場、参加(12月24日)

ポスター発表に5名の生徒が、英語プレゼンテーション部門に1名が出場した。ポスターセッションでは3名が日本語の部、2名が英語の部で発表を行った。今回、発表をしなかった生徒も研修のために会場に来て、他校の生徒の発表を聞いた。英語プレゼンテーションの部で金賞1名が選ばれた。



プレゼンテーション英語部門での発表



ポスター発表の様子



仲間を前に予行演習

● 12~2月 論文提出(1月19日)、自由研究内研究論文発表会(1月26、2月2日) 自由研究分野別論文発表会(2月26日)

10、11年生の個人研究論文の提出。提出後は、自由研究内で発表会を行った。各自がパワーポイントを用意して発表を行い、お互いの研究について理解を深め合った。論文評価では、学内で優秀賞1名、銀賞1名、奨励賞5名となった。

- 3月 SGH・SSH 合同生徒課題研究発表会(3月 12日)
 - 一般公開の形で、3月12日の午後、玉川学園としては初の試みである SGH・SSH 合同生徒課題研究発表会を開催し、その中で、全体での口頭発表、SGH 関係での口頭発表、場所を移して、全員によるポスターセッションを行った。
- 3月 SGH 甲子園研修 (3月24日) 希望者 4名が日帰りで、関西学院で行われた SGH 甲子園で研修した。

【成 果】

今年度は、10月の第5回探究型学習研究会に加え、12月に立教大学で開催された「第2回関東・甲信越静地区スーパーグローバルハイスクール課題研究発表会」に参加することができ、学内での研究発表にとどまらず、外部で発表経験を積むことができた。特に立教大学での発表会では、英語プレゼンテーションの部で金賞に1名と高い評価を得ることができた。発表経験を多く積むことで、生徒たちは各自の研究内容に自信を持ち、自分の言葉で堂々と発表する姿が見受けられた。また、これらの生徒も含めグローバルスタディーズ履修者の多くがこのような経験を踏まえて、進路選択において国際的な場での活躍を視野に入れる発言や目標設定が見受けられた。こうした生徒たちの意識の高さがよい刺激となって、来年度以降の活動に引き継がれていくことを期待したい。

【課題と今後の取り組み】

SGH の認定を受けてから4年間、毎年課題の一つになっていることに、生徒の研究テーマ設定の難しさがある。貧困問題、人権問題、環境問題、リーダーシップ(外交)、国際協力の5分野から1つを選び、各自マインドマップを作成したうえで、一番関心の強いトピックを選んでいるが、テーマの規模が大きすぎてしまうことがある。生徒のグローバルな問題に対する興味関心の高さを生かし、それらの問題が自分の身の回りに及ぼしている影響や変化に目を向けさせ、より身近な研究テーマを設定させる工夫が必要だと感じている。また、研究の内容をより充実したものにしていくためにも、専門的に研究している機関の方や大学教授などにアドバイスを得る機会を増やしていきたいと考えている。

■研究発表テーマおよび、論文タイトル一覧 (巻末に生徒の論文(一部)を掲載)

南アフリカの貧富の差はどうしたら解決できるか	貧困
南アフリカへの観光客を増やすために日本ができること	貧困
落ちこぼれが生まれた原因から学校教育の課題を考察する	貧困
遠隔医療の必要性と現状 -インド・日本・アメリカを比較して-	貧困
人権 -メディアによる操作-	人権
インドの児童労働の実態とその原因を知る	人権
人権 -海外研修を通じて-	人権
日本における長時間労働の事実	人権
日本の難民受け入れ ードイツと比較して―	人権
スポーツと国際協力	国際
クルーノと国际協力 	協力
EU について知る -その存在意義を考える―	国際
20 にりいて知る 一ての存任息我を考える―	協力
私たちが 2020 年の東京オリンピックに向けて、南アフリカのホストタウンとしてできるこ	国際
2	協力
SDGs のために私たちができること	

6. たまがわ会議 (ラウンドスクエア)

【実施報告】

- 1. 参加者: ラウンドスクエア実行委員会、ラウンドスクエアに興味を持つ高学年生徒 108名
- 2. 日 時: 2017年7月18日(火)~20日(木) 8:30~16:30
- 3. 場 所: 玉川学園高学年校舎、心の教育実践センター(tap センター)
- 4. 協 力:ユニクロ×UNHCR-服のチカラプロジェクト 玉川学園(幼稚部/小学部/中学部/高等部)/ 小川小学校(町田市)/奈良保育園(横浜市)/ ゆうきやま保育園(町田市)/こうりん保育園(町田市)/玉川さくら保育園(町田市)/

5. 詳 細:

ラウンドスクエアの基本理念である、"IDEALS" (Internationalism、Democracy、Environment、Adventure、Leadership、Service)でも掲げている国際理解(Internationalism)について、今年度は7月18日から20日の3日間で行われ、"Human-rights issue(人権問題)"のテーマのもと約90名の生徒が、さまざまなワークショップやディスカッションに参加した。

・TAP(玉川アドベンチャープログラム)

他者とのつながりの大切さや"自分"を知ること目的にした各種のワークをとおして、緊張をほぐした。"人権"や"人間"を突き詰めていくと、最終的に"自分とは?"という疑問に直面する生徒たち。互いの共通点を見つけるワークや、自分の短所を長所として言い換えるゲームを繰り返すうちに、自然と笑顔が増え、初対面同士で緊張ぎみだった表情はどんどん和らぎ、「TAP」のワークを通じて心と体をほぐし、自分の意外な一面や仲間の個性を発見しながら、これからの3日間を過ごすための準備を整えた。





たまがわ会議スケジュール

日にち	時間	<u> </u>	詳細
7月18日	午前	開会式 8:30~8:45	
(火)		場所:アトリウム	
		アイスブレイク 9:00~9:30	ラウンドスクエア (RS) メンバー
			が打ち解けられるようにする。
		TAP 9:30~11:45	IDEALS の A と L について体験
			を通して学ぶ。
		昼食 12:00~12:45	
	午後	MUN 13:00~15:30	模擬国連を短時間バージョンに
		場所:205、214	縮小。
		終了 16:00	
7月19日	午後	アイスブレイク	RS メンバーが打ち解けられるよ
(水)		12:30~12:45	うにする。
		場所:アトリウム	
		Keynote speaker ①	
		newcanvas 杉山文野さん	
		13:00~14:00	
		場所:多目的室	
		Barazza(LGBT)	Keynote Speaker の振り返りと発
		14:00~15:30	表。
		終了 16:00	
7月20日	午前	朝会 8:45~8:55	
(木)		場所:205	
		Keynote speaker ②	
		ファーストリテイリング(株)	
		安田徹さん(玉川学園卒業生)	
		ユニクロ鶴川店店長	
		田部裕作さん	
		9:00~10:00	
		場所: 205	
		Barazza(奉仕)	Keynote Speaker の振り返りと発
		10:00~11:45	表。
		昼食(立食)11:50~12:50	2日間を通して仲良くなった仲
		場所:多目的	間と昼食会。
	午後	Barazza(アクティビティ)	事前に学んできた人権や差別に
		13:00~15:30	ついて、さらに深く学ぶ。
		場所: 205	
		閉会式 15:30~16:00	

・MUN (Model United Nations 模擬国連)

今年の議題は「児童労働」。開発途上国と先進国合わせて 15 ヶ国の中から担当する国を選び、その国の代表として、すべての国が利益を得られるように案を出し合い、解決策を探った。「児童労働をなくすために教育を見直します。その支援をしていただける国を探しています。国が発展した際には自国の物資を提供します」「開発途上国の児童労働問題に対する知識を、先進国の国々で広めてほしいと思っています」など、自国の意見を表明しつつ、互いの国にとってよりよい案になるよう、活発な議論が行われた。最後には、それぞれの立場の国が相互に利益のある案を考え出して見事可決された。







・ゲストスピーカー① (株式会社ニューキャンバス 杉山文野さん)

講師にお招きしたのは、セクシャル・マイノリティー(LGBT)への理解を広げ、サポートする活動を推進する杉山文野さん。ご自身の経験を軸に、セクシャル・マイノリティーを取り巻く現況についてお話いただいた。「性ってなんだろう?」と問いかけ、27に分類した性別論やトランスジェンダーの出現率をわかりやすい例えで伝えてくださり、トランスジェンダーは意外に身近な存在であることも実感した。幼い頃から違和感に悩み続けた杉山さんが、恋愛、親や友達への告白、進路など、葛藤しながら乗り越えながら理解者を得て、"自分"を認めていったエピソードは、立場は違っていても、時に惑いながら「自分」を探して生きる人間として、それぞれの胸に響いた。そして、まずは自分が幸せになること。多様性を受け入れて"自分らしく生きる"ことの大切さを杉山さんの生き方から感じ取り、学ぶことができた。





• Barazza(1)

杉山さんの講演後のBarrazaでは、チームごとに「感じたこと」「私たちにできること」について話し合った。ほとんどのグループが「LGBT について知らなかった」「意外に身近にあることだった」という感想を持ち、そこからできることを考えていき、発表では各グループが、"知る"ための機会づくりや多様な個性が生きやすい社会づくりを提案。「ここだけで終わりにしないで、今後、実践をしていくことが大事なことだと思います」。という生徒の発言が印象的であった。





・ゲストスピーカー② (株式会社 ファーストリテイリング総務・ES 推進部 安田徹さん、 ユニクロ町田鶴川店店長 田部裕作さん)

世界の難民の現状を知り、ユニクロが主催する「"届けよう、服のチカラ"プロジェクト」を通じて自分たちに何ができるのかを考えるワークショップを行った。講師は、プロジェクトを担当されている安田徹さんと田部裕作さん。「難民とは、もともとはみなさんと同じように普通に暮らしていた人なのです」というお話から始まり、"服"という身近なテーマを通して、遠い存在だと思っていた"難民"も、自分たちと同じように生活していることや、服がないことで命が脅かされる現実があることを知った。





• Barazza(2)

ゲストスピーカーの講演を聞き「"届けよう、服のチカラ"プロジェクト」の意義を実感した 生徒たちは、今度はその話を幼稚部や近隣の保育園の子どもたちにプロジェクトへの協力を呼び かける紙芝居づくりを行った。難民とはどんな人たちなのか、服を寄付するとどんな良いことが あるのか、幼稚園児に届くように表現を工夫して作成した。本番を想定しての発表では、寸劇を 交え、ユーモラスなやさしいことばで、"服のチカラ"について語りかけた。「子どもへの伝え 方は難しいと思いました」と実感しつつ、国際問題に対して自分たちができることを探した、充 実した時間となった。





• Barazza③

アクティビティは2つの課題に取り組んだ。映画を題材に「差別」について考える活動では、公開時期の違う数本の映画を鑑賞し、そこに表現されている「差別」「反映された社会情勢」「人権」とその推移をグループで話し合ってまとめた。何気なく観ていた映画の中にも「人権」の問題が表現されていることに気がづいた。もう一つのアクティビティは、障がい者体験で、目が見えない人の役と手を引く役に分かれて、手を取り合って障害物のあるコースを実際に歩くことで、障がいを持つ人の大変さと、その人をサポートする大変さを、身をもって学んだ。

今回のテーマ "Human-rights issue (人権問題)"のまとめとして、最後は、「差別用語」についてディスカッションを行い、「ハーフ」「コミュ障」「ホームレス」「男女」などの用語が差別用語なのかどうか、また、それらを言われたらどのような気持ちになるかを話し合う中で「"男女"は差別じゃないよね?」「でも、"女男"と言う人がいてもおかしくないよね?」「状況によって、言われたときの感じ方も変わるね」など、ディスカッションは次第に熱を帯びていき、

その言葉に対する実感をベースにした、"答えのない"議論は、さまざまな立場や視点から意見を出し合うことで深まり、「差別」や「人権」について多くの理解にもつながった。









まとめと振り返り

たまがわ会議の最後は、午後の Barazza③でのまとめと考察を全員に発表をした。この3日間で学んだことを関連させて、今回のテーマ「人権」を一人一人がどのように考えたのかを共有した中で、「これまで人権について学んできたつもりだったけど、色々な人の意見から自分ひとりでは気づけなかったことが学べた」「LGBT など、新鮮なテーマから新しい視点を得ることができました」など、さまざまな知識を得て、自分で考え、体験を繰り返してきた3日間を振り返る言葉には、ひとまわり成長した"自分"が映し出されていたと確信している。少し視界を広げた先にある多くの世界を知ること、人間の多様性を受け入れることが、グローバルな生き方の基本であることを学んだたまがわ会議となった。







【成果と分析】

今年度のたまがわ会議は、これまで開催してきた活動の中で最も参加人数の多い会議であった。会議前、人数が多くなることにより会議全体のまとまりが薄れてしまう懸念もあったが、実行委員の一人一人が集中をして指示を出し、うまく取りまとめていた様子が見受けられた。初めに行った TAP が良いきっかけとなり、2日目のグループディスカッションでは、下級生が積極的に意見を出している様子も伺えた。上級生はそれらの意見を問題に対する新たな切り口として捉え、ディスカッション全体が良い方向に展開していっていた。このような学年を越えた関わりは、これまでのラウンドスクエアの活動においてメンバーの積極性を見ることのできる良い機会であったと思う。今年で3年目となったユニクロとUNHCRが共同で行っている届けよう服のチカラプロジェクトは今年も多くの関心を持っていただき、近隣の保育園にも協力をいただいた。また、今年から新たに協力してくださる保育園や小学校もあり、近隣との繋がりも広がった。活動終了の際に、それぞれの保育園の先生方から、この活動は園児とその保護者にとても大きな影響があり「ものを大切にする」「困った人がいれば助け合う」などといった教育的な面でも手軽に実行できるとても良い題材なので、来年もぜひ協力をしたいです。」と言っていただけたことは、とても大きな成果である。

【課題と今後の取り組み】

ラウンドスクエア実行委員に所属している生徒、そうでない生徒に関わらず、今回のたまがわ会議に参加をして、IDEALS に興味を持ったという生徒は多い。きっかけを作るという意味では狙い通りの結果を出すことができた。たまがわ会議の初日に、ラウンドスクエアは国際交流だけではなく、ラウンドスクエアの掲げる基本理念 IDEALS ひとつひとつに意味があることを説明した。この意味を理解した上で、今後は、その生徒たちが上級生になって運営する側に回った時、その経験を後輩達に伝えることができるよう、ラウンドスクエアの活動に今後も積極的に参加して欲しい。

※ラウンドスクエア実行委員会 2017年度年間行事

4月20日 - 29日 RoundSquareジュニア会議(ニューヨーク (Hackley School) およびボストン)

4月29日 ミニたまがわ会議

6月28日 海外留学生(台湾・オーストラリア・アメリカ)交流会(放課後)

7月18日 - 20日 第5回たまがわ会議

8月3日 - 10日 ラウンドスクエアサービスプロジェクト(タイ)

9月16日 - 17日 ペガサス祭

9月28日 - 10月7日 RoundSquare国際会議(St Cyprian's School(南アフリカ・ケープタウン))

8月7日 - 11月30日 "届けよう・服のチカラ" プロジェクト

(玉川学園幼稚部~高学年、奈良保育園、ゆうきやま保育園、小川小学校、

こうりん保育園、玉川さくら保育園)

10月25日 海外留学生(台湾·稲江校)交流会(放課後)

12月16日、1月27日、2月10日 ラウンドスクエア国際会議報告会

1月19日 海外留学生(豪州、ボツワナ、ブラジル、インド、デンマーク、ペルー、台

湾)

交流会(放課後)

ペガサス祭での様子



パネルによる活動の説明



来客者への説明



服のチカラプロジェクト 衣類回収用ボックス



SGH 発表会場

7. ヨーロピアン・スタディーズ 2018

【実施報告】

参加者:玉川学園高学年 10年生11名、11年生7名 日 時:2018年1月4日(木)~1月14日(日) 11日間

場 所:オランダ(アムステルダム・ハーグ)、スイス(ジュネーブ)、ポーランド(クラクフ)

【内 容】玉川学園 SGH 研究開発計画の目的として掲げている国際機関や国際 NGO でリーダ ーとして活躍するために必要なことは、多様な文化を理解し、世界の諸問題に興味を持つこ とである。特に「外交」「人権」「国際協力」の分野における生徒の個人研究を深め、国際 機関へのキャリア選択を実現する全人的リーダーの資質を養うグローバルな学習機会を与 えることを目的とし、次の研修地を訪れた。

研修地:国際刑事法廷メカニズム、平和宮、在オランダ日本国大使館、ビネンホフ (オランダ・ハーグ)、

アムステルダム国立美術館、ユダヤ歴史博物館、アンネ・フランクの家

(オランダ・アムステルダム)、

国連人権高等弁務官事務所、国連難民高等弁務官事務所、国際労働機関、

国際赤十字

(スイス・ジュネーブ)、

アウシュビッツ収容所、シンドラーの琺瑯工場 (ポーランド・クラクフ)、他

ヨーロピアン・スタディーズ1日目



1月4日13:00、元気に羽田空港に 集合し、予定通りアムステルダムへ 向けて出発。フランクフルトにて乗 り継ぎ、計13時間のフライトを経 てアムステルダムに到着。フランク フルト発の飛行機が天候不良によ り約1時間遅れたため、日付が変 わる頃にアムステルダムのホテル に到着。

・羽田空港にて



アムステルダム到着

ヨーロピアン・スタディーズ2日目

午前中は「国際刑事法廷メカニズム(MICT)」にて、旧ユーゴスラビア・ルワンダの戦犯法廷について、職員の方のプレゼンテーションを聞き、実際の法廷を見学した。プレゼンテーションでは逃亡者の起訴、証言者の保護、裁判のTVやインターネットでの発信など、ユーゴスラビア紛争などにおけるMICTの役割について学んだ。プレゼンテーションは全て英語で行われ、生徒たちは専門的な内容を理解するリスニング能力や単語力の必要性を痛感した。平和宮併設のミュージアムでは、国際司法裁判所など国際機関に関する知識を得た。午後は、在オランダ日本国大使館で、大使館の仕事内容やオランダと日本の関わりについて、書記官の森氏と播本氏から講話を聞いた。その後、ビネンホフ(騎士の館)を訪れ、ハーグの歴史を学び、式典が行われるホールを見学した。





・平和宮前にて

・MICT にて



・在オランダ日本国大使館



・ビネンホフのホールにて

ヨーロピアン・スタディーズ3日目

午前はアムステルダム国立美術館にて、美術品の鑑賞を行った。レンブラント「夜警」やフェルメール「牛乳を注ぐ女」などの名画を、ガイドの方の詳細な説明とともに鑑賞した。アムステルダムの歴史ある街並みを見学しながら、ユダヤ歴史博物館に移動し、シナゴーグでのユダヤ教の礼拝や風習について学んだ。アンネ・フランクの家では、実際アンネ・フランクが住んでいた隠れ家を歩きながら、アンネ・フランクの生活の変化やオランダでのユダヤ人迫害について知識を得た。生徒は実際の建物を歩いてみることで、アンネ・フランクの自由に生活できない窮屈さや、しかしその中で壁に写真を貼るなど楽しい生活への工夫を追体験できた。







・ ユダヤ歴史博物館にて

ヨーロピアン・スタディーズ4日目

スイスへの移動日。飛行機は順調に運航され、ミュンヘンを経由して、計3時間ほどのフライトでジュネーブに到着した。



オランダ上空から



・ジュネーブのホテル

ヨーロピアン・スタディーズ5日目

国連人権高等弁務官事務所(OHCHR)にて、人権やOHCHR の役割について職員の服部氏から講話を聞いた。講話者服部氏と生徒との双方向的なやりとりの中で、今年70周年になる世界人権宣言についてから、子供・移民や障害者など身近にある様々な差別について理解を深めた。双方向的な講話の中で生徒は消極性を指摘される場面もあり、国際人になるためには発信力や積極性など、自らの考えを発言することが大切であることを実感した。国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)では、職員の帯刀氏から、UNHCRで経験した仕事に触れながら、国際機関で働くために必要な資質についてや、少子高齢化社会である日本社会と難民との将来についてなど、幅広くお話をいただいた。午後は、国際労働機関(ILO)を訪問した。ILOの日本人職員の方々と昼食を取り、近い距離で様々な話を聞いた後、まず職員の戸田氏からILOの成り立ちなどを聞いた。その後、ILO上級法務官の野口氏から、雇用や職業における差別について講義をしていただいた。国際会議などで使われる場所で、生徒たちは女性を始めとした様々な労働差別、政府を説得するというILOの役割などを学んだ。夕方は、旧市街地に赴き、ジュネーブ大学やサンピエール大聖堂などを見て回った。



・国連人権高等弁務官事務所にて



・国連難民高等弁務官事務所にて



・国際労働機関(ILO)にて



・サンピエール大聖堂にて

ヨーロピアン・スタディーズ6日目

国際赤十字を訪問。国際赤十字職員の辻田氏に、赤十字の簡単な歴史とその活動について、説明していただいた。その後、約1時間半の英語でのワークショップに参加した。アイスブレイクを通して戦争には法律が必要であることを理解し、その後生徒も英語で発言をしながら、国際人道法の中身を3つの信条に分類するアクティビティを行った。午後は、国際赤十字の中にある博物館を見学し、国際赤十字の活動状況などを、写真・コンピューターなど様々な展示を通して学習した。



・国際赤十字職員辻田さんのお話



・国際赤十字でのワークショップ





・国際赤十字前にて

・ 国連欧州本部前にて

ヨーロピアン・スタディーズ7日目

ポーランドへの移動日。飛行機は順調に運航され、ミュンヘンを経由して、計3時間ほどのフライトでクラクフに到着した。ガイドのリチャード氏に、ポーランド語での簡単な挨拶を教えていただいた。



・ミュンヘン空港にて



・クラクフ空港

ヨーロピアン・スタディーズ8日目

アウシュビッツ・ビルケナウ博物館を訪れた。

アウシュビッツ第一収容所、第二収容所ビルケナウの二箇所をアウシュビッツ博物館最初にして唯一の外国人公式ガイドである中谷剛氏に案内していただいた。ただアウシュビッツを紹介していただくだけではなく、なぜ文化水準の高かったドイツで、なぜこれほどの悲劇が起こってしまったのかなど様々な問いかけがなされ、生徒は深く考え込んでいる様子であった。また、日本の難民を始めとする外国人への不寛容さに関する話や、人権を奪われ物として扱われたユダヤ人の話、アンネ・フランクが過ごしたビルケナウの見学など、本研修でそれまでに学んだ様々な要素が一つに収斂されていくような体験だった。

午後は、ユダヤ教の教会であるシナゴーグを見学したのち、参加者全員が既に鑑賞していた映画「シンドラーのリスト」の舞台ともなったシンドラーの琺瑯工場を訪れ、第二次世界大戦中のクラクフの様子などを展示物とガイドの方の説明を通して学習した。





• アウシュビッツ第一収容所



・第二収容所ビルケナウ





・シナゴーグ前にて



・シンドラーの琺瑯工場

ヨーロピアン・スタディーズ9日目・10日目・11日目

朝ホテルを出発して、クラクフ空港へ向かった。当初はフランクフルト経由で日本に向かう予定であったが、天候不良のためフランクフルトへの飛行機が欠航となり、急遽クラクフ空港近くにもう一泊することとなった。翌朝日の出前にクラクフ空港を出発し、振り替え便でミュンヘンを経由して帰途に着き、一日遅れで羽田空港へ無事到着、解散となった。欠航に伴い、当初10日間で設定されていた本研修は全11日間となった。



延泊となったホテルにて



・羽田空港にて

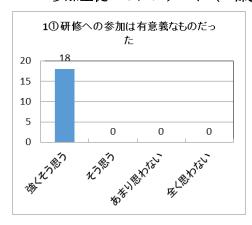
【成果と分析】

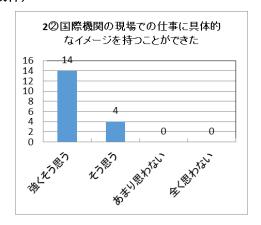
帰国後にヨーロピアン・スタディーズ研修の振り返りを生徒たちに書かせ、提出させた。生徒たちにとって、事前に学校での勉強やニュースなどで目にしたことのある場所もあったが、実際に訪問して実物を見たことで、全く違う印象を感じたり、より深く感銘を受けたりしていた。今まで机の上で得てきた知識が、実物を見ることでより実感を伴った知識として定着し、また実物と結びつけることで本研修中に見聞きした情報が深く彼らの中に根付いたと思われる。また、日常的なやりとりから国際機関での専門的な講話に至るまで、英語でコミュニケーションを取った場面が多かったことで、より深いコミュニケーションを行ったり、知識を得たりするために英語を学びたいと多くの生徒が感じたことがアンケートから読み取れた。

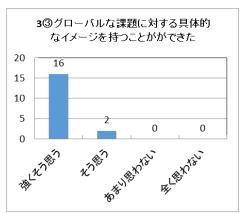
【課題と今後の取り組み】

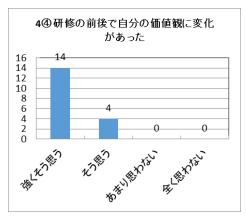
生徒たちは事前学習で行った課題に関してなど、国際機関で積極的に質問を行っていた。限られた質疑の時間で生徒の質問が絶えず、聞ききれなかったこともあったため、例えば事前に生徒からの質問事項を先方に伝えてプレゼンテーションをしてもらうなどの工夫がなされても良いと思われる。そのように、事前に準備をしてきたことに対する質疑や、時間が与えられた英語でのアンケート記入などは積極的に行えたことに対し、プレゼンテーションの中で意見を求められたときや、ワークショップで積極的に発信をしなければならない場面などで、今一歩積極的に踏み出すことができない場面があった。昨年度まで行っていた本研修中での生徒発表を今年度は行えないなど、生徒が自ら発信をする場面よりも、講話を聴いて知識を受け取る場面が多かったことも、積極性の不足に関連している可能性がある。来年度以降、研修中に生徒から発信する機会や仕組みを作る必要性がある。また、発信をするためには、母国語でも自分の意見を持つ必要があり、母国語ででも積極的な議論を行えるようになることが、国際性を涵養するための大切な一歩となる。

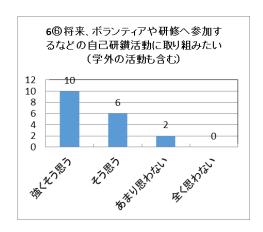
参加生徒へのアンケート(一部抜粋)

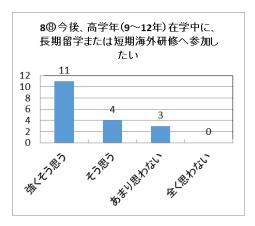


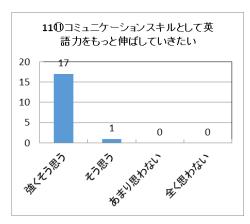


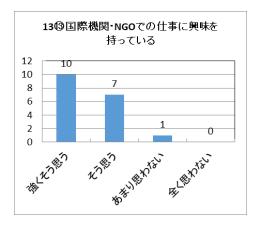


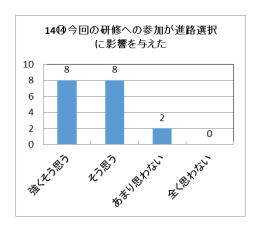












全体的にみると、確実に本校の SGH プログラム「国際 機関へキャリア選択する」という目標に向けて、生徒が 動き出していることがうかがえる。残るは、「全人的リ ーダーの育成」が課題となる。普段の学校生活において リーダーとしての資質を磨くことができる場面を数多 く準備し、生徒が自発的に活動するようにすることが 重要である。

8. 模擬国連

【実施報告】

本校の模擬国連活動は、2つの活動が平行して行われている。一つは、月曜日の放課後の時間帯に設定してある自由選択科目「模擬国連」という授業である。今年度履修者は37名で、年間を通してリサーチ、政策立案等の会議準備と授業内会議を行った。二つめは、授業履修者の中から希望者が集まって2月に実施する玉川会議を企画運営する活動である。2月に実施する会議の議題は、このメンバーの総意で決められる。また授業での議題も自動的に2月会議の議題となり、このメンバーが授業も牽引した。

(1)授業

参加者:10年~11年 自由選択科目「模擬国連」履修者 37名

日 時:毎週月曜日7,8時間目 14:00~17:30

場 所:玉川学園高学年校舎内教室

内 容:今年度は「寒冷化状況における食料安全保障」をテーマとし、年間を通じて食料安全保障における諸問題をリサーチし、2050年寒冷化状況という設定のもとでの食

料安全保障を議論した。

前期授業計画(9回・18時間)

	日	内容	教室
0	4月10日	授業ガイダンス	
1	4月17日	国連カフェ	MMRC
2	4月24日	国連カフェ	MMRC
		GW	
3	5月 8日	国連カフェ	MMRC
4	5月15日	「気候変動」課題割り振り	MMRC
		中間テスト	
5	5月29日	グループ発表準備1	MMRC
6	6月12日	グループ発表準備2	MMRC
7	6月19日	グループ発表1	MMRC
8	6月26日	グループ発表2	MMRC
9	7月 3日	グループ発表3・後期会議国割り発表	MMRC

後期授業(16回・32時間)

	B	内容	教室
1	9月11日	会議準備(論点解説)	MMRC
2	9月25日	会議準備(国割り・ポジションペーパー配布・リサーチ)	MMRC
3	10月2日	会議準備(リサーチ・ポリシーペーパー作成)	MMRC
4	10月23日	会議準備(リサーチ・ポリシーペーパー提出)	MMRC
5	10月30日	会議1	205
6	11月6日	会議2	205
7	11月13日	会議3	205
8	11月20日	会議4	205
9	11月27日	レビュー	MMRC
		中間テスト	
10	12月11日	会議準備(論点解説)	MMRC
11	12月18日	会議準備(リサーチ・ポリシーパーパー作成)	MMRC
		冬休み	
12	1月15日	会議1	205
13	1月22日	会議2	205
14	1月29日	会議3	205
	2月3日	玉川模擬国連会議 1 日目	大学 8 号館
	2月4日	玉川模擬国連会議2日目	大学 8 号館
15	2月5日	プレゼン発表準備	MMRC
16	2月19日	プレゼン発表準備	MMRC

後期会議その1議題(10月30日から) 「寒冷化対策会議~食料安全保障~」

論点1 世界の食料生産の促進

論点2 食料危機に備えた備蓄体制作り

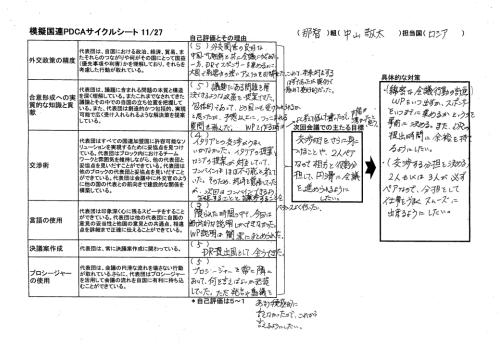
後期会議その2議題(1月15日から) 「寒冷化対策会議~食料安全保障~」 論点 緊急時における貿易体制づくり



前期授業での生徒発表

今回の授業内会議および2月会議の議題は、寒冷化状況下における食料安全保障であった。 前期授業では、地球上の氷期と間氷期のサイクルとその原因を探り、今後寒冷化が起こるとす れば、どのようなことが原因で、どういう規模なのかについてリサーチし、発表した。後期は、 寒冷化で起きる諸問題の中で、食料安全保障に絞って、リサーチし、会議を開いた。会議設定 は、寒冷化国際対策条約(Framework Convention on International Measures for Global Cooling:通称 Convention on Global Cooling「CGC」) の議定書の策定に向けた準備会合とし た。今回の会議は二つの論点(小規模農業の促進による食糧増産/緊急事態や食料危機に備えた 体制づくり)を議論し、後に締結される議定書を作る際に備え、寒冷化への対応の共通認識を 得て、食料安全保障に関してどのような問題があるのかの共通認識を得ることと、それらの問 題をどう解決するかについての対策の大枠を確立することを目指した。具体的には、寒冷化に よって世界的に、あるいは地域によっては不作となり、食料危機が起こることが容易に想像で きる。食料は、他の工業製品と異なり、不足すれば命に関わり、暴動などの社会不安に直結す る。会議の前提となるシミュレーションとしては、2050年までに世界的に年平均気温が約2 ~3度、地域によっては約5度低下することを想定した。その原因として、2つの要因を設定 した。一つ目は熱塩海洋循環の停滞による影響で、北ヨーロッパが最も深刻で、地域によって 影響の範囲や程度に差が生じる。二つ目は、太陽活動の低下による影響で、これは全地球的で、 地域による差異はあまりない。より現実的なシチュエーションを設けるため、双方、あるいは 片方のどちらかが生じる場合を想定することとした。これらのことを55ページにわたる議題 解説書としてまとめ、事前に参加校に配布し、会議準備に資した。この議題解説書を作成する にあたって直接お話を伺った専門家は以下の通りである。

生命の星地球博物館館長 平田大二先生 武蔵野美術大学准教授 宮原ひろ子先生 FAO 駐日事務所副代表 三原香恵先生 玉川大学農学部助教 石川晃士先生 以下は、授業に用いたレビューシートである。1回目の授業内会議終了後書かせ、2回目に備えた。



(2) 玉川模擬国連会議

2月実施の他校を呼んでの模擬国連会議に向けて以下の2つの企画を実施した。

1. 初心者向け練習会議

【参加者】中学校高等学校 6 校から 41 名 横浜女学院高等学校・かえつ有明高等学校・昭和女子大付属高等学校 逗子開成高等学校・海陽学園高等学校・玉川学園高等部

【日 時】2017年12月17日 9:00~14:00

【場 所】玉川学園高学年校舎

【内 容】シリア危機

2. 食料安全保障研修会

【参加者】中学校高等学校17校から132名

【日 時】2018年2月3日 11:00~14:30

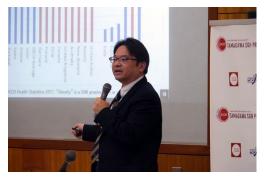
【場 所】玉川大学8号館

【内 容】食料安全保障(フードロス・食料増産・備蓄・貿易等)

【講 師】ンブリ・チャールズ・ボリコ FAO 駐日事務所代表 株田文博 政策研究大学院大学教授



ンブリ・チャールズ・ボリコ FAO 代表



株田文博 政策研究大学院大学教授

3. 玉川模擬国連会議

【参加者】中学校高等学校 16 校から 132 名

かえつ有明高等学校・公文国際学園高等部・晃華学園中学校高等学校 聖心女子学院高等学校・清泉女子学院高等学校・頌栄女子学院高等学校 昭和女子大付属高等学校・広島女学院高等学校・愛媛県立松山東高等学校 山手学院高等学校・神奈川県立横浜国際高等学校・横浜女学院高等学校 立教女学院高等学校・立命館高等学校・渋谷教育学園幕張高等学校 逗子開成高等学校・玉川学園中学部高等部

【日 時】2018年2月3日 15:00~18:00

2月4日 9:00~16:00

【場 所】玉川大学8号館

【内 容】寒冷化状況における食料安全保障





スピーチをする大使

非公式討議

(3) 教員向け模擬国連講習会

【参加者】高等学校 14 校から 22 名

金光大阪高等学校·長野県立飯山高等学校·京都大谷高等学校·金沢大学付属高等学校· 大妻中野高等学校·浦和西高等学校·西武文理高等学校·昭和女子大学付属高等学校· 富士見高等学校·公文国際高等部他

【日 時】2017年12月10日(日) 13:00~17:00

【場 所】玉川学園高学年校舎

【内 容】シリア危機

近年、教育活動において模擬国連が活発に実施されるようになったが、それを指導する 教員側の経験不足が問題視されるという現状がある。そこで、経験豊かな大学模擬国連 研究会の有志の協力を得て、模擬国連活動に関するレクチャーと会議体験によって、模 擬国連の知識やノウハウを得られる企画を立て、実施した。

13:00~13:10開会・本日の流れの説明

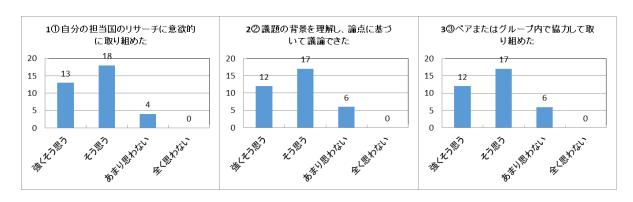
13:10~16:50会議

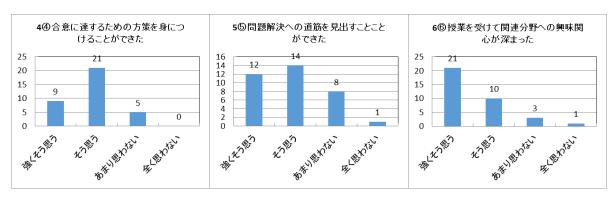
16:50~17:00レビュー・閉会

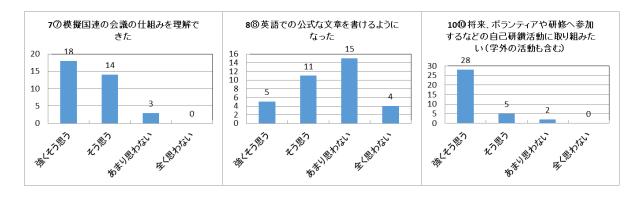


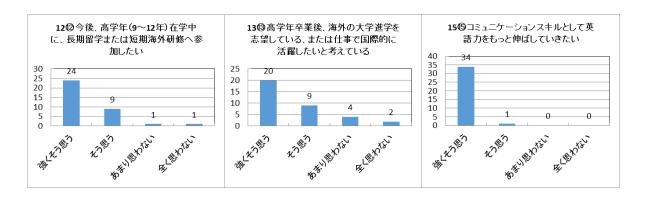


【成果と分析】 (一部抜粋)









ほとんどの項目で、肯定的な回答が得られている。このことから、模擬国連を通じて生徒が模擬 国連の目的を理解し、成長していることがわかる。

【課題と今後の取り組み】

アンケートの**®**「英語での公式な文章が書けるようになった」は、昨年度に引き続き否定的な回答が多い状態が続いている。今後、英語科にも協力を要請し、手順を踏んだ指導を行わなければならないと考えている。

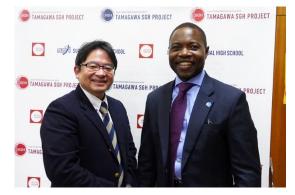












9. 全体の取り組み

今年度から、SSH と合同の実行委員会(教員)を開催することとした。(今年度は5回開催)意図としては、「SGH、SSHの両方に関わる教員が多い」ことと、「現在抱えている諸問題に関してそれぞれの視点から出される意見の集約をし、取り組みを改善する」ということである。委員会では忌憚のない意見が飛び交い、今まで気づかなかった問題を認識したり、的確なアドバイスを得たりする機会となっている。様々な教科を担当する教員が関わることによって、協力体制もより確固たるものとなり、運営をスムーズに行うことができるようになった。例えば、SGH実行委員会が来年度末、成果物として「教員用ハンドブック」を作成することにしたが、その題材としてのアクティビティ(授業案)をSGH担当者のみならずSSH担当者も実施し、ハンドブックの内容の充実につながっている。

今年度実施できなかった、生徒、教師向「SGH ボード(掲示板)」の設置、各種講座やイベントのフライヤーやポスター制作の生徒への依頼を来年度に実施する。また、ボランティア活動への参加率が低迷している点を鑑み、長期休暇を利用しての活動を紹介し、自主的かつ積極的な参加を呼び掛ける。そして地元とのつながりも意識させる。先に記述した通り、玉川学園がある町田市は2020年東京オリンピックで南アフリカ共和国のホストタウンを務めることとなった。2019年にはラグビーのワールドカップが日本で開催され、横浜が試合会場となる。玉川学園は海外研修やラウンドスクエア、ラグビーを通じて南アフリカ共和国とつながりが強い。今年度、数名の生徒で活動が開始されたホストタウンキャンペーンプロジェクトをバックアップし、生徒の研究課題を達成させたい。

◆課題外研究について

≪1≫ 英語に対する取り組み

A. 英語検定と TOEIC 受検を奨励し、9・10 年生の 2 学年で GTEC 実施

(1) 実施日程

業務項目		実施日程											
英語検定	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12月	1月	2月	3月	
TOEIC GTEC 受検			英検実施				英検実施		GTEC 実施	英検 実施	TOEIC 実施		

(2) 実績の説明

【参加者】 英語検定:9 ~ 12年生の希望者

TOEIC : 玉川大学に進学する 12 年生

GTEC for STUDENTS: 9年生全員、10年生全員

【日 時】 英語検定:第1回6月6日(土)、第2回10月10日(土)、

第3回1月23日(十)

TOEIC: 2月8日(月)

GTEC for STUDENTS: 12月18日(金)

【場 所】 高学年校舎 各教室

【内 容】

玉川学園では英語教育に力を入れており、任意で英語検定、TOEIC テストを受検するよう 奨励している。英検試験は、学園内で2級まで一次試験を受検できるようにしている。SGH 校に指定されたことにより、10月の英語検定を定価より安く受検できることになり、昨年 度よりも受験生の数が増加した。GTEC for STUDENT に関しては、学校をあげての協力体制のもと、昨年度は9年生のみで実施していたものが、今年度からは9年生、10年生の2学年の生徒全員が受検できることとなった。受検代金を学校が負担した。

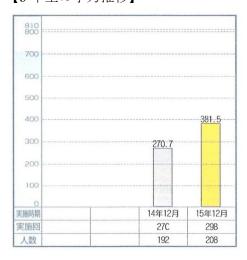
【成果と分析】

TOEIC は、9年生が1人、10年生が3人、11年生が4人、12年生が24人と学年が上がるにつれて、受験者数が増えた。700点以上が3人、800点以上が7人、900点以上が5人と、高得点を獲得している生徒もいた。英語検定では、9年生~12年生のうち、準2級に89人、2級に30人、準1級に12人、そして1級に1人合格した。(10月段階) GTEC for STUDENTは、2学年全員が受検できるようになった。昨年度からの生徒の学力の追跡調査を行うことができ、普段の授業においてもフィードバックできるようになった。

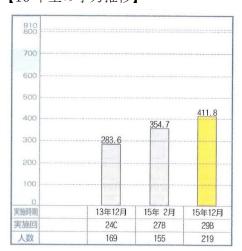
【課題と今後の取り組み】

GTEC for STUDENT によると9年生、10年生ともに、1年前に比べてトータルスコアの 平均点がそれぞれ110.8点、57.1点と増えており、着実に点数が伸びているのが分かるが、 ただ受検して終わるのではなく、しっかりとした英語の力をつけさせ、英語を用いた活動へ とつなげていけるようにしていきたい。具体的には、リスニング、ライティング、リーディングの全てにおいて、短文への対応力は強いが、長文への対応力が弱いというデータが出ているので、今後の授業で強化していきたい。

【9年生の学力推移】



【10年生の学力推移】



B. 11年生、12年生選択科目「英語会話」のコンテンツグローバル化

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月
英語会話	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施	

(2) 実績の説明

【参加者】11年英語会話(選択 A,B 群)および12年英語会話(選択 A, C 群)履修者

【日 時】11年英語会話 …週3時間、12年英語会話 …週4時間

【場 所】各教室

【内容】生徒の英語での発信力を育てる目的で、今年度も前期と後期に1回ずつ、10分~15分のプレゼンテーションを課した。日々の授業では、プレゼンテーションスキルを高める練習をさせ、スクリプトを書く段階では順序立てて自分の考えを英語で書くことを行わせた。その他のプロジェクトとして、日本が題材となっているアメリカの映画を生徒に見せて、発見したことを英語で言わせたり話し合わせたりするということを行った。映画の中で間違って描かれている日本の姿や正確に描かれている点などを発見させることから、人々が描くステレオタイプなどについても考えさせる授業となった。また、もう一つのプロジェクトとしては、ドラマの場面中のセリフを英語で言わせる英語劇をさせることで、生徒に楽しませながら決まった表現を英語で発信させることも行った。次にプレゼンテーションとプロジェクトのトピックを記す。プレゼンテーションのテーマは身近な事柄や日本のことなど、やがては世界へ向けた発信力へつながるよう意識して設定した。

【11 年英会話 I (選択 A:Baker, 選択 B:, Macinnis) 】

[Presentation] 1. Taking risks / Crossing boundaries / Stereo types

2. Explaining Japanese culture

[Project] 1. Film studies ~ Japan vs West

2. Drama ~ Star Taxi

【12年 OC II (選択 A: Macinnis, 選択 C: Baker)】

[Presentation] 1. My future job

2. Free choice ~ argumentative topic

[Project] 1. Drama ~ Movie scene performance

2. Book report

【成 果】

プレゼンテーション活動を通し、自分の興味関心のある出来事を調べたうえで、自分の考えを英語で発表するということができた。発表の際には、パワーポイントを作成させ、それを用いながら発表させた。昨年度の発表では、原稿を見ながら発表する生徒が見られたが、今年度は何も見ないで発表させることができた。生徒の中には、ただ原稿を丸暗記するだけではなく、自分の言葉を用いて、堂々と自然なスピードと流れで発表する生徒も見られるようになり、昨年度からの学習が定着できたと言える。





【課題と今後の取り組み】

課題が難しすぎると感じる生徒がいる一方で、高いものを求める生徒もいるのが現状である。来年度は生徒の学力によってプロジェクトを変えることも一考したい。同時に成績評価の基準が厳しいことから、来年度にこの選択授業を履修する生徒が減少してしまった。 改めて評価のクライテリアを見直す必要があると考える。

C. 学内レシテーションコンテストの実施

(1) 実施日程

> *** <u>-</u> * .—												
業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2月	3月
レシテーションコンテスト	準備	準備	準備	準備		準備	準備	実施 検証	実施 検証	検証	検証	

(2) 実績の説明

【参加者】10年生、11年生全員、IB生徒もスピーチ枠で参加

【日 時】 1st ステージ:11 月中旬

ファイナルステージ: 12月21日(木)1~3時間目

【場所】 1st ステージ: 各授業教室

ファイナルステージ: University Concert Hall 2016

【内容】

「グローバル」な社会では、世界の諸問題に対して英語で話し合い、問題を解決していく力、英語で交渉していくコミュニケーション力が求められる。現在の授業では、自分の言いたいことを英語で表現できるようにさせるために、英文訳読に終始する授業からの脱却を図り、既習の英語を使って英語でアウトプットさせることを大切にしている。場面に応じて自然に英語が口から出てくる「英語の自動化」を実現させるために、音読を重視した授業を展開している。コーラスリーディングに始まって、リード・アンド・ルックアップ、シャドーイングなど多様な方法で音読の訓練を授業内に行うことを心がけている。このような音読の授業の成果を目に見える形で提示したいということと、また生徒が更なる音読へのモチベーションを高めるきっかけとなって欲しいという意図から高学年英語科では年に1度10年生、11年生を対象にレシテーションコンテストを行っている。このコンテストも本年度で4年目を迎え、これまでの反省点を生かしつつ、新たな工夫を増やし、充実した内容を目指している。

流れ

・選抜方法と評価

選抜の方法では、Memorization(暗記)、Eye contact(アイコンタクト)、Gesture(ジェスチャー)、Voice(声量)、Pronunciation/Intonation/Fluency(発音/抑揚/英語の流暢さ)などの項目をそれぞれ5段階ずつに分け、担当教員が評価を付け、最高得点の生徒を代表者に選抜した。さらに、クラスの生徒たちにも、同様の評価シートを配布し、それぞれ発表者の評価をさせることで、お互いの発表に真摯に向き合わせた。ここでの評価は、定期試験の平常点の10点分として設定している。各定期試験までに2回のパフォーマンステストを実施しており、後期中間試験時のものが、レシテーションコンテスト選手選抜の1stステージに相当する。この評価制度により、生徒のレシテーションに対する前向きな取り組みを促している。

ファイナルステージでの様子

ファイナルステージでレシテーションする際のテキストは、10年生では B と A & PL コースで「星の王子さま」、11年生では B コースにはオー・ヘンリー作の「賢者の贈り物」と「最後の一葉」、A & PL コースにはオバマ前米大統領の演説など、著名人のスピーチを題材として扱った。審査を行うのは、E LF 教員 2 名と日本人英語教諭 2 名、英語科主任 1 名。審査項目は、1 st ステージ同様で、マークした点数の合計点で各コースの 1 位と 2 位を決定し、コンテスト

の最後に表彰した。

10年生では、「星の王子さま」を夏休みの課題として全生徒に事前に読ませ、物語のシーンに合った絵を描いてくるという課題を与えていた。コンテスト当日では、描いてきた絵をスライドに映して、観ている生徒たちにも話の内容が伝わりやすくすることと、自分たちの絵が映し出されることでコンテストへの参加意識を高めようとした。

11年生では、レシテーションの他に、選択科目「英語会話」を履修している生徒から代表者 1 名が、授業で行った他国文化を紹介するプレゼンテーションを披露した。10年生と合同発表の場面を生かして、11年次の選択科目への具体的イメージを抱かせ、意欲を高めてもらいたいというねらいがあった。

さらに、IB生においては、10、11年生の各学年2名、計4名の代表生徒がスピーチを行った。中でも、自身の海外滞在経験を基にした人種差別の問題を訴えるスピーチは説得力があり、用意されていたスライドにも多くの工夫があったことで、生徒たちも釘付けになる場面があった。自分の意志と言葉で力強く語られるプレゼンテーションの数々に、多くの生徒が真剣に耳を傾けていた。

会場で聴いている生徒たちには、レシテーションコンテストの感想を書かせる用紙を配り、その投票数で選ばれる「オーディエンス賞」という賞を用意した。このオーディエンス賞は、後日集計後に、学年朝会の場面で表彰された。まさにレシテーションの名の通り、代表者の誰もが自分の物語を語るかのように活き活きと感情を込めて英語で発表する姿は、会場にいる生徒も思わず聴き入るほどであった。

【成果】

1st ステージのレシテーションテストに向けた練習では、例年使用していたプリントを活用し て行った。左にスラッシュで区切った英文、右にその日本語訳が書かれたプリントを用いて、 日本語訳だけを見ながらその日本語を英語で言えるように練習を促し、自然と日本語→英語へ の変換に慣れさせ、物語のリ・プロダクションへ繋げていくことを目指している。この練習方 法は、生徒からも評判がよく、特に A&PL コースの生徒の間では、成果が実感できるという 声があった。英語をスラッシュで暗唱させることによって、自然と頭の中で英文を作成してい く力を身につける第一歩となり、「英語の自動化」へこのアクティビティがつながっていくこ とを願う。また、今回のコンテストでも、前年度に続き生徒たちで運営していく形式を取り入 れた。昨年度、初めてこのレシテーションコンテスト実行委員を結成することができたが、そ のメンバーの多くは、進学先の決定している 12 年生を中心としていた。そのため、実際にコ ンテストに出席している 10年生と 11年生の声を反映させることが難しかった。この反省点 を踏まえ、今年度は 10 年生と 11 年生を中心に全校生徒に呼びかけ、最終的に全部で 10 人の 有志実行委員メンバーを集めることができた。仕事内容としては、代表生徒が発表する原稿の 原作本からワープロへの書き起こし、生徒が描いてきた「星の王子さま」のイラストの選別と スライドショーの作成、進行表作成、当日の写真撮影などがあった。教員数の不足などにより、 英語科教員だけでは厳しい細かい作業を実行委員生徒に依頼することができ、大変心強かっ た。10年生のメンバーには、来年度での活躍も期待したい。

【課題と今後の取り組み】

ようやく4年目となった今回のコンテストでは、実行委員等で生徒の主体的な関わりを増やしていくことができ、コンテストの流れも安定した。一方で、ファイナルステージで代表に選ばれることを拒否する生徒もいたのは残念であった。日頃の教科指導において、音読やプレゼンテーションによる英語のアウトプット作業に慣れさせ、大舞台へ自らチャレンジする意欲を持たせるような環境づくりが必要だと感じる。また、今回のコンテストでは特にIB生徒によるプレゼンテーションの評判が高かった。音読による「英語の自動化」だけで終わるのではなく、IB以外のコースでも、自分の言いたいことを英語で表現していけるような練習を増やし、コンテスト自体のレベルアップにも繋げていきたい。

【当日の様子】



実行委員による開会のあいさつ



10年生 「星の王子さま」



会場の様子



11年生 「オバマ前米大統領スピーチ」



表彰式



ELF の先生からのコメント

≪2≫ PKO 写真展、難民映画祭の開催

(1) PKO 写真展

内閣府国際平和協力本部事務局 (PKO) の協力のもと、「国際平和協力法 (PKO法) 制定 25 周年記念写真展」を 2017 年 10 月 13 日から 11 月 11 日まで、MMRC を会場に開催した。「世界の笑顔のために」と題されたこの写真展は、施行後 25 年の PKO の活動をより多くの人に伝え、これからの国際協力の在り方を考えるきっかけとなることを目的にしている。玉川学園では、小学生から高校生までが自然に目にすることができるように、38 枚の写真を図書館の機能を兼ね備えた生徒のための学習情報センターMMRC で展示した。



SGH プログラムの1つとして、一昨年、昨年はUNHCR の協力を得て難民写真展を開催、今年度は PKO 写真展を開催した。紛争地域での活動に目が行きがちであるが、民間人も数多くPKOに参加、貢献しており、その姿を中心に写真を選抜し、展示した。1992年以来行われてきた、国際平和への人的、物的協力を記録した写真は、現場でしか分からない状況を伝えている。



具体的には、南スーダン、ハイチ、ネパールなどの地域で行われた、道路の維持補修、物資の提供といった支援活動や、現地の人々との温かな交流の様子を写した写真で、MMCRに立ち寄った生徒たちが PKO の草の根的活動を知るいい機会となった。



(2) 難民映画祭

昨年度に引き続き、「国連 UNHCR 難民映画祭ー学校パートナーズ」参加イベントとして 2017 年 10 月 6 日に開催した。当日は、スウェーデンのドキュメンタリー映画『ナイス・ピープル』を上映した。また上映とともに、駐日スウェーデン大使館の広報官アダム・ベイェ氏を招聘し、スウェーデンの実情と映画に関する講演をしていただいた。



以下に、ベイェ氏の挨拶を記載する。

「19世紀、餓えや貧困、宗教的迫害によって約130万人がアメリカに移住した歴史を持つスウェーデンは、難民への理解も厚く、20世紀になると多くの移民・難民を積極的に受け入れてきました。最近も、10万人以上のシリア難民を受け入れています。しかし一方では、現実には経

済や年金が脅かされるという理由から受け入れに批判的な意見もあります。これはスウェーデンにおける難民問題に関する映画です。スポーツを使ってこの問題の解決を図りました。生きるために危険を冒して逃げてきた人たちがいます。あなたは彼らをどう助けられるかを考えながら観てほしいと思います。」



映画『ナイス・ピープル』は、ソマリア難民という過去を抱えた若者たちが、スポーツをとおして成長していく姿を追ったドキュメンタリーで、序盤、内戦を逃れ、スウェーデンの田舎町ボーレンゲで暮らすソマリア難民の若者たちが、町の住民とうまく交流できず煙たがられる様子が映し出される。その後、「"バンディ"という氷上スポーツのソマリア人チームを結

成し、ソマリア代表として世界選手権に出場しよう」という地元事業家の提案ではじまった特訓の日々と、世界選手権が近づくにつれて、祖国でのつらい経験や異国の地にいる孤独感を共有しながら、固い絆を結んでいく若者たちの姿が丹念に描かれている。終盤の世界選手権でチームが一致団結するシーンでは、多くの来場者が涙ぐみながらスクリーンを見つめていた。上映後、ベイェ氏が話された感想にも共感の輪が広がり、会場は一体感に包まれた。









生徒の感想:・スウェーデンでの難民に対する現実を知って驚いた。難民問題についてすご く考えさせられた。

- ・少し怖いという難民に対するイメージが変った。葛藤を抱えながらスポーツ をする姿は人間味があり共感した。
- ・身近な方法で解決しようとしていたので、自分たちにもできることがあると 感じられ、難民問題の解決に対する敷居が下がった。
- ・難民の人たちを"違う人"という目で見るのはやめようと思った。海外に行ったり、留学生と話したり、ホストとして受け入れたりしたい。
- ・ 難民問題の背景をもっと知っておくべきだったと思った。これから調べ、正確な情報を得て、自分たちができるアクションは何かを考えていきたい。

≪ 3 ≫ 玉川学園 SGH 広報活動

(1) 学内 LAN による広報

玉川学園では、CHaT Net (Children, Homes and Teachers Network) という、児童・生徒と家庭 (保護者)と教職員 (学校)が参加できる教育コンピュータ・ネットワークがある。そのネットワークを用い、グローバルキャリア講座や研修旅行、Webページオープン

のお知らせや SGL48 ポイント制度など SGH に関する告知をおこなっている。専用メー ルアドレスも設け、生徒や保護者からの質問にメールでも対応できている。また、海外研 修中のオンタイムの情報が研修先から随時アップされている。

(2) 校舎内の掲示、モニターによる広報

高学年校舎3階、4階の生徒ラウンジにSGH掲示板を設置し、今年度のグローバルキャリ ア講座の講師の先生方一覧および SGH に関する研究会や研修のお知らせなどを掲示する スペースを設けている。校舎内5カ所にあるディスプレイを利用して、講話実施のお知ら せや研修参加者募集のお知らせを流している。最も出入りが多い校舎の入り口でも積極的 な広報を行っている。また、地歴公民科研究室前と英語科研究室前の掲示板を用いて、コ ンクール・コンテスト、イベント関係のポスターを掲示し、生徒の目に触れるようにして いる。











モニターを使っての広報

(3) Web 上での日本語および英文ホームページの作成による広報 2014年9月に開設したSGH専用のホームページで、SGHの取り組みを日本語と英文 で発信している。

> SGH Web ページアドレス http://SGH.tamagawa.ed.jp/

- (4) 研修参加生徒による学内生徒発表会や展示発表の実施
 - 1 ペガサス祭
 - 2 第6回探究型学習研究会(グローバル時代のアクティブラーニング)
 - 3 SGH·SSH 生徒研究発表会、成果報告会
 - 4 ラウンドスクエア、アフリカン・スタディーズ、ヨーロピアン・スタディーズ研修 報告会
- ≪ 4 ≫ 国際教育 NGO サスティナビリティー・フロンティアーズによる定期評価

今年度も2回、SGH 運営指導委員会(ハイパネルチーム)によるミーティングを Skype で 実施した。

◆第1回 ハイパネルミーティング 2017年7月5日(金) 16:15-17:30 セルビー委員長 創設ディレクター Sustainability Frontiers 出席者

香川文代先生 リサーチディレクター Sustainability Frontiers 松田 文先生 アリゾナ州立大学准教授 学内 長谷部・上村・硤合・小林・濱野・大原・前田・横松・小野口

◆第2回 ハイパネルミーティング 2018年2月23日(金)16:30-18:00

The Agenda for the 2nd High Panel Meeting for SGH Tamagawa Academy

参加者:セルビー委員長、松田先生、香川先生(サステナビリティ・フロンティアーズ) 渡瀬、上村、後藤、硤合、前野、大原、坪井、マキニス、ロジャース、濱野、 小林香奈子、横松

- 1. The Actions in order to improve Tamagawa SGH projects
 - a. Global Career Lectures
 - (ア) 改善点の報告
 - ① 前回の会議でも改善点として指摘された講師の話を聞いて終わるのではなく、講師の話と事前ディスカッションや事後のフィードバックセッションとのセットという3回シリーズで実施をした。
 - ② 生徒からの要望による講師を招聘した(LGBT問題)
 - (イ) 身近な問題をテーマにしたのは大変よい試みである。
 - (ウ) 生徒自身が「カミングアウト」できる環境にあるか
 - b. Poster Session with SSH (Super Science High school) on March 12 SGH と SSH が合同で初の試みとして約60名の生徒が発表予定
- 2. For the last year as SGH

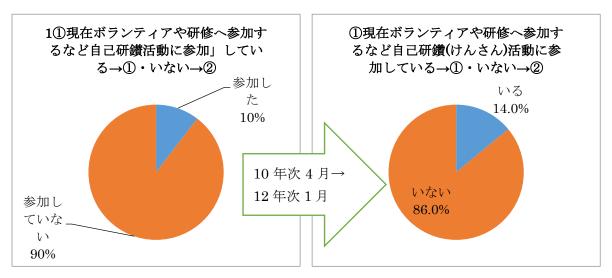
Handbook 制作に関して

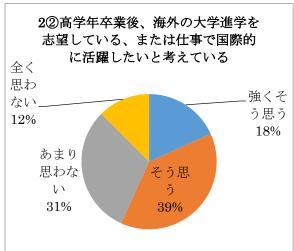
- (ア)事前にトピックがわかるとアクティビティが作成しやすい(お互いに)
- (イ) 先生同士のワークショップを実施して、単元におけるカギとなる考えや学びに ついて討論してはどうか
- (ウ) ポートフォリオの形で残しておく
- 3. After 2020—Selection of Continual Programs

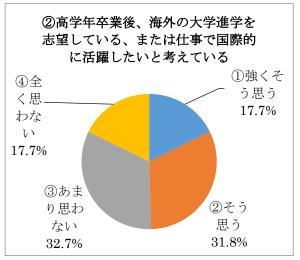
方向性としては、SGH 終了後も続けられるプログラムは残していく方向である。グローバルキャリア講座もその実施のフレームワークを活用して SSH でも実施していく方向である。

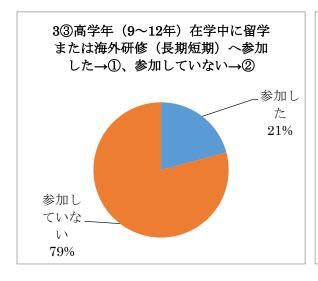
- お金のかからない形で継続できるものは残していった方がよい。地元、玉大との連携、大学生とのセッション、同窓生の活用などをぜひ検討してもらいたい。
- 実施に関しては自由度をもって非公式な形でもよい。
- カリキュラムとのつながりをさらに重視して深めてもらいたい。

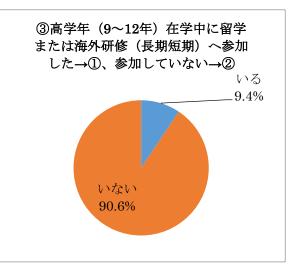
提示資料:生徒意識調査結果

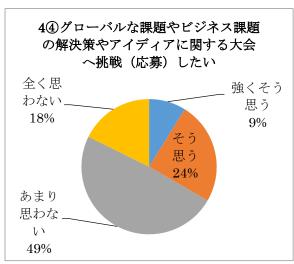


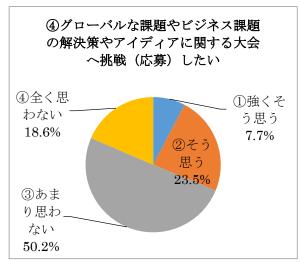


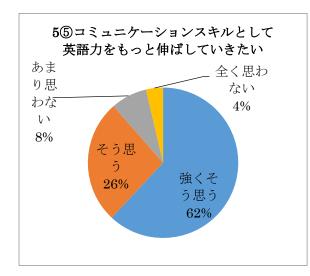


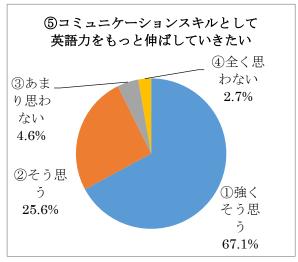


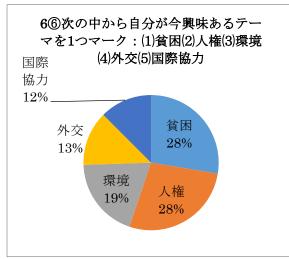


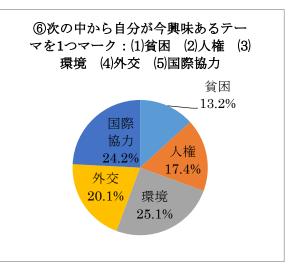


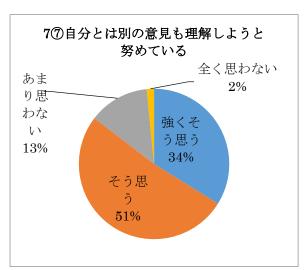


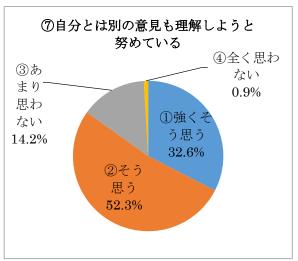


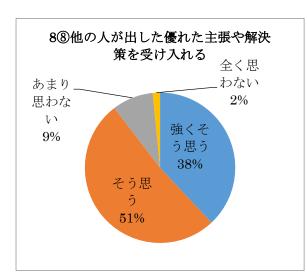


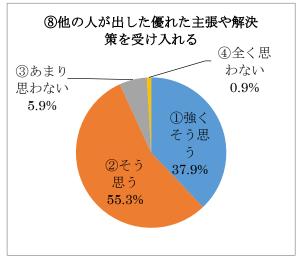


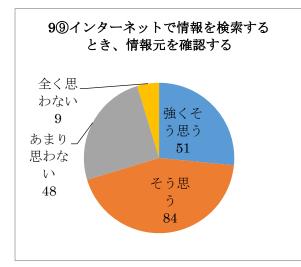


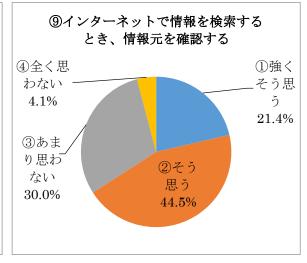


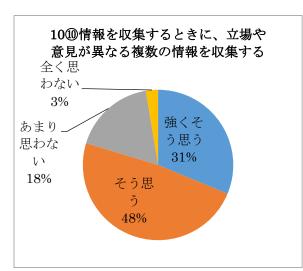


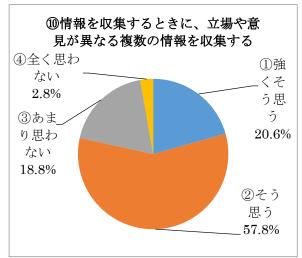


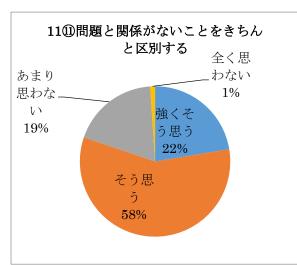


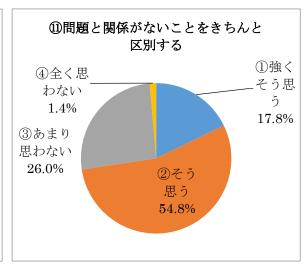


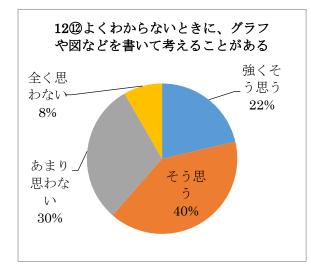


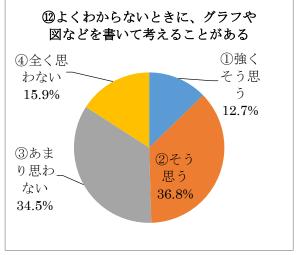


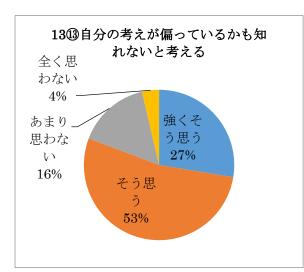


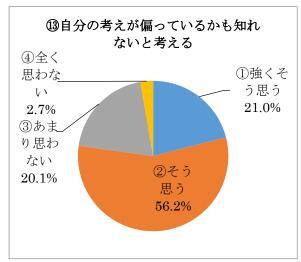


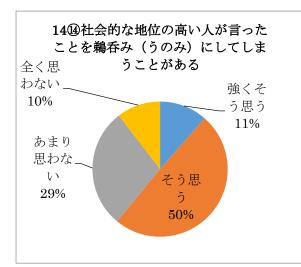


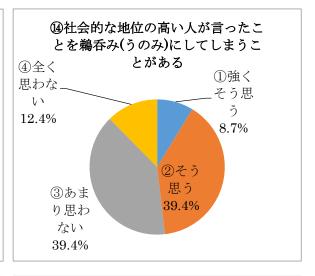


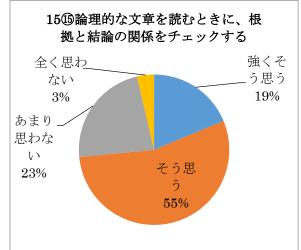


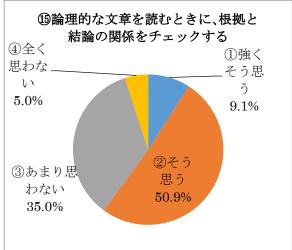


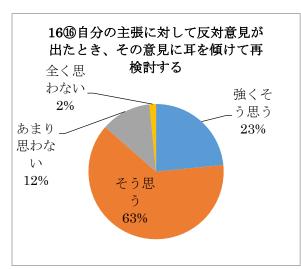


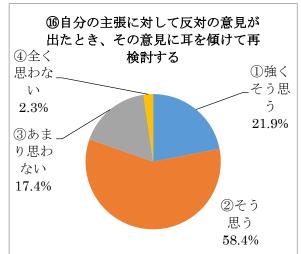


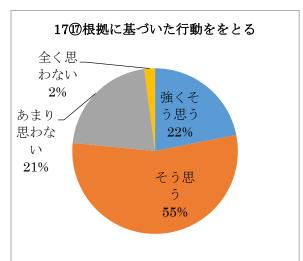


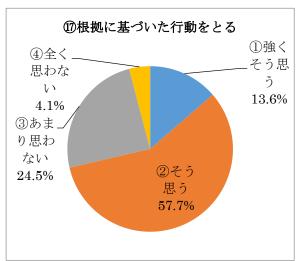


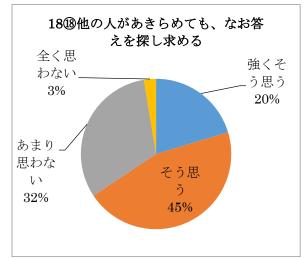


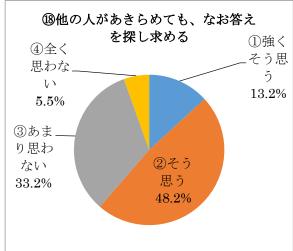


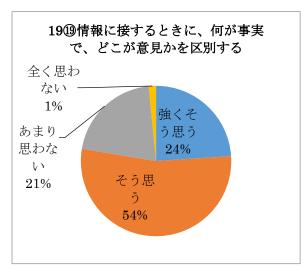


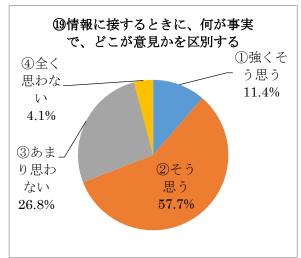


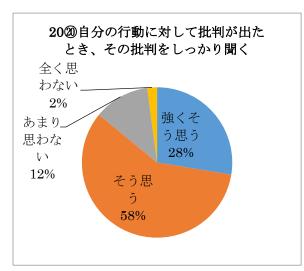


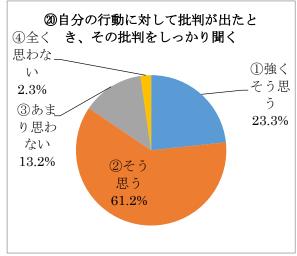












http://sgh.tamagawa.ed.jp/en/

<SGH 重点対象生徒内訳>236 名(延べ人数ではなく実人数)/全校生徒887 名

- · IB (9~12年)= 97名
- ・自由研究グローバルスタディーズ= 26名
- ・ワールドスタディーズ/WSE 履修者= 19 名
- ・模擬国連履修者= 28名
- ・ラウンドスクエア実行委員会= 66名
- ○グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数:
 - ・JICA 2017 エッセイコンテスト(33)
 - ・WFP 2017 エッセイコンテスト(22)
 - ・日本国連協会「第64回高校生のスピーチコンテスト」(1)
 - ・国際ソロプチミスト厚木第20回ユースフォーラム(1)
 - 2017 Business Idea Contest FedEx Express(2)
 - ・東洋英和女学院レシテーションコンテスト(1)
 - ・第9回高校生英語エッセイコンテスト(5)
 - ・アルク翻訳コンテスト 2017(1)
 - ・瀬戸内・松山国際写真俳句コンテスト(English)(1)
 - ・2017 年度 SGH 全国高校生フォーラム研究発表会(3)
 - ・第2回関東・甲信越静地区 SGH 課題研究発表会 英語発表(9)
- ○公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数:

対象生徒:国連 WFP エッセイコンテスト最優秀 WFP 賞(1)

JICA エッセイコンテスト 2017 佳作(1)

国際ソロプチミスト厚木第20回ユースフォーラム優秀賞(1)

第2回関東・甲信越静地区 SGH 課題研究発表会 金賞(1)

第65回第8支部英語スピーチコンテスト(1)

対象生徒以外:なし

≪5≫ 卒業生に対する追跡調査

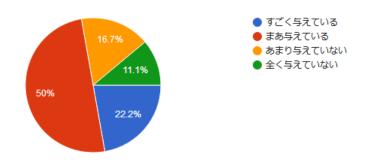
2017 年 3 月に本校を卒業した生徒に対して、9 月に追跡調査を実施し、アンケートに回答してもらった。

2016年度卒業生追跡調査 玉川学園高等部 2018/02/16

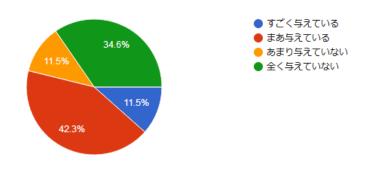
く上段(フォームA): 重点生徒 18名、下段(フォームB: 一般生徒 26名>

1.玉川学園でのSGHの活動(課題研究含)はあなたの現在の大学の専攻分野の選択に何らかの影響を与えていますか

18 件の回答

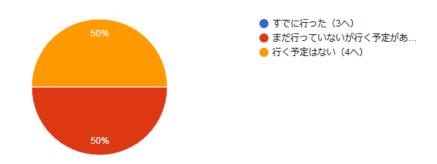


1.玉川学園でのSGHの活動(課題研究含)はあなたの現在の大学の専攻分野の選択に何らかの影響を与えていますか



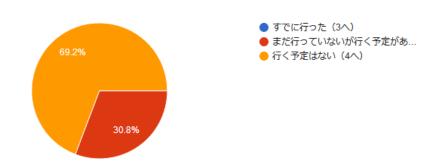
2.大学在学中に留学または海外研修(数日)へ行く予定がありますか

18 件の回答



2.大学在学中に留学または海外研修(数日)へ行く予定がありますか

26 件の回答



3. <2で「行った」または「行く予定がある人のみ> 留学・研修先・期間はどこへ行きましたか。または行く予定ですか? 具体的な国名・研修先(学校名や機関名)・期間を以下へ簡単に書いてください。

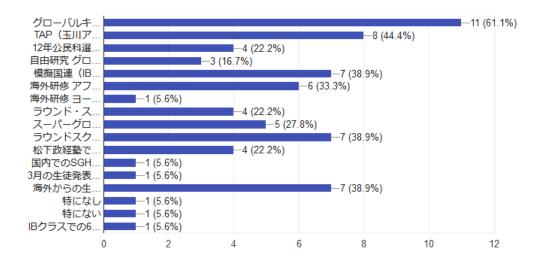
韓国
イギリス、University of Exeter、3年間
アメリカ約1年
オーストラリアーヶ月
オーストラリアのRMIT大学に進学します。通常の留学なので、期間は3年~です。
アメリカ/カナダ
ドイツまたはイタリア
まだ決まっていない。
URLA又はUCRに半年

3.<2で「行った」または「行く予定がある人のみ>留学・研修先・期間はど こへ行きましたか。または行く予定ですか?具体的な国名・研修先(学校名 や機関名)・期間を以下へ簡単に書いてください。

8件の回答

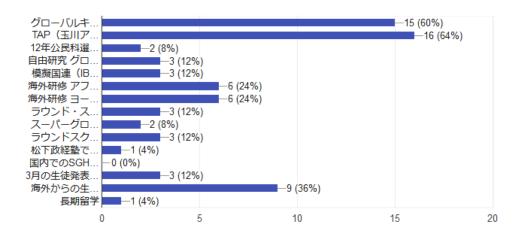
イタリア
イギリス
アメリカ 短期か長期か悩み中
オーストラリア
ハワイ
イギリス 10ヶ月
ニュージーランド(オークランド) 1ヶ月
来年の夏から1年間オーストラリアのメルボルンに留学する

4.SGHの活動であなたの印象に残っているものは何ですか。印象に残っているもの全て選んでください。(自分が参加していなくても可)



4.SGHの活動であなたの印象に残っているものは何ですか。印象に残っているもの全て選んでください。(自分が参加していなくても可)

25 件の回答



5.あなたは現時点で将来国際機関や国際NGOへインターンや就職をしてみたいと考えていますか?

18 件の回答



5.あなたは現時点で将来国際機関や国際NGOへインターンや就職をしてみたいと考えていますか?



【別紙様式7】

ぶりがな がっこうほうじん たまがわがくえん たまがわがくえんこうとうぶ・ちゅうがくぶ 学校名 学校法人玉川学園 玉川学園高等部・中学部 指定期間 26~30

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1.	1. 本構想において実現する成果目標の設定(アウトカム)								
		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
	自主的に社会貢献活動	かや自己研鑽	活動に取り組	む生徒数					
а	SGH対象生徒:			89 人	85 人	88 人	76 人	人	200人
	SGH対象生徒以外:	人	58人	134 人		173 人	53 人	人	20人
	目標設定の考え方:年 「参加している」と答え <i>†</i>		識調査「現在	Eボランティア [.]	や研修へ参加	するなど自己	と研鑚活動に	参加」している	」のうち、
	自主的に留学又は海タ	ト研修に行く生	徒数						
b	SGH対象生徒:			36 人	50 人	84 人	71 人	人	70人
	SGH対象生徒以外:	61人	64人	36 人	45 人	62 人	30 人	人	30人
	目標設定の考え方:年	間を通じて本	校で募集また	は自主的に参	参加して届け出	出た海外研修	への参加人数		
	将来留学したり、仕事で	で国際的に活	躍したいと考え	える生徒の割	合				
С	SGH対象生徒:			64.6%	80.5%	82.6%	75.2%	%	20%
	SGH対象生徒以外:	%	9.7%	58.3%	46.4%	56.7%	40.4%	%	10%
	目標設定の考え方:年 と考えている」のうち、「					学を志望して	いるまたは仕	事で国際的に	活躍したい
	公的機関から表彰され 者数	た生徒数、又	はグローバル	ンな社会又はt	ごジネス課題に	に関する公益	性の高い国内	内外の大会に	おける入賞
d	SGH対象生徒:			6 人	3 人	5 人	6 人	人	6人
	SGH対象生徒以外:	人	2人	2 人	0 人	0人	0 人	人	4人
	目標設定の考え方:学	校で募集また	は個人参加で	で学校へ届け	出た国内外の	大会での入資	首者数		
	卒業時(高3)に おける生	⋸徒の4技能の	O総合的な英	語力としてCE	FRØB1∼B2	レベルの生徒	の割合		
е	SGH対象生徒:			42.5%	47.8%	84.9%	58.1%	%	20%
	SGH対象生徒以外:	11%	9%	9.8%	8.6%	3.8%	14.5%	%	15%
	目標設定の考え方:英 合	検2級、TOEIC	550点、校内	GTEC550点、	TOEFL57点、	IELTS4.00)	すれが以上	を保持している	生徒の割
	(その他本構想におけ	る取組の達成	目標)						
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
	目標設定の考え方:								

1'	1'指定4年目以降に検証する成果目標								
		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	日保胆(33年)
	国際化に重点を置く大学 へ進学する生徒の割合								
	SGH対象生徒:			64%	%	%	%	%	12%
а	SGH対象生徒以外:	11%	18%	21%	%	%	%	%	7%
	目標設定の考え方:文科省指定のSGU37校およびグローバル人材育成推進事業採択大学42校の合計79大学、青学大、明治学院大の81校のいずれかへ進学した生徒								
	海外大学へ進学する生	徒の人数							
b	SGH対象生徒:			4人	人	人	人	人	15人
	SGH対象生徒以外:	2人	5人	3人	人	人	人	人	5人
	目標設定の考え方:海	外の大学へ高	等部卒業後	、直接進学先	として選択した	生徒の人数			
	SGHでの課題研究が大	学の専攻分	野の選択に影	響を与えた生	徒の割合				
c	SGH対象生徒:			72%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	-	-	54%	%	%	%	%	10%
	目標設定の考え方:28年	年度卒業生全員	員182名へ対し	て、9-10月にか	けて実施した追	島跡調査で「強く	そう思う」「そう	思う」と答えた	生徒の割合
	大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
١.	SGH対象生徒:			9人	人	人	人	人	20人
d	SGH対象生徒以外:	_	-	8人	人	人	人	人	10人
	目標設定の考え方:28: ある」と答えた生徒の人		、対して、9-10)月にかけて事	ミ施した追跡調	間査ですでに行	うった」「ま <mark>だ</mark> ん	行っていないか	が行く予定が

2	. グローバル・リー	-ダーを育成	する高校と	こしての活動	か指標(アウ	ウトプット)			
		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	日标恒(30年 度)
	課題研究に関する国タ	トの研修参加を	者数						
а		人	25人	29 人	24 人	34 人	44 人	人	50人
	目標設定の考え方:ア 研修への参加者数	フリカン・スター	ディーズ、ヨー	ロピアン・スタ	ディーズ、豪	州熱帯学習研	f修、ABI研修	、その他個人参	参加の海外
	課題研究に関する国内	内の研修参加を	者数						
b		人	0人	34 人	42 人	46 人	205 人	人	50人
	目標設定の考え方:国ア、たまがわ会議などへ			関連するワーク	ウショップ、研究	2発表会、筑波·	グローバルリー	·ダーズプログラ	ム、留学フェ
	課題研究に関する連携	馬を行う海外大	∵学•高校等 <i>0</i>)数					
С		校	1校	3 校	4 校	3 校	3 校	校	10校
	目標設定の考え方:海	外研修での訪	i問校						
	課題研究に関して大学	学教員及び学生	上等の外部人	材が参画した	延べ回数(人	数×回数)			
d		人	1人	27 人	36 人	27 人	2 人	人	5人
	目標設定の考え方:グ	ローバルキャ	リア講座や模	擬国連等で大	学の先生から	ら研究課題に	関する講義を	受けた人数お	よび回数
	課題研究に関して企業	ミスは国際機関	4等の外部人	材が参画した	延べ回数(人	数×回数)			
е		10人	17人	9 人	50人	46 人	14 人	人	20人
	目標設定の考え方:グ	ローバルキャ	リア講座や模	擬国連等で国	連機関、国際	祭NGO等から	参画した講師	の人数および	参加回数
	グローバルな社会又は	はビジネス課題	に関する公益	益性の高い国!	内外の大会に	おける参加者	香数		
f		人	30人	50 人	53 人	102 人	91 人	人	60人
	目標設定の考え方:学	校からの応募	や申し出のあ	ちった個人参加	の課題研究	に関する大会	やコンテスト	への参加生徒	数
	帰国・外国人生徒の受	入れ者数(留	学生も含む。)					
g		104人	74人	133 人	106 人	215 人	71 人	人	120人
	目標設定の考え方:学	:園国際交流セ	:ンターがまと	める年度末デ	ータのうち9~	~12年生の受	:入数		
	先進校としての研究発	表回数							
h		10	10	4 💷	18 🗓	7 回	6 💷		5回
	目標設定の考え方:教	 [員および生徒	による研究発	表数					
	外国語によるホームペ	 ジの整備状	 :況						
	〇整備されている Д	∆一部整備さ∤	こている ×	整備されてい	ない				
ı		Δ	Δ	0	0	0	0		0
	目標設定の考え方:グ	ローバルキャリ	ア講座や模擬	国連などの様子	を定期的に更	新して発信する	5		
	(その他本構想におけ	る取組の具体	的指標)						
j									
	目標設定の考え方:								
	調査の概要について								_
1.	生徒を対象とした調	丑に りいし	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	全校生徒数()	()	963	918	902	888	878	893	0
	SGH対象生徒	数			181	180	159	234	
	SGH対象外生徒	数			711	708	719	659	

<平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート>

平成 29 年度内訳

1. 本構想において実現する成果目標の設定(アウトカム)

/11年/	也にわい(夫現する成未日標の故た (ナリトガム)
a	自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数:
	マークシート「自己研鑽活動に取り組んでいる」において、①強くそう思う②そ
	う思うを記入した生徒。
b	自主的に留学又は海外研修に行く生徒数:
	SGH 関連 AFS+EURS(35)
	Round Square 関連(9)
	12 年生派遣プログラム(2)
	その他短期および中期(48) 長期(7)
c	将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合:
	マークシート「高学年卒業後、留学したり、仕事で国際的に活躍したい」におい
	て、①強くそう思う②そう思うを記入した生徒。
d	公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関
	する公益性の高い国内外の大会における入賞者数:
	対象生徒:国連 WFP エッセイコンテスト最優秀 WFP 賞(1)
	JICA エッセイコンテスト 2017 佳作(1)
	国際ソロプチミスト厚木第 20 回ユースフォーラム優秀賞(1)
	第 2 回関東・甲信越静地区 SGH 課題研究発表会 金賞(1)
	第 67 回第八支部英語スピーチコンテスト「中学レシテーション」部門 3 位(1)
	第 67 回第八支部英語スピーチコンテスト「高校フリースピーチ」部門 3 位(1)
	対象生徒以外:なし
e	卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力として CEFR の B1〜B2 レベ
	ルの生徒の割合:
	TSGL48 Scoring System において、4-5 ポイントに相当する検定取得者。
	(対象生徒 144 人・対象生徒以外 71 人)

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標(アウトカム)

a	課題研究に関する国外の研修参加者数:
	アフリカンスタディーズ 2017(17)、ヨーロピアン・スタディーズ 2018(18)、豪州熱
	帯学習研修(6)、ABI 研修(1)、FTCJ インドツアー(1)、模擬国連カナダ(1)
	への参加者数
b	課題研究に関する国内の研修参加者数:*以下の表記のうちサポートボランティア、
	環境人権学、海外研修を除いた生徒数

年月日	イベント名	Point	参加数
2017/11/25	全国SGH生徒課題発表会	3	3
2017/12/14	上智大学講演会「人間の安全保障の役割」	4	1
2017/03/31	高校生のための議員インターンシップ参加	4	1
2017/08/02	慶應大学未来構想キャンプ参加	4	1
2017/07/25	第17回日経エデュケーションチャレンジ参加	2	1
2018/02/10	RS·AFS·EUS学年発表者	4	14
2018/02/02	12年特別授業 環境人権学	2	13
2018/01/27	RS·AFS·EUS学年発表者	4	12
2017/09/21	筑波大ジュニア・グローバル・リーダーズプログラム選出	4	2
2017/10/28	探究型学習研究会生徒発表	4	29
2018/03/12	H29年度SGH/SSH生徒研究発表会·成果	4	4
2017/12/18	2017IB/Model United Nations	2	28
2017/11/03	カナダ留学フェア	1	1
2017/10/21	英国留学フェア	1	1
2017/10/08	ニュージーランド留学フェア	1	1
2017/10/07	オーストラリア留学フェア	1	1
2017/09/09	アメリカ留学EXPO	1	1
2017/11/19	UNHCR難民高等弁務官講演会出席@上智	4	1
2017/10/14	模擬国連 ShawMUN(Canada Victoria)参加	4	1
2017/10/16	国際機関合同就職説明会参加	4	1
2017/10/20	SGHサポートボランティア GC講座11	1	0
2017/10/16	上智大学主催UNHCR難民映画祭	4	2
2017/10/16	国連機関合同就職説明会	4	3
2017/10/05	難民映画祭サポートボランティア	1	1
2017/09/28	SGHサポートボランティア GC講座10準備	1	7
2017/08/14	HLAB Miyagi-Onagawa 2017	4	1
2017/08/07	FTCJ インドスタディーツアー参加(8/7-13)	4	1
2017/05/01	筑波-UBC Global Leaders Program 2016	4	3

	20170022	2017/04/27	SGHサポートボランティアGC講座1	1	12			
	20170021	2017/06/15	SGHサポートボランティアGC講座5	1	11			
	20170018	2017/07/18	たまがわ会議1日目	2	89			
	20170015	2017/02/11	MUN in 洗足学園	4	1			
	20170014	2016/11/26	MUN in K-International School	4	1			
	20170013	2016/11/03	カナダ留学フェア	1	1			
	20170012	2016/08/10	アメリカンセンターe-library講習会	1	1			
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数:							
	St.Cyprian's School(南アフリカ)、Maru A Pula School(ボツワナ)、エシント							
	ン校 (オーストラリア)							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
u								
	・ グローバルキャリア講座関連 (1) 玉川大学、模擬国連(1) GRIPS							
	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
е	赤皮川九に因して止未入は巴际域民守リアの人物が多回しに延べ四数(入数へ回数) ・							
	・							
	グローバルキャリア講座関連(13)、模擬国連(1)FAO							
f		は紅笠又はヒシ	ネス課題に関する公益性の高い国内外の	大会に	びける参			
	加者数:							

年月日	イベント名	Point	参加数
2018/02/17	第67回第八支部英語スピーチコンテスト	5	2
2018/01/12	TOEIC表彰IBC Award of Exellence	5	1
2017/12/23	第2回関東甲信越静地区SGH生徒課題研	3	9
2018/01/10	JICA高校生エッセイコンテスト2017 佳作	5	1
2017/12/23	第2回関東甲信越静地区SGH生徒課題研	5	1
2017/12/23	第2回関東甲信越静地区SGH課題研究発	4	6
2017/12/21	英語暗唱コンテストクリスマスカップ2017実行委員	1	10
2017/12/21	英語暗唱コンテストクリスマスカップ2017入賞	4	9
2017/12/21	英語暗唱コンテストクリスマスカップ2017出場	3	32
2017/11/30	瀬戸内・松山国際写真俳句コンテスト(Engli	3	1
2017/10/31	アルク翻訳コンテスト2017	3	1
2017/11/25	2017年度SGH全国高校生フォーラム研究	4	3
2017/09/25	WFPチャリティー エッセイコンテスト2017WF	5	1
2017/09/01	第9回高校生英語エッセーコンテスト応募	3	5
2017/03/21	東洋英和女学院レシテーションコンテスト	3	1
2017/06/26	2017 Business Idea Contest FedEx Expres	3	2
2017/06/10	国際ソロブチミスト厚木第20回ユースフォーラム	5	1
2017/07/01	日本国連協会「第64回高校生のスピーチコ	2	1
2017/07/01	JICA2017エッセイコンテスト応募	2	33
2017/07/01	WFP2017エッセイコンテスト応募	2	22

上記のうち、学内英語暗唱コンテスト「クリスマスカップ」への参加者数を除いた人数

g 帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。):

2017年4月~2018年3月までの留学受入数。

スイス 2, オーストラリア 9, 台湾 2, オーストラリア 4, カナダ 1, シンガポール 1, ドイツ 12, オーストラリア 18, オーストラリア 13、イギリス 1, ブラジル 4, 台湾 2, デンマーク 2,

h 先進校としての研究発表回数:

<教員発表>

①2017.12.7 ILO セミナー:児童労働のいまと SDG s 達成に向けて〜私たちにできるアクション〜講演 セッション2:「第4回児童労働世界会議報告と日本への示唆」国連大学本部 エリザベス・ローズ会議場

<生徒発表>

ペガサス祭(文化祭)展示、探究型学習発表会、SGH 全国高校生フォーラム、第 2 回関東甲信越静地区 SGH 生徒課題研究発表会、3月生徒発表会

i 外国語によるホームページの整備状況:

TSGH HP http://sgh.tamagawa.ed.jp/en/

<対象生徒内訳>(延べ人数ではなく実人数)

- ·IB (9~12年)= 97名
- ・自由研究グローバルスタディーズ= 18名
- ・ワールドスタディーズ/WSE 履修者= 26 名
- ・模擬国連履修者= 15名
- ・ラウンドスクエア実行委員会= 78名

目標設定シート算出シート

対象重点生徒:IB,ワールド・スタディーズ、環境人権学、自由研究グローバルスタディーズ、ラウンドスクエア実行委員会、模擬国連、IBMUN、

CEFR B1以上とは、英検2級、TOEIC550点、校内GTEC550点、TOEFL57点以上、IELTS4.0以上のいずれかを保持している生徒を抽出した

入力項目	シート必要データ			
年度	2017			
生徒総数	89	93		
学年	対象生徒	一般生徒		
9(中3)年	44	147		
CEFR B1以上の生徒数	32	3		
10年	66	178		
CEFR B1以上の生徒数	38	15		
11年	62	182		
CEFR B1以上の生徒数	38	32		
12年	62	152		
CEFR B1以上の生徒数	36	22		
生徒合計	234	659		
CEFR B1以上の生徒数	144	72		
CEFR B1以上の生徒合計数	216			
CEFR B1以上の全校生徒における割合	24%			

学年	CEFR B1以上の生徒割合				
9	72.7%	2.0%			
10	57.6%	8.4%			
11	61.3%	17.6%			
12(1-e数值)	58.1%	14.5%			
平均	62.4%	10.6%			

生徒成果物

3月12日 SGH・SSH 生徒課題発表会 口述発表要旨1

SGH 全体口頭発表要旨

玉川学園高等部中学部

中東情勢の変遷とパラダイムシフト イラン・イスラーム共和国とサウジアラビア王国の関係から読み解く グローバル・スタディズ 10年

1. 研究の目的と背景

「中東」と言う言葉はニュースや新聞でよく目にすることがあると思う。メディアでは良く、中東でのテロ組織による犯行や、反政府組織による内戦などが報道されている。中東地域は現在、シリアで起こっている内戦やイスラーム国(ISIS)などとの戦争などによって極めて不安定な情勢である。私は、今回の研究で安定しない中東地域をどのように安定させるかを考えるために「中東の安定化」と言うテーマで研究を進めた。進めていくうちに、中東の2大勢力であるサウジアラビア王国とイラン・イスラーム共和国に注目した。この2国の関係が中東地域全体に及ぼす影響を調べ、考察した。

2. 研究内容

今回の研究では、まず現在の中東情勢に着目した。

現在、中東地域では3つの地域紛争2が発生している。これは、イラクとイスラム国の間で発生している紛争と、シリアの内戦とイエメン内戦がある。ここでのサウジアラビア、イラン両国の関与の度合いを調べた。これによってイランとシリアはどちらも対立する立場で関与していることがわかった。

次になぜこの2国が対立しているのかを調べた。

対立する要因は大きく分けて2つある。1つ目は政治的関係性である。サウジアラビアは歴史的にアメリカとの関係が強く、イランは近年ロシアとの関係を強めている。2つ目は、この2国の宗教的違いである。どちらもイスラーム教の国ではあるがイランはシーア派が多数を占め、サウジアラビアやその周辺の国々はスンニ派が多数派である。

これらの要因によってサウジアラビアとイランは対立していることがわかった。

3. 結果と考察

今回の研究はなかなか安定しない中東情勢をどう安定させるかを考える中で、現在の中東情勢はどの様なものなのかを調べることから始め、中東地域の2大勢力であるサウジアラビア 王国とイラン・イスラーム共和国間関係とその影響について研究を行なった。

研究を行う中で、最近のイランとサウジアラビアの関係のあり方の変化や、これらの関係の中東地域全域に影響を及ぼしていることがわかった。また、中東地域で20世紀のアメリカ合衆国とソビエト連邦の間で起こった東西冷戦に似たような形の冷戦構造がイランとサウジアラビアの間で発生していることがわかった。

SGH 口頭発表要旨

玉川学園高等部中学部

ラウンドスクエア国際会議 2017

ラウンドスクエア研修参加 10年 4名

ラウンドスクエアとは IDEALS という理念に基づき活動する国際規模の学校連盟である。現在約50ヶ国180校が加盟しており、年に1度、国際会議が開かれる。 昨年の会議は南アフリカのケープタウンで5日間に渡り開かれ、玉川学園から5名、全体では47ヶ国1127人の高校生が参加した。今回の会議のテーマは"Unite to ignite the fire within"でこのテーマに沿ったアクティビティやディスカッション、基調講演などが行われた。

私たちは同世代の高校生と一緒に国際問題について考えることで、世界が直面している

問題を再確認すると同時に私たちにはどんなことができるのか、もっと日本を知り、 自分を知り、常に自分の考え・意見を持つことの重要性を感じた。









SGH 口頭発表要旨

玉川学園高等部中学部

フェアトレード教育の実践 グローバル スタディズ 11年

1. 研究動機

私は昨年度、日本におけるフェアトレードの問題点を挙げ、それに対する解決策を考えた。 そこで、「日本におけるフェアトレードの認知度・知名度が低い」という問題点に再注目し、 日本人のフェアトレードに対する認知度が低いのは教育に問題があるのではないかと考え た。したがって今回は、どのような教育を行えばフェアトレードの認知度が上がるのかを研 究することにした。

2. 研究内容

今回、「どのような教育を行えばフェアトレードの認知度が上がるのか」を研究するにあたり、実際に授業の計画案を作り、先生に授業をしていただくことにした。また、授業に伴いアンケートも実施した。

・授業の計画

授業は現在の中学3年生(9年生)を対象とし、今年の2月に公民の国際社会関係の単元に関連付けて行った。今回の授業では、生徒にフェアトレードを知ってもらい、身近に感じ、必要性を理解してもらうこと目的とした。そのため、授業では私たちに身近な商品であるコーヒー豆を例にして、先進国と途上国の格差を理解した上で、実際に生徒がコーヒー豆農家になりきり取引を行うゲームなども行った。

・アンケートの実施

授業に伴い、生徒へのアンケートを3回実施した。このアンケートの目的は、教育をすることでフェアトレードの認知度が向上するという私の主張を確実にすることだ。また、授業に対する生徒の意見を集めることで、どのような教育を行えばよいのか考察しやすくなるのではないかと考えた。まず授業前アンケートでフェアトレードの認知度を確認し、授業後アンケートではフェアトレードに対する生徒の理解度を確認した。さらに授業後10日以後にアンケートを行い、授業をきっかけに実践行動に移せているかどうか、調査した。

3. 考察

まず授業前アンケートの結果から、大半がフェアトレードについて知らず、実際にフェアトレードの知名度が低いことが分かった。それに対し授業後に行ったアンケートから、フェアトレードを理解し必要性を感じた人が多かったことから、今回の授業の目的は達成されたのではないかと考えられる。しかし、今回の授業とアンケートを考察した結果、様々な問題点が挙げられた。例えば、コーヒー豆を例に先進国と途上国の格差を知り、フェアトレードの必要性は理解してもらえたのだが、フェアトレード製品の値段の高さから購入をしないという意見が多かったことだ。そのため、フェアトレードを理解した上で、高価格となる製品への消費意欲の向上について、倫理的消費の視点などから引き続き研究したい。また、「どのような教育を行えばフェアトレードの認知度が上がるのか」に対して、最終的には自分でフェアトレード教育のマニュアル本を作ることで結論を導き出したい。

SGH 口頭発表要旨

玉川学園高等部中学部

多文化共生とマスメディア

ヨーロピアン・スタディズ 11年

LGBT の方の講演を聞いて、メディアによる「固定観念」創出に興味を抱き、研修での事前学習を通じて、特にナチスドイツによる大衆操作に関心を持つようになった。研修に参加し、アウシュビッツ強制収容所の見学、そこでの日本人ガイドである中谷さんの話を通じて、マスメディアによる情報で偏見や固定観念を持ってしまうのは、ナチスドイツによるホロコーストに限ったことではないと意識するようになった。様々な国の出身者が暮らす環境となった日本においても、外国人に関する偏見や固定観念、特にマイナスイメージを持っている人は多くいる。そのイメージを抱く原因の1つにマスメディアの存在がある。マスメディアを通して見たり聞いたりしたものは、事実の一部でしかないという意識を持つことが大切であるが、意識するだけでは不十分であり、実際に自ら見聞きして、関わりを持つことが必要になる。

生徒論文1 「私たちが 2020 年のオリンピックに向けて南アフリカのホストタウンとしてできること」

第1章 序論

今年から 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて始動した、自由研究「グローバルスタディーズ」のプロジェクト班に参加したことで、町田市が南アフリカ選手団のホストタウンであることを知った。そのことから、私たちは町田市にある学校としてどんなことに携われるのかを考えたいと思った。

そこで、私たちは「私たちが 2020 年のオリンピックに向けて南アフリカのホストタウンとしてできること」というテーマを立てた。

まず、町田市が南アフリカ選手団を受け入れるにあたって、町田市スポーツ振興課長の能條敏明さんが『Tokyo2020NHK情報サイト』で述べている言葉を紹介する。

「トップ選手らとの交流を通じて地元の子ども達の心に生涯残るような感動体験を作ってあげたいという思いからです。海外からの観光客に PR するきっかけになり、地域振興につながってくれたらという思いもありました。」

私たちは、この能條敏明さんの意見に賛同し、私たちの生涯の中でおそらくたった一度であろうオリンピックの東京での開催という貴重な機会を、ただ何もしないで見過ごしたくないという思いが生じた。また、町田市民の方々にも貴重な機会を無駄にしてほしくないと考え、このテーマに至った。

第2章 基本知識・問題の背景

第一に、この論題に取り組む大前提として東京が 2020 年のオリンピック・パラリンピック開催地に選ばれた理由や流れについて説明する。

2013 年 9 月 7 日にブエノスアイレスで開かれた国際オリンピック委員会 (IOC) 総会の投票によって、ライバル都市のマドリードとイスタンブールを破って 2020 年のオリンピック大会開催都市に東京が選出された。

そもそも、開催地の選考には、「立候補→1 次選考→評価報告書→IOC 総会→投票」という過程がある。まず、立候補を希望する文書を IOC に提出する。その結果、2020 年のオリンピック開催地として立候補したのはバクー(アゼルバイジャン)・ドーハ(カタール)・イスタンブール(トルコ)・マドリード(スペイン)・ローマ(イタリア)・東京(日本)の6都市だった。次に、1次選考が行われた。この1次選考では以下の14項目ごとの最高点・最低点によって決められた。

- •競技会場、会場配置
- 選手村
- ・国際放送センター、メインプレスセンター
- 過去の国際大会開催実績
- •環境、気象
- 宿泊施設
- 交通、輸送計画

- ・医療、ドーピング対策
- 治安、警備計画
- ・通信
- ・エネルギー
- ・通関、入国管理
- ・政府、世論の支持
- 財政、マーケティング

この選考により選出されたのがマドリード、イスタンブール、東京だった。また、この3都市の問題点として以下のことがIOCより指摘された。

マドリード	東京	イスタンブール
・財政が悪化している	・原発事故による夏季	・会場が選手村から離
中での会場建設	の電力不足	れすぎている
・経済が不安定な中で	・支持率が低い(他都市	・会場の建設費
の提供スポンサーの	が 70%以上賛成に対	・インフラの未整備
難航	し、東京は 40%台)	・2020 年に開催予定の
		サッカー欧州選手権
		の開催地に立候補してい
		る

次に、選出された3都市は2012年に開催されたロンドンオリンピック・パラリンピックでPR活動を行った後、詳細な開催計画を提出し、本格的な招致活動をスタートさせた。その後、IOCの評価委員会がそれぞれの都市を現地偵察し、評価点と懸念点がまとめられたのが「評価報告書」である。それぞれの都市のメリット、デメリットが指摘された。

マドリード	イスタンブール	東京
【長所】	【長所】	【長所】
・移動時間が非常に少	・国民、市民から支持率	・移動時間が少ない
ない	が高い	財政基盤が強固
・安全性が高い	・トルコ経済が急速に	・安全性が非常に高い
【短所】	成長し、国からの支援	・宿泊施設が多い
スポンサーの難航	がある	交通システムが最も
・一部会場の大幅な改	【短所】	優れている
修の必要性	・シリア内戦による難	【短所】
	民の流入	宿泊施設の値段が高
	・会場建設が多く残っ	V
	ている	・射撃会場とゴルフ会
	・移動時間が長い	場が離れている
	・交通渋滞が起こる可	
	能性がある	

7月3日・4日にスイスのローザンヌにてプレゼンテーションが行われ、9月7日にアルゼンチンのブエノスアイレスにて第125次 IOC 総会が開かれ、最後のプレゼンテーションが行われた後に投票が始まった。投票の結果、IOC のジャック・ロゲ会長によって開催都市は東京であると発表された。

「なぜ原発問題や支持率などの問題を抱えていたのに東京に決定したのか」、それはビジョンの違いだといわれている。マドリードは「社会、経済発展の重視」、イスタンブールは「欧州とアジアの架け橋」と開催目的を重要視していたが、東京は「先進的で安全な大会」と、開催方法を重要視して、「東京に任せれば安心である」ことをアピールする作戦をとることができたからである。

次に、町田市は東京オリンピックで南アフリカのホストタウンに決まったが、このホストタウンとはどのような意味を持つのか説明していきたいと思う。そもそもホストタウンとは、東京オリンピックに参加する世界中の国の選手団を、日本の市町村が受け入れ、「おもてなし」を行うということである。

ホストタウンをすることのメリットにおいてはさまざまなことが上げられる。まず、ホストタウンを日本の各都市がするにあたり、各国の選手団が合宿を行う。この選手団とともに、その国の報道陣や観客も訪れ、そのホストタウンの宿泊施設や観光施設を利用するため、その都市の経済効果の上昇、地域活性化に関係してくる。また、地元の子供が外国人の選手団と触れ合う機会をホストタウン側が作ることで、その選手に関心を持ち、それと同時にオリンピックの活気にも繋がるということなのである。

また、それらのメリットだけではなく、オリンピック後も、ホストタウンとして結び付けられた日本の都市と該当国が良好な関係を保ち続けるということが最終的な目的ともされている。

そして、ホストタウンが行う「おもてなし」についても知っておかなければならない。2017年 現在、日本の都市で受け入れる選手団に対して、様々な活動が予定されている。例として取り上 げられるのが、サモアを受け入れる福島県のいわき市だ。いわき市では、学生の交換を行う教育 交流、選手と子供達とのスポーツ交流、書写・和紙すき体験などの日本文化交流、地元の特産品 の交互販売などが計画されている。それぞれ、どの都市も 2020 年後も交流が継続していくこと を目標として、交流のイベントが計画されている。

第2章の最後として、町田市が受け入れる南アフリカについて説明する。南アフリカ共和国、 通称南アフリカは、アフリカ大陸最南端に位置する国である。年間を通じて晴天の日が多く、気 温も温暖であり、動植物の宝庫となっている。自然豊かな広大な土地には文化的遺跡も存在して おり、計7ヶ所が世界遺産に指定されている。

また、南アフリカは歴史的に複雑な流れを持ち、多くの人種が移り住んできた中、過去の迫害に対する復讐ではなく和解を追求した南アフリカの国民は敬意を持って、「七色の国民(レインボー・ネイション)」と呼ばれている。

スポーツでは、主にサッカーとラグビーが盛んであり、2015年にはラグビーワールドカップも 開催され、国民全体が盛り上がるものの一つになっている。

南アフリカは 1960 年のスコーバレーオリンピックから参加したが、その後、人種隔離政策に対し世界中からの非難を浴び、オリンピックへの出場が認められなくなった。しかし人種隔離政策を打ち出し、1992 年バルセロナオリンピックからようやく出場が認められ復帰を果たした。また、南アフリカは今までのオリンピックにおいて陸上競技が強く、メダル獲得数 24 個という実

績を残している。

第3章 アンケート調査

私たちは、まず小中学生の南アフリカ及び東京オリンピックの認知度を知るために、玉川学園 (町田市)の小中学生合わせて476人にアンケートを行った。

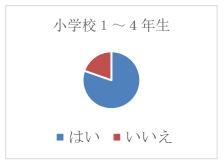
アンケートでは選択肢を選ぶ形にし、小学生低学年でも簡単に答えられるものにした。

- ① 2020年にオリンピックが東京で開かれることを知っていますか。
 - はい・いいえ
- ② 南アフリカという国を知っていますか。

はい・いいえ

- ③ なんで南アフリカのことを知りましたか。(②ではいと回答した人のみ)
- ・テレビ ・本 ・インターネット ・大人の人 (家の人や先生)
- ・いつの間にか知っていた・その他
- ④ 南アフリカという言葉を聞いて、思い出すものは何ですか。
- ・動物 ・海 ・砂漠 ・食べ物 ・サッカー ・ラグビー
- ・毎日の生活が大変な人たち ・その他

アンケートを行った結果は、このようになった。



小学校 5 年生~中学校2 年生 **●** はい **●** いいえ

図1 間1の結果

問1では、私たちが当たり前のように知っていると考えていた①の質問に対し、小学校 $1\sim4$ 年生の児童の45人(約20%)が知らないと答えた。

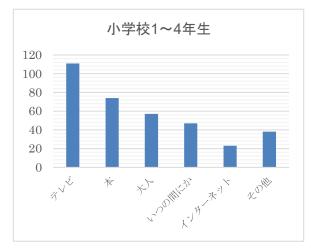




図2 問2の結果

問2でも問1と同様な結果が出た。

これらの二つの問いから、私たちが普段メディアなどで見かけるニュースの内容でも小学校低学年生は日頃メディアに触れる機会が少ない分、私たちが当たり前だと思っている情報でも約20%の人が知らないと回答したと考えられる。また、町田市に在住している児童だけではないことも関係していると考えた。



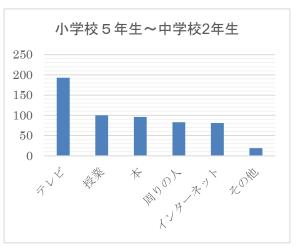


図3 問3の結果

問3では、テレビを媒介として情報を得た児童が一番多かったことが分かる。テレビの影響はやはり大きく、最近では様々な国の文化を紹介している番組も多くなっているため、南アフリカについてより深く知ってもらえることが期待される。私たちが考えている企画だけではなくて、このようなテレビや本など様々な方法で南アフリカについて知ってもらえれば、2020年に南アフリカの選手や関係者、オリンピック観戦のために来日する方々を迎え入れたときにより充実した経験を得ることができると考える。

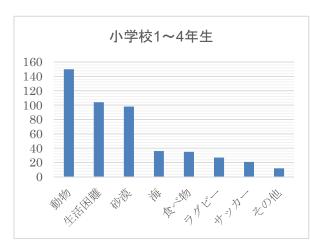




図4 問4の結果

この問いでは動物や自然、暑いなどの自然環境に関することが上位に上がった一方、ラグビー やサッカーなどのスポーツにはあまり票が入らなかった。これは私たちの予想を裏切る結果だっ た。なぜなら、2015 年のラグビーワールドカップで日本が南アフリカに勝利したというニュースはテレビでも新聞などでも多く見かけられた最新の話題だったからだ。また、前述で述べたように町田市が南アフリカのホストタウンに決定したのもラグビーが関わっているからである。

第4章 マンカラの体験

今年度、12年生の3人の先輩と一緒に、玉川学園4年生1クラスを対象に、南アフリカの民間的ゲームであるマンカラを、ホストタウンや南アフリカについて説明したうえで体験してもらった。

マンカラとは、紀元前 4000 年前にアフリカで誕生した豆まきゲームである。交易や奴隷貿易で世界中に広がっていき、ヨーロッパ、東南アジア、カリブ海諸国など世界中で遊ばれるゲームとなった。

ルールは各国によって若干違うが、今回の企画では基本的なルールに沿って体験してもらった。



図5 マンカラに必要な道具「こそだてハック」より引用

まず、図5のような道具を使って12個ある溝にそれぞれ4個ずつ豆を入れていく。手前の6個の溝が自分の陣地で、奥の6個の溝が相手の陣地である。先攻と後攻を決め、先攻の人から自分の陣地のどれか好きな溝から豆をすべて取り出し、豆を一つずつ反時計回りで順番に溝へ移動させる。その時、両サイドの溝にも入れていく。後攻も同様に自分の陣地のどれか好きな溝から豆をすべて取り出し、豆を一つずつ反時計回りで順番に溝へ移動させる。この動作を繰り返し、先に自分の陣地の豆がなくなった方が勝ちである。これがマンカラのルールである。

実際に体験してもらう際には、市販で売られているマンカラではなく、私たちが手作りしたマンカラで遊んでもらった。作り方は、1 ダースの卵パック、おはじき又はビー玉、セロハンテープ、ハサミを用意する。卵パックは紙製のものが望ましい。まず、卵パックを溝がある部分と蓋の部分を切り離す。溝がある方が本体となる。次に、蓋の部分の真ん中にハサミを入れて切り離す。切り離した蓋のパーツを本体の両端にセロハンテープで固定する。最後におはじきかビー玉を4つずつ12個の溝に入れて完成である。プラスチックの卵パックの場合は本体と蓋を切り離した後、両端の溝は紙コップなどを短めに切って本体に取り付ける。



図6 マンカラを体験している様子

そして図6のように実際に体験してもらった時、やや複雑で頭を使うゲームでも上手く遊ぶこ とができていた。40 分間の間で時間のある限り楽しみながら何回も取り組んでいる様子が見ら れ、平均的に 5 回くらいはマンカラで遊ぶことができていた。マンカラで遊んでみた感想とし て、「意外と簡単だった」「楽しかった」という意見が多かった。また、このような南アフリカ のゲームを通して、「南アフリカについてもっと多くの事を知りたいですか。」という質問に対 して32人中28人の人が手を上げてくれた。さらに「お昼休みの時間もマンカラをやりたい。」 という意見が出たため、5個のマンカラを提供してきた。また、マンカラを手作りしたことによ ってそれぞれの家でも簡単な材料で作れることが分かったため、「家でも作ってマンカラをやっ てみたい。」という意見も出た。最後には、色塗りができるように無色の南アフリカの国旗のプ リントを配布した。配布してさっそく色塗りを始めていて、南アフリカの国旗も教えることがで きた。このようなことから、マンカラは世界中で遊ばれているだけあり、文化が違っても馴染み やすいことが分かった。実際に体験するということは例え小さなことでも大きな興味を引くきっ かけになることが分かった。今後、さらにたくさんの企画を考えて、1クラスだけではなく、フ ァースト全体に浸透させ、玉川学園が町田市にある学校の一つであることを意識してもらい、児 童の南アフリカに対する関心が高い状態のまま東京オリンピックが迎えられるようにしたいと 思う。

今後、課題になってくるのは、マンカラはファーストの生徒には楽しんでもらえて、南アフリカへの関心を引くことができたが、ミドルの生徒やアッパーの生徒にはマンカラで南アフリカの関心を引くことは困難だと考えられる。そのため、ミドルの生徒とアッパーの生徒にはそれなりの対応した企画を考える必要があると言える。

第5章 ポスター作成

私たちはこの活動の主としているSNSを開設するための過程としてポスター作りを行った。 ポスターを作る目的として、文章よりも皆に興味を引いてもらいやすく、活動の存在を知っても らいやすいと考えた。

ポスターは人間の視覚にダイレクトに訴え、強力な印象を残すものとして知られている。そして、私たちが作ったポスターは以下のものである。



図7 作成したポスター

ポスター作りの工夫として第一に、私たちは背景の写真が目に留まるようなインパクトのある ポスター作りにあたって、図7の写真は南アフリカの子供たちの一人ひとりの表情が豊かに写っ ており、南アフリカの未来を担う子供たちと一緒に作り上げていくオリンピックというイメージ を表した。また、南アフリカの国旗のような色とりどりの個性あふれる色使いが表現されている 写真を取り入れた。このポスターはこの筆者の四人の中の一人が、昨年の夏に南アフリカの首都 であるケープタウンのタウンシップと呼ばれる、アパルトへイト時代の隔離政策で黒人たちが強 制的に住まわされていた居住区を訪れて、そこの幼稚園の子供たちに日本からのお菓子を渡して いるときに実際に撮影した写真である。

第二の工夫としては、ポスター中にある二つの言葉についてである。一つ目の言葉は「2020」という文字を大きくすることで、東京オリンピックについてのポスターであることを想像させる。目的となる二つ目の言葉はこのポスターの見出しとなる、「さぁ、一緒に。」であり、ポスターを見る人々に自身で興味を持たせるような、故意に活動の目的となるオリンピックに向けての活動内容を大きく書かなかった。

ポスターを広める手段としてSNSでの掲載と、町や駅での掲載を考えている。SNSでは若 者への対象として現代の若者たちが日常に必要不可欠である、ツイッターとインスタグラムを開 設した。今は第一としてフォロワーを多く増やし、その後にポスターを掲載することを考えてい る。フォロワーは私たちが通っている学校の生徒からフォローしていき、そこから広げていこう と考えている。

また、町や駅での掲載は、老若男女問わず、SNSをやってない人たちを対象としている。この段階として、第一に市役所の協力が必要である。市役所の協力を得るためには、今後私たちが市役所に足を運んで、協力して頂けるように準備を進めていきたいと思っているとともに、協力を得るためにはいくつものポスターを作らないといけないと考えている。私たちがポスターを作るときに心がけていることがある。一番心がけていること、それは、ポスターを見たときにポスターから興味を引き、私たちの活動を知ってもらおうと考える、魅力的なキャッチコピーである。なぜ心がけているのかというと、私たち自身、駅や町に貼ってあるポスターを見て自分の興味がないと全く見向きもしないからである。きっと皆もそうであるでしょう。二つ目に心がけている

ことは背景の写真である。背景の写真は魅力的なキャッチコピーが映えるように、キャッチコピーと写真で連想できるような写真を背景に組み入れることである。これらのことを意識して作り、市役所を訪ねようと考えている。また、町に掲載する種類として、活動を知ってもらう目的のものと活動に参加してもらう目的のものを考えている。ポスターが活動を広げる手段の軸として、SNSや市役所からの助けをうまく活用して、これから順調に活動を広めていけたらいいと考えている。

第6章 結論・提言

今後の目標として私達が目指していくことは、東京オリンピック開催後も続いていくホストタウンとの交流関係である。

その準備段階として、まず私達 2020 チームが行わないといけないことは、町田市民に町田市が南アフリカのホストタウンとなっていることを知ってもらうことである、と考えている。それに従い、町田市民の方々に南アフリカについて知ってもらうことが必要不可欠である。そして私達2020 チームは、どうしたら町田市民に南アフリカを知ってもらえるのかを考えたところ、私達が自らイベントや活動を企画し、町田市民にアピールできるのではないかという案を導いた。もちろん、今後、町田市民だけではなく南アフリカの人達にも町田市のことを知ってもらわなければならないと思っているが、まず私達が考えている、町田市民に南アフリカを知ってもらうための企画を5つ挙げてみる。

まず1つ目の企画として、玉川学園のファースト生に遊んでもらった、南アフリカの伝統的なゲームの「マンカラ」を町田市の小学生に知ってもらい遊んでもらおうという企画である。またその際に、町田市のホストタウンが南アフリカということについても紹介できたらいいと思っている。なぜ小学生にしたのかというと、中学生や高校生よりも小学生の方が"ゲーム"ということに興味を持ちやすいのではないのか、また、小学生は一番、親しみやすいのではないかという考えからである。この企画により、まず小学生に南アフリカという存在を知ってもらい、南アフリカに興味を持ってもらえたらいいと思っている。

2つ目の企画として、町田市の福祉施設(主に老人ホームなど)に訪問をさせてもらい、チェチェコリという南アフリカ独特の歌とダンスが組み合わさった運動をしたいという企画である。チェチェコリにした理由として、福祉施設では、日々運動をする時間があり、その際に音楽に合わせて体を動かしていて、その運動の中にチェチェコリを入れてもらえばいいのではないのかと考えたからである。その際に同じく南アフリカについて説明できたらいいと考えている。

3つ目の企画として、町田市民の方々に、アフリカの民族文化に触れてもらおうという企画である。アフリカの民族のンデベレ族という民族がいるのだが、その民族はとても華やかな民族衣装を身にまとっている。その中でもアクセサリーは特にとても色鮮やかであり、カラフルなビーズ細工で作られている。そこで私達が考えたのは、このアクセサリー作成のワークショップに親子で参加してもらおうということである。そうすれば、子供だけではなく親世代の人達にも南アフリカについて知ってもらえる機会となるのではないかと考えた。またこの際、容易に短時間で作れるので、参加してみようという意識を持ってもらえるとともに、作ったアクセサリーを身につけることによって広報活動に結び付くと考えた。

4つ目の企画は、オリンピック開催中の企画である。町田市に来てくれる南アフリカの人達はスポーツの選手団である。そこで町田市の学校などに訪問してもらい南アフリカの選手とスポーツ交流をしてもらおうということである。主に南アフリカの選手団は、ラグビーやサッカー、陸

上の選手が多いため、それらのスポーツ交流がいいのではないかと考えている。

そして5つ目の企画として、南アフリカの特産品を使った商品を町田市の飲食店などで作ってもらうということを考えている。南アフリカは、ルイボスティー、ワイン、バニーチャオ(食パンの中をくりぬいてその中にカレーを入れる食べ物)が有名である。私達が考えている町田の飲食店として、まず考えているのは、玉川学園に毎日パンを売りに来てくださる、「スワンベーカリー」というパン屋とのコラボを考えている。そして、サッカーJ2リーグの町田ゼルビアの試合で販売し、玉川学園の学生だけでなく、町田市民全体にも、町田市が南アフリカのホストタウンになったことを伝えられたらと思っている。

これらの5つの企画に加えて、この企画に参加してくれた人達に、メッセージをそれぞれ書いてもらい、それを大きく一つの南アフリカの旗にして、訪れた南アフリカの選手団の人達に見てもらえたらいいと考えている。

以上が今 2020 チームの私達ができる企画である。今後はまずこの企画を、町田市の市長や小 学校にアピールをして、町田市をホストタウン成功へ導きたいと思っている。

参考文献

【ウェブサイト】

- ・「マンカラのルールや遊び方は?みんなで楽しめるおすすめ7選」『こそだてハック』https://192abc.com/96255, アクセス日:2017年12月15日
- 「マンカラ世界の伝統ゲーム紹介」『世界遊戯博物館』http://sekaiyugi.com/games/mancala-1.html, アクセス日: 2017 年 12 月 15 日
- ・「2020 五輪招致—東京はなぜ勝ったのか—」『nippon.com』 https://www.nippon.com/ja/column/g00128/, アクセス日:2018年01月07日
- ・「なぜ東京が選ばれたのか?競合都市の敗因を分析」『人民日報』http://j.people.com.cn/206603/8395581.html,アクセス日: 2018 年 01 月 07 日
- ・「2020 年夏季五輪候補都市の主な評価」『JIJI.COM』 https://www.jiji.com/jc/graphics?p=ve_spo_olympic2020-invite20130625j-01-w460, アクセス日: 2018 年 01 月 07 日
- 「2020 年夏季オリンピックの開催地選考とは」『ニコニコ大百科』
 http://dic.nicovideo.jp/a/2020 年夏季オリンピックの開催地選考,アクセス日: 2018 年 01 月 07 日
- 東京都政策企画局「ホストシティ Tokyo プロジェクト」『ホストシティ Tokyo プロジェクト』
 http://www.seisakukikaku.metro.tokyo.jp/hostcitytokyo/, アクセス日: 2017年12月25日
- ・在南アフリカ共和国日本国大使館「南アフリカってどんな国?」『南アフリカってどんな国?』 http://www.za.emb-japan.go.jp/jp/South_Africa/about.html, アクセス日: 2017 年 12 月 25 日
- ・ 首相官邸「ホストタウン一覧 首相官邸ホームページ」『首相官邸』 http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020 suishin honbu/hosttown suisin/pdf/lwaki City gaiyou.pdf, アクセス日: 2018年 01月 12日

生徒論文2

南アフリカの貧富の差はどうしたら解決できるか

第1章 序論

私たちは、昨年の夏にアフリカンスタディーズの研修に参加し、実際に南アフリカへ行くことができた。ボツワナと南アフリカ共和国に行った。現地では、世界遺産の喜望峰やロベン島を見学し、現地の学校や孤児院で暮らす子供達と遊んだり、安定な暮らしができていない人達が暮らしているタウンシップに訪問して、お菓子を配るなどのボランティアをする機会がありました。高層ビルなどが並び、発展しているケープタウンの都市部と整備されていない道にみすぼらしい家が並ぶタウンシップとの貧富の差を目で見て感じることができ、同じ国内で暮らしている人でも、裕福な人と貧しい人がいることを学んだ。更に、ボツワナと南アフリカ共和国でも格差が生まれていることを知った。これらのことから、貧困における格差の問題は、国内だけでなく、国同士での国外の問題でもあると気づいた。そこで、私達はこの研修で貧富の差について様々な疑問を持ち、「南アフリカの貧富の差はどうしたら解決できるのか」というテーマを立てた。リサーチに考察を加えた結果、「仕事や観光客が増えることによって現地の人たちの収入が安定し、格差がなくなることから南アフリカの貧富の差は解決できる」という結論を導きだした。





第2章 基本知識・問題の背景

南アフリカという国は、南アフリカは、アフリカ大陸の最南端に位置していて、東はインド洋、西は大西洋に囲まれて豊かな自然と資源を有している。更にダイヤや金の発見により、経済的にもアフリカ大陸最大の国となった。しかし、白人による国の支配により長い歴史がある。

1652年にオランダ東インド会社がケープタウンに上陸して、オランダ人がケープタウンへの入植が認められ、定住するようになった。これが南アフリカの白人社会の始まりである。1700年代後半になるとイギリスもケープタウンを占領しようとし始めた。更に、フランス革命の影響を受け、オランダ東インド会が破産した。

1652年	オランダ東インド会社がケープタウンに上陸(ケープ植民地はオランダ領)
1795 年	軍事力を持っていたイギリスがアフリカを支配するため占領
1796年	オランダ東インド会社破産

1814年	ケープ植民地がイギリス領となる
1884年	ヨーロッパ列強の国々でアフリカを分割 (ベルリン会議)
1899~1902年	南アフリカ戦争(ボーア戦争)
1910年	南アフリカ連邦が成立
1924年	アパルトヘイト(人種隔離政策)を開始
1999年 6月	アパルトヘイト廃止

1814年、ウィーン会議の結果、ケープ植民地がイギリス領となり、イギリスの支配が始まった。1884年にはドイツのビスマルクがベルリン会議を開催し、ヨーロッパの帝国主義列強(イギリス、フランス、ドイツ、ベルギー、イタリア、ポルトガル)によるアフリカ分割が行われ、これらは1900年頃まで続いた。ケープ植民地を中心に、南アフリカ戦争でイギリスが獲得した植民地を含めて、1910年にアフリカ連邦を成立させた。

ケープ植民地の支配を続けるイギリスは様々な争いに勝利して勢力を広げつつ、元から南アフリカにいるオランダ人の反発を防ぐため、彼らの自治権も考え、最初の首相にはオランダ人の中から選んだ。しかし。イギリス人とオランダ人の間に経済的な格差があったことから、彼らの人権を守るために、白人が黒人の人種差別を始めた。

第3章 基本知識②

白人に支配されていた地域にて黒人による民族独立の動きや人種差別反対の活動が活発化していき、また世界的な世論もこれを応援する風潮になっていったが、これに反発するように南アフリカでは黒人差別ひどくなっていった。そこで、1948年にオランダ語で分離の意味するアパルトへイトが施行された。アパルトへイト政策は全人口のたった15%の白人を優遇し、白人以外の黒人などの人種を堂々と差別するものだった。

更に、さまざまな人種差別政策を採用された。雑婚禁止法では、異人種間での交際や結婚を禁止し、分離施設留保法では交通機関、公園、トイレ、レストラン、海のビーチなどの公共空間が人種別に厳しく隔離されることになり、当然白人の施設の方が優れていた。

アパルトへイトのきっかけは、1860年代に始まったダイヤモンド鉱山の開発が始まったことにある。しかし、南アフリカの金鉱山で採掘するには地中深く掘り下げなければならず、含有率が低いことから、大量に岩石を採掘、運搬、破砕しなければならなかった。そこで限られたコストで利潤を上げるには、安価に大量の労働者を確保することが必要になった。白人に比べ、熱帯環境的能力がある黒人が奴隷として人気だったこともあり、黒人が労働力の源になった。そして、「わずかな土地に国民の7割を占める黒人を追いやり、それぞれ独立させること」がアパルトへイト政策の目的ともなった。1894年には、ケープ植民地首相セシルのセシル・ローズはグレン・グレイ法を制定した。この法律は、黒人地域を一致地域に限定したり、年に3ヶ月以上賃金労働者として雇用されていたことを証明できない黒人には増税させるなど黒人にとって不利なものであった。黒人は限られた土地に居住し、はそこで生活できないものは、他に職を探しに行かなくてはならない。白人と同等の投票権資格を奪った上で、地域内の自治をある程度認め、黒人の労働力確保を得ることを意図とした、この法律はアパルトへイト政策の原点と言えるものであった。

アパルトへイト政策が撤廃され、18 年経った今も黒人と白人の格差が無くなっているわけではない。2011 年の調査によると、黒人の年収に対し、白人の年収はほぼ6倍を所得している。しか

し、2001年の南アフリカでは白人は黒人の約8倍もの年収を所得していた。現在の南アフリカの ズマ大統領は「黒人の大半が最下層にいる。まだまだやらなければならないことは多い」といい、 貧富の差の解消を目指しているが、南アフリカの貧富の差は無くなりつつある。

第4章 解決策1

【観光客の増加】

南アフリカに観光客が増えると、現地の人たちしかできないホテルカウンター・ガイドなどという仕事も増えてくる。そうすると収入も安定し、貧富の差は縮まる。現在、南アフリカには喜望峰やロベン島などたくさんの有名観光地と世界遺産、自然保護区がある。しかしそれらはケープタウンに集中しすぎて失業率も高くなり、さらにケープタウン一極化へと繋がった。そのため、ほかの地域にも自然保護区や有名観光地などを作り、ケープタウンだけでなく色々な場所に人口を集め、失業率も少なくする。そうする事によってたくさんの人の収入が安定する。現在の南アフリカはプレトリアにも多少はあるものの、国全体としてみると一極化が目立つ。

最近では世界中の人が SNS を利用している。そこで、SNS の1つである「Instagram」を使った「インスタ映え」を使うことによって、世界中の人が興味を持ち観光客が増える。日本は日本独特の文化を持っている。例えば、神社・お茶・お寿司・温泉などだ。このような写真を日本人がSNS にアップしたことで沢山の外人の方々が日本に興味を持ち観光しに訪れたことが日本の観光客が多くなった1つの理由だった。









またメキシコも以下の写真が「インスタ映え」と人気になり、メキシコに訪れる観光客が増えた1つの原因となった。2016年は3500万人を超え、東京に来る観光客2869万人の数を超えた。



このことを使い、南アフリカでもインスタ映えを利用した観光客の呼び出しを利用する。南アフリカには日本やアメリカなどにあまりない動物たちの自然保護区や砂漠を中心にスポットを作ることで人気になり観光客が増えると考えた。

インスタ映えする特徴は6つある。

- 1. 可愛いカラフル
- 2. オシャレな雑誌風
- 3. 非日常
- 4. 意外性/ミスマッチ/違和感
- 5. 規格外
- 6. ストーリー

このような特徴をいかした簡単な建物や南アフリカ独特の文化を生かした物を作る事により「インスタ映え」と人気になれば観光客も年々増えていくと考える。

↓最近インスタ映えと人気になっている写真





また、観光客を増やすためにはもっと交通の便をよくしていくことが大切である。日本は格安航空会社がたくさんあり、最近では羽田空港も発展し色々な国から直通でくることが出来るようになった。直通で訪れるというのは大きなことで飛行機の乗り換えなどなく、簡単に訪れることができる。日本に訪れる観光客が増えた1つの原因はこのようなことが考えられる。

これと同じように南アフリカにも格安航空会社を作ることや、国際空港をもっと増やす事よって観光客は大幅に増えると考えた。

南アフリカにはたくさんの土地があるので大きな国際空港を作ることが出来る。また、格安航

空会社を作るというのはとても大変なことで、飛行機を何台も作らならなければいけないし、会社を1から作らなければならない。しかし、格安航空会社を作ることによって観光客が増えるのはもちろんのこと、他にも国のお金が増えたり地元の人を中心とした客室乗務員やグランドスタッフなど様々な仕事で働いてもらうことが出来るようになるので同時に南アフリカ全体の経済も安定していく。

第5章 解決策2

【農業の発展】

南アフリカ共和国は、他のアフリカ諸国に比べて大規模農業が発展し都市型経済が定着している.

南アフリカの国土面積は日本の約3.2倍あるが、人口は4483万人と人口密度は低い。1年を通じて晴天の日が非常に多く、年間平均日照時間の最も長い国に属している。海流と高度の関係で、北半球の同緯度の地域より涼しく、乾燥している。

南アフリカでの農用地面積が国土面積に占める割合は約8割と広大な面積を持っているが、平均 年間降雨量が少なく、土壌が乏しいという気候的条件から、農用地面積の8割以上は永年採草・ 放牧地であり、耕作に適した農地は2割以下である。地中海性気候の南部、亜熱帯性気候の北部 を中心に農畜産業が発展し、中央部の中央高原地帯は高地で気温が低く乾燥しており、農業生産 性は低い。大半の主要農産物が自給可能な状況であり、通常は純輸出国である。主な輸出品には、 柑橘類、トウモロコシ、サトウキビ、ワイン、リンゴ、梨、ブドウやアボガド、グアバ、マカダ ミアンナッツなども輸出されている。 全体的に、輸出農林水産物のうち加工済みの製品の割合 が増えている。農産物の主要輸出先はオランダ、英国、ジンバブエ、モザンビーク、中国である。 リンゴや柑橘類、トウモロコシな保存性があり、輸出に適したものが特に多く出荷されている。 国内総生産(GDP)に占める農林水産業の割合は5%、経済活動人口うち農業に携わる人の割合は 13%であり、全産業における農業の比重は比較的に小さい。農村部における小規模農家の主な収 入源は給与、年金等非農業部門に頼っており、農業からの収入は少ない。しかし、貧困層の家庭 にとって食糧の自給は不安定な現金収入を補うものとして生活向上のために重要な意味を持っ ている。また、農業は一時的なものだとしても、雇用の場を提供し、失業者を助ける機能も合わ せ持っていて、農村部では50~80%の世帯が何らかの形で農業に携わっている。農村開発の結果、 小規模農家が発展すれば、飢餓・貧困・失業問題の解決に大きく貢献すると期待されている。 この南アフリカの農業の現状を踏まえて、私達は農業の発展を目指すことで解決できると考え た。しかし、農業開発や発展に関わる問題以前に、解決すべき社会的な問題もたくさんある。貧 困、高失業率、人口増加、飢餓、労働力不足、犯罪の増加などがあげられる。これらの問題は、 農業の現場で、経営能力の不足、農業技術に関する知識不足や農業用機械の不足、資材の欠乏、 資本金の不足として表面化してしまう。これらの問題にも重視しつつ、農業面についても考えな ければならない。南アフリカの農業を発展させるには、今以上に多くの農産物を栽培して、世界 に輸出していかなければならない。そのためにまず、世界で必要とされるものを生産していく必 要がある。更に、それらが南アフリカの気候や環境の中で生産できるものに限られ、これらの他 に南アフリカから他国へ輸出するまでの距離や時間を含めて考えると、保存可能な農産物が好ま しいと言える。例えば、トウモロコシ、小麦、ナッツ類は長期保存が可能だ。世界に需要がある 物では、一般に多国で食べられている小麦や誰でもが必要とする薬などがある。2014年にベトナ ムで最新の貯蔵技術が技術移転された。それは、有害な化学物質などを使わなくても農産業生産 物が 10 年間貯蔵できるものだ。この技術によって、ベトナムの農産物輸出への期待が高まっているそうだ。この技術は日本をはじめ、米国や英語、カナダ、メキシコ、韓国など世界中で採用されていて、このシステムの導入は今後加速とされている。費用はかかるが、この技術を南アフリカにも導入することで、農産物を新鮮な状態のまま輸出することができて、農産物のコストダウンにつながると考えた。



第6章 解決策3

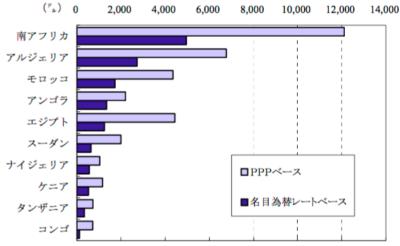
【工業・鉱業の発展】

南アフリカの人口は約4700万人と多くはないが、一人当たり国民所得はアフリカの中でも高く、各自GDPはサブサハラアフリカ諸国全体の4割を占める経済大国である。今、BRICsに続く有力なマージングカントリーとして、南アフリカが注目されつつある。BRICsとは、地下資源の恵まれ、大きな経済発展を成し遂げつつある代表的な4つの国を指していて、Bがブラジル、Rがロシア連邦、Iがインド、Cが中国である。そこに新たにSを南アフリカ共和国として、5カ国を指すようになった。そのBRICsに続いて、新興11か国のネクストイレブンも提言されている。

南アフリカの主な工業生産品は、食品、製鉄、化学、繊維、自動車があり、鉱業では金、ダイヤモンド、プラチナ、ウラン、鉄鉱石、石炭、銅、クロム、マンガン、石綿。豊富な鉱物資源を誇り、特に金は世界の産出量の半分を占めている。

南アフリカは、アフリカでも最高水準の工業力と経済インフラを有し、また鉱物などの天然資源も豊富であることなどから考えて、現時点では、アフリカ最有力の新興経済大国と言える。更に、南アフリカは G20 のメンバー入りをしていて、これは世界経済・地域経済を大国として国際的に認められていることの証である。G20 (Group of twenty) とは、20 カ国・地域首脳連合および 20 カ国・地域財務大臣・中央銀行総裁会議の参加国・地域である 20 カ国・地域のことを指し、2008 年からは 20 カ国・地域首脳会合も開催されるようになっている。そして、世界経済の方向性を見るうえでも、会議・会合の内容は注目されている。実際、G20 のメンバー入りしている新興経済国の半分以上で通貨危機が発生していて、各国における経済失政や経済混乱が世界全体の金融市場に波及するリスクがあることが実証されている。こうした意味で、南アフリカは、世界の金融市場全体への影響という観点からも、その動向を注目すべき重要国の一つである。

図表1. アフリカ主要国の一人当たり国民所得比較



南アフリカの現状を踏まえて、私達は、南アフリカにある広大な土地を利用し工場などを建設し、会社や仕事を増やすことで解決できると考えた。工場を建てるためには、まず初めに土地がないといけない。南アフリカの気候により、農地用面積8割のうち2割しか適していないことから、残りの土地を利用し工場を建てることを考えた。更に、水や電気なども必要不可欠だ。水は、雨水や井戸水、貯水池などで確保をすることができる。南アフリカの水資源では、改良されている水が48%、未改良の水が24%、地下水が13%となっている。降水量は他と比べて極めて少なく、標高が高い山などに雪が積もるくらいで水資源に乏しい国であるので雨水はあまり期待できないと考えられるため、他のダムや貯水池で貯められた水を利用し補うしかないと考えた。電力については、太陽光のソーラーパネルや風力発電を使用した取り組みを行い、確保することができる。南アフリカでは2010年以降、長期的、総合的かつ統合的な電源開発計画として「電力統合資源20ヵ年計画(IRP2010)」を発表している。環境保護に優れたエネルギー構造への転換を目指し、地球温暖化防止への取り組みの観点から、再生可能エネルギー(太陽熱、太陽光、風力)の開発及び原子力発電の推進されている。この開発や新たな技術によって、より多く発電することが可能だと考えた。

更に、近年、ダイムラー・クライスラー(現ダイムラー)社が、南アフリカのダーバン市内に自動車製造工場を建設した。メルセデス・ベンツの、特に右ハンドル仕様を製造している。これらの車両は南アフリカ向けのみならず、多くが輸出に割り振られている。また BMW、フォルクスワーゲンや日産自動車なども輸出拠点として同国に工場を置いている。土地、水資源、電力の観点を通して、これらをきっかけに、同じ工場の増加や新たな工場を建設することを目指したい。

第7章 解決策4

【教育の必要性】

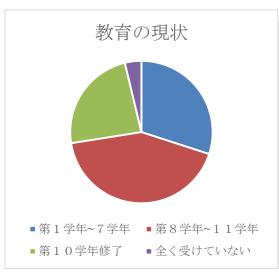
現在、南アフリカの教育は15歳(9年)まで義務教育とされている。学んでる言葉は地方によって異なるが、英語、オランダ語系言語であるアフリカーンス語を使っているところが多い。ただし、南アフリカには英語、アフリカーンス語の他に、9つの部族語(ズールー語、コサ語、ツワナ語など)があり、合計で11の公用語が認められている。

初等教育は6年間の義務教育で、最初の3年間は7歳から9歳までだ。そこで基本的な読み・

書きや計算能力を養っていく。またこの時期からは、母語以外の言語習得を開始する。初等教育の後半3年間は特に母語と第二言語外国語の読み書きや会話能力に重点が置かれてる。この他、数学・歴史・地理・科学・家庭科などの教科が追加されている。

中等教育では、必修科目の他に選択科目が加わる。学校で定める最低基準がクリアできない場合、試験の結果によっては進級できないこともある。判定は厳しく同じ学年を繰り返す生徒も多くいる。中等教育の最終学年では、中等教育最終試験であるマトリック・テストという全国統一試験に合格すれば卒業することができ、同時に大学入学の資格を得ることができる。

アパルトへイトが廃止され、10年以上がたった今の南アフリカでも人種差別が残っている。 下の図1は1995年に教育について調査した表だ。義務教育である10学年で卒業している生徒も多いが、義務教育でない11学年の生徒も多い。そんな中、図2を見てわかるように、黒人は白人と比べると全く進学できていないことがわかる。これらの現状を無くすためにより多くの学校を均等の距離に作り、通える子供達を増やすことや、授業でアパルトへイトの事についてしっかりと学ばせることで少しは人種差別をなくすことが出来ると考えた。



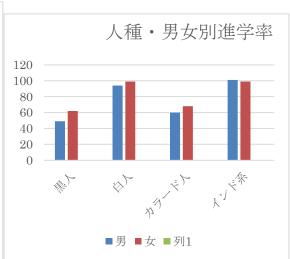
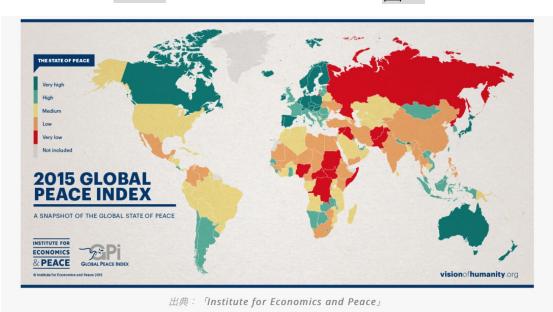


図 1

図 2



この表は世界の平和度指数を表したものだ。見てみると、南アフリカは"low"と書いてある。しかし隣の国のボツワナやナミビアやレソトは"high"と書いてある。なぜ同じ南部アフリカなのにこのような差が生まれているのか。

その原因はついこの間まで南アフリカで起きていたアパルトへイトによって生まれた黒人による殺人事件や強盗だった。南アフリカで殺人事件が1日に44件も起きていて、強盗も日本と比べる約40倍起きている。これはアパルトへイトが廃棄された後、教育の受けていない黒人たちが都市部に移動していったが、多くの黒人は職に就けなく生活に困り最終的に強盗を行うようになった。治安が悪化する中、白人たちは都市部から北部へと逃げたため、結果として発電所から白人技術者がいなくなり各地で停電が起こるようになった。

このような不安定な暮らしをしている南アフリカは現在世界で9番目に治安が悪いと言われ最悪な状況にいる。しかし、しっかりとした教育を受けることが出来る子供が増えることで正しい知識や社会マナー、公共の場のルールを学ぶ人が増え、犯罪の数が減る。もしそうなれば、南アフリカは国全体が目標としている安全・かつ平和な国を作ることが出来る。

第8章 結論

今回、「南アフリカの貧富の差はどうしたら解決できるのか」という問いを立てた。まず、基 本知識として、主に南アフリカの歴史の流れやアパルトへイトによっての南アフリカ社会の変 化などを調べた。南アフリカの観光業、農業、工業、教育の4つの項目を中心に南アフリカの貧 富の差をなくすための解決策を考えた。観光業では、観光地の増加、空港の発展や南アフリカ の知名度を上げることで観光客をはじめ、移住者を増やすことが出来る。更に、多くの訪問者 に対しての観光地やホテルなどの仕事を増え、就職率の向上につながり、収入の安定も考えら れる。農業面では、農業の現状を変えることを重視し、世界に需要があるものを生産する事に よって、輸出する貿易国の増加を目指している。南アフリカの気候条件から長期間の農産物の 保存ができないため、他国で導入されている農産物などの貯蔵技術のシステムを採用する事に よって、コストの削減と農業発展を考えた。工業では、南アフリカの広大な土地を利用して、 工場を建設したい。工場の建設に必要な水資源、電力の確保を今の南アフリカの現状でも多少 は可能であり、最低限のコストで行うことが出来るものを考えた。教育面では、南アフリカに は未だアパルトヘイトの影響で教育を十分に受けれずに強盗や殺人を起こしてしまう人や、ケ ープタウン一極化により近くに学校がなく通うことができない子供もたくさんいる。また、学 校に通えていても黒人・白人と差別され、進学に大きな影響を及ぼしている。これらの問題を なくすために、南アフリカ全体に均等に学校を建てることによって、今の南アフリカの問題の 大元な原因となっているアパルトヘイトについて一人一人が理解し、このような差別の減少を 目指したい。

これらのことから、「観光業、農業、工業の発展、教育の促進や学校に通うことが出来る子供達を増やすことによって、南アフリカの住民の就職率を上げて、貧困率や犯罪率を現状よりも下げて、南アフリカの貧富の差はなくすことが出来る」と結論を導き出した。

参考文献

【図書】

1. 著者『書名』出版社, 出版年

2. 著者『書名』出版社, 出版年

【雑誌・新聞】

- 1. 記事執筆者「記事タイトル」『雑誌名』巻号版, 発行年月日
- 2. 記事執筆者「記事タイトル」『雑誌名』巻号版, 発行年月日

【論文】

- 1. 著者名「論文タイトル」『掲載雑誌名』巻号, 発行年月
- 2. 著者名「論文タイトル」『掲載雑誌名』巻号, 発行年月

【オンラインデータベース】

- 1. 執筆者「登録タイトル」『データベース名』記事日付
- 2. 執筆者「登録タイトル」『データベース名』記事日付

【インターネット】

1. 「南アフリカ共和国の歴史」『南アフリカってどんな国?』 アクセス日:2017年 12月20日 http://www.docbiotechnology.info/country2.html

2. 「アクセスしたページのタイトル」 『トップページタイトル』 アクセス日: 2017年 12月22日 http://metheglin.hatenablog.com/entry/2016/11/27/234355

【会話やインタビュー】

1. 情報の種類 情報提供者 情報を入手した日

【映像・音声】

1. 監督・監修『タイトル』配給元(発売元), リリース年月

https://snaplace.jp/instabaeanalytics/

生徒論文3 フェアトレード教育

第1章 序論

私は昨年度、日本におけるフェアトレードの問題点を挙げ、それに対する解決策を考えた。さらに今後は「日本におけるフェアトレードの認知度・知名度が低い」という問題点に注目し、各企業がどのように扱っているのかについて調べていった。しかし、調べていくうちに現在フェアトレード商品を販売している日本企業は多く存在していることが分かった。例えば、イオントップバリュ、ザ・ボディショップ、イオンイーハートなどのイオングループが挙げられる。また、「ベン&ジェリーズ」という国際フェアトレード認証を受けたアイスクリームを販売しているスーパーなどもある。

ところが、これだけ扱っているにもかかわらず、日本人のフェアトレードに対する認知度が低いのは教育に問題があるのではないかと考えた。実際、イギリスなどにはフェアトレード・スクールがあり、子供たちへの認知度・知名度を上げていくことに成功している。したがって今回は、どのような教育を行えばフェアトレードの認知度が上がるのかを研究することにした。具体的には、自分で計画した授業案をもとに先生に授業をして頂き、アンケートを取ることにした。

今は、授業案と授業で使うアンケートを作成したので、2月の授業に向けて準備している段階である。そのため、ここでは計画した授業案と作成したアンケートについて説明する。

第2章 基本知識・問題の背景

まず、基本知識としてフェアトレードについて説明する。フェアトレードとは直訳すると「公平な貿易」のことであり、開発途上国の原料や製品を主に先進国が適正な価格で継続的に購入することにより、開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易の仕組みのことだ。また、フェアトレードによって取引された製品をフェアトレード製品と呼ぶ。例えば、コーヒー・紅茶・バナナ・チョコレート・コットン製品などが挙げられる。

次に、フェアトレード・スクールについて説明する。序論で述べたように、教育を行うことでフェアトレードの認知度を上げることが出来ると考えたきっかけには、イギリスのフェアトレード・スクールの存在がある。フェアトレード・ラベル・ジャパンによると、フェアトレード大国と呼ばれるイギリスの認知度は80%以上を超えている。そのイギリスでは、2006年ごろから10代の子供たちの間で、フェアトレードを推進する学校を認定するフェアトレード・スクール運動が広がっている。その影響で、イギリスでは1000校以上の学校がフェアトレード・スクールに認定されている。認定されるためには、フェアトレードに関する授業やイベント・キャンペーンを行ったり、フェアトレード商品を利用したりすることが求められている。また、フェアトレード・スクールはイギリスだけではなくドイツやオーストラリアなど先進各国に広がりつつある。

一方日本では、フェアトレード・スクールは存在しないが、フェアトレードの授業を行う学校は出てきている。その例として、聖学院中学校が挙げられる。同校では、2013 年 2 月に中学 2 年生の公民の授業の中でフェアトレード・ラベル・ジャパンによる講演が行われた。この授業では、フェアトレード運動が起きた理由や、開発途上国の貧困や環境問題の現状を知り、消費者の行動がどのように途上国の生産者に影響を与えるかを考えた。さらに、地球規模の課題解決のために消費者一人一人に何ができるかも考えた。その中で、授業や部活動で使うボールをフェアトレード製品にかえることが出来るのではないかという意見があり、実際にサッカー部でフェアト

レード認証のサッカーボールが導入された。他にも、玉川聖学院中等部・高等部では 2012 年から 高校 2 年生の選択授業「国際教養」において、フェアトレード推進企業として知られるイオントップバリュの社員による講演が行われている。この影響により、2017 年秋に行われた第 55 回学院祭では、エシカル(倫理的)な商品を扱う地元の定期市「暮らしの天然市」と「第一回自由が丘エシカル FESTA2017」を共同開催した。また、フェアトレードの麻ひもを使ったミサンガや、フェアトレードの原料を使用しているアイスクリームの販売などを行った。このように、日本でも授業によるフェアトレードの影響が出てきていることが分かる。

第3章 フェアトレード教育の必要性

私は、フェアトレードの認知度を上げるためには学校教育で授業を行う必要があると考えた。 その理由は二つある。

まず一つ目は、子供のうちからフェアトレードという言葉に触れ、疑問を持つことが大切だと考えたからだ。早いうちから言葉を知り、行動することで理解を深めることが重要だと考えた。次に二つ目は、世代別にみると 10 代が最もフェアトレードに興味関心を持っているからだ。表 1 は一般社団法人日本フェアトレード・フォーラム(FTFJ)が 2015 年 6 月末から 7 月初めにかけて、全国の 1076 人(15 歳~69 歳)を対象に行った「フェアトレードと倫理的消費」に関する意識調査の結果だ。ここから、10 代の知名度が他の年代に比べ最も高いことが分かる。しかし、10 代の中でも「見聞きしたことがあり、内容もよく知っている」と答えた人が、わずか14.1%しかいないことも分かる。だから私は、興味関心が高いからこそフェアトレードの正しい意味を理解する必要があると考えた。

表 1 世代別にみるフェアトレードの知名度 『一般社団法人日本フェアトレード・フォーラム』より引用

	全 国		性別(%)		年代別 (%)					
フェアトレードという言葉を 見聞きしたことがあるか	人	%	男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代
JEIGIE O'CCCIO BY WAY			537人	539 人	78人	163 人	216人	200人	198人	221人
1. 知らない	493	45.8	44.7	46.9	38.5	44.8	43.5	40.0	49.5	53.4
2. 見聞きしたことはあるが 内容までは知らない	313	29.1	29.2	28.9	21.8	34.4	33.3	30.0	26.3	25.3
 見聞きしたことがあり、 内容も多少は知っている 	218	20.3	20.9	19.7	25.6	15.3	19.9	25.5	20.2	17.6
4. 見聞きしたことがあり、 内容もよく知っている	52	4.8	5.2	4.5	14.1	5.5	3.2	4.5	4.0	3.6
知名度 (見聞きしたことがある人 の割合=2~4の合計)	583	54.2	55.3	53.1	61.5	55.2	56.5	60.0	50.5	46.6

第4章 研究内容

第1節 授業について

私は、どのような教育を行えばフェアトレードの認知度が上がるのかを研究することにした。 そのために、実際に授業の計画案を作り、先生に授業をしていただくことにした。また、フェアトレードに対する意識がどのように変化したのかについて調べるために、授業の前後にアンケートをとることを考えた。まず、計画した授業案について説明する。

そもそも授業を行う目的は2つある。1つ目は、実際に授業とアンケートを行うことで、自分の主張の確実性を上げられると考えたからだ。今回私は、日本でフェアトレードを広めるために

は教育が必要であると考えた。そのため、アンケートからフェアトレードに関する良い意識の変化が読み取れた場合、自分の主張の裏付けになると考えた。2つ目は、どのような教育を行えば効果的であるかを知るためには、実際に授業を計画し、実行することが有効であると考えたからだ。

授業は現在の中学3年生(9年生)を対象とし、今年の2月に公民の国際社会関係の単元に関連付けて行うことを予定している。図1の教科書の年間指導計画作成資料によると、第5章「地球社会と私たち」の2節「さまざまな国際問題」の単元では、指導目標を「国際社会の解決のために日常生活で取り組めることを考える」としている。また、主な学習内容として、貧困問題や途上国の子供と女性の問題、途上国の人々の自立を学ぶことがある。このようなことから、フェアトレードは一人一人ができる国際問題解決の方法の一つであるため、公民の国際社会関係の単元に関連付けられると考えた。

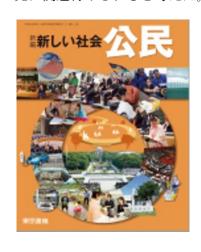


図1 新編 新しい社会 公民

『東京書籍』より引用

次に、参考資料1の作成した授業計画案をもとに、授業の内容を説明する。授業では主に3つ 行うことを予定している。まず1つ目は、フェアトレードについて知る導入として、開発途上国 の生産者の現状についての動画を見る。この動画では、子供たちがカカオ農園で働いている様子 とともに、カカオ豆がどのように生産されているのかが分かる。ここで、身近なチョコレートの 原料であるカカオ豆を例にすることで生徒に興味・関心を持ってもらうことを目的としている。 次に2つ目は、フェアトレードが誕生した理由やフェアトレードの仕組みなどの概要について知 る。フェアトレードは児童労働を撲滅させることも目的としているため、動画で見たカカオ豆生 産者の児童労働と関連付けて、なぜフェアトレードが必要とされているのかを説明する。また、 フェアトレードの仕組みを学ぶことで、私たち消費者の行動がどのように生産者に影響を与えて いるのかを知ることも目的としている。最後に3つ目は、2つ目で学んだフェアトレードの必要 性を体感するためのゲームを行う。ここでは、開発教育協会出版『コーヒーカップの向こう側』 の教材4のゲームか、貿易ゲームを行うことを予定している。『コーヒーカップの向こう側』の ゲームでは、生徒がコーヒー生産者の一家になりきり、引き取り手役との取引を疑似体験する。 貿易ゲームでは、生徒が先進国グループ・新興国グループ・開発途上国グループに分かれ、それぞ れ違った条件の下で取引を行う。これにより、自由貿易の不平等な条件のもとでの開発途上国の 立場を、共感的に理解することを目的としている。

第2節 アンケート調査

次に、授業の前後に行うアンケートについて説明する。今回は、授業前・授業後・授業一週間後の計3回アンケートを行うことを予定している。また、このアンケートは授業の改善点を見つけ、フェアトレード教育のマニュアルを作成する際に利用する。

事前アンケートから順に説明する。まず、参考資料2は事前アンケートの内容である。事前アンケートは、授業の前に行う。目的としては、授業を受ける生徒のフェアトレードについての知識や、世界の貧困に関してのイメージを知ることがある。次に、参考資料3は事後アンケート1の内容である。事後アンケート1は授業の後に行い、授業で知ったことや感じたことを記入してもらう。ここで、事前アンケートと同じ質問を入れることで、授業によるフェアトレードへの理解度の変化を確認する。例えば、フェアトレードの理解度を4段階に分けた質問がある。これにより、フェアトレードを「よく知っている」と答えた人がどれくらい増えたのかを確認する。また、フェアトレードに最も関係していると思う言葉を選択肢の中から選ぶ質問では、フェアトレードについてどれくらいの人が理解しているかも分かると考えた。最後に、参考資料4は事後アンケート2の内容である。事後アンケート2は授業から一週間経ったときに行う。一週間後に行う理由は、授業で理解するだけでなく、実際に行動に移しているかを確認するためである。このアンケートでは、フェアトレード製品を購入したか、友人や親にフェアトレードを教えたか、などの具体的な行動についての質問をする。そのため、フェアトレードの理解度だけでなく、フェアトレードに対する意識の変化を確認するという目的がある。

第5章 結論

私は、どのような教育を行えばフェアトレードの認知度が上がるのかを研究するために、実際にフェアトレードの授業とアンケートを行うことを考えた。

第2章では、イギリスや日本の団体によるフェアトレード教育の成果をみた。そこでは、聖学院中学校が講演をきっかけにフェアトレード製品のサッカーボールを購入したことや、玉川聖学院中等部・高等部が授業をきっかけに学院祭でフェアトレード製品を販売したことなどをみた。

第3章では、一般社団法人日本フェアトレード・フォーラム(FTFJ)の調査をもとにフェアトレードの必要性を考察した。

また、第4章では具体的な研究内容として、作成した授業計画案とアンケートについて説明した。

今後は計画した授業案とアンケートをもとに、2月の授業に向けてさらに準備を重ねる予定である。また授業後には、行ったアンケートから授業の改善点や授業の成果を考察する。そして、それをもとに自分なりのフェアトレード教育のマニュアルを作りたいと考えている。

フェアトレード授業内容

- 授業の目的 -
- フェアトレードを知るきっかけを作る
- ・フェアトレードがどうして必要なのかを知り、フェアトレード製品を購入するきっかけ を作る
- →消費者の行動が途上国の生産者にどのような影響を及ぼすのかを知る
- →フェアトレードが国際問題の解決にどのように影響するのか
- ★とりあえず、内容を理解し、行動にうつしてほしい
- 授業内容 -

授業でやりたいこと

- ① 身近なものを例にして説明する
- ・動画を見る(カカオ農園の動画)
- ・③ではコーヒー豆を例にする

参考 http://www.fairtrade-jp.org/about_fairtrade/whyfairtrade/000045.html

- →生産国 (途上国) の貧困の現状を知る
- ② フェアトレードとは何かを知る
- フェアトレードの仕組み
- ・フェアトレード運動が起きた理由
- 参考 http://www.fairtrade-jp.org/about_fairtrade/000011.html
- →フェアトレードが途上国の貧困問題解決のためにどのように影響しているか
- ③ フェアトレードの必要性を知る(ここが重要)
- ・『コーヒーカップの向こう側』の教材 4 を使う or 貿易ゲーム
- →フェアトレードが途上国の貧困問題解決のためにどのように影響しているか
- 教材 -
- ①「コーヒーカップの向こう側」開発教育協会
- ②「新しい教育開発のすすめ方」開発教育推進セミナー
- ③「新しい教育開発のすすめ方Ⅱ」開発教育研究会
- ④「開発のための教育」日本ユニセフ協会
- ・貿易ゲーム http://www.dear.or.jp/book/book01_tg.html

授業前アンケート記入のお願い

自由研究グローバルスタディーズ 11 年苗場組の石井愛美です。私は、自由研究の中で 「フェアトレード教育」というテーマで研究を行っています。今回、研究の一環として フェアトレードに関する授業を行うため、それに伴うアンケートの協力をお願いします。

- 1. 性別にまるをつけてください
 - (1)男 (2) 女
- 2. フェアトレードを知っているか、あてはまるものにまるをつけてください
 - (1) 知らない (2) 知っている
- 3. フェアトレードの理解度についてあてはまるものにまるをつけてください ※2で「知っている」を回答した方のみお答えください
 - (1) 見聞きしたことはあるが内容は知らない
 - (2) 見聞きしたことがあり内容も多少は知っている
 - (3) 見聞きしたことがあり内容もよく知っている
- 4. フェアトレードを知ったきっかけをお答えください ※2で「知っている」を回答した方のみお答えください
- 5. フェアトレードに最も関係していると思う言葉を一つ選んでください ※2で「知っている」を回答した方のみお答えください
 - (1) 株式
- (2) 金融
- (3) 貧困

- (4) 環境
- (5) スポーツ (6) メディア (7) 医療
- 6. フェアトレード製品を購入したことがあるか、まるをつけてください
 - (1) 購入したことはない
 - (2) 購入したことはないがもらった
 - (3) 購入したことがある
- 7. フェアトレード製品をどちらで購入されましたか、お答えください ※購入したことがあると回答した方のみお答えください 店名
- 8. 購入したきっかけをお答えください ※購入したことがあると回答した方のみお答えください
- 9. フェアトレードに関してとったことのある行動をお答えください

授業後アンケート①記入のお願い

	フェアトレードに関する授業のご協力ありがとうございました。 授業に伴い、授業後アンケートの協力をお願いします。
1.	性別にまるをつけてください (1)男 (2)女
2.	フェアトレードの理解度についてあてはまるものにまるをつけてください (1) 見聞きしたことはあるが内容は知らない (2) 見聞きしたことがあり内容も多少は知っている (3) 見聞きしたことがあり内容もよく知っている
3.	フェアトレードに最も関係していると思う言葉を一つ選んでください
	(1)株式 (2)金融 (3)貧困
	(4) 環境 (5) スポーツ (6) メディア (7) 医療
4.	フェアトレード製品を購入したいと思いますか、まるをつけてください また、その理由もお答えください (1)購入したい (2)購入したくない (3)分からない
5.	授業について、分かりやすかった点をお答えください
	授業について、分かりにくかった点または疑問点をお答えください
	DENIE ST. C. ST. STELLE STELLE ST. C.
7.	授業を受けて思ったことを自由に書いてください

授業後アンケート②記入のお願い

フェアトレードに関する授業から一週間が経ちました。 お手数ですが、研究のためのアンケートの記入をお願いします。

- 1. 性別にまるをつけてください
 - (1)男 (2)女
- 2. フェアトレード製品を購入したことがあるか、まるをつけてください
 - (1) 購入したことはない
 - (2) 購入したことはないがもらった
 - (3) 購入したことがある
- フェアトレード製品をどちらで購入されましたか
 ※購入したことがあると回答した方のみお答えください
- 4. 購入したきっかけをお答えください ※購入したことがあると回答した方のみお答えください

5.	フェアトレードに関してとったことのある行動についてお答えください	

参考文献

【図書】

- 1. 開発教育協会『コーヒーカップの向こう側』開発教育協会, 2005 年
- 2. 開発教育推進セミナー『新しい開発教育のすすめ方』開発教育推進セミナー
- 3.開発教育研究会『新しい開発教育のすすめ方』開発教育研究会
- 4.日本ユニセフ協会『開発のための教育』日本ユニセフ協会

【インターネット】

1. 一般社団法人日本フェアトレード・フォーラム「ホーム」『フェアトレード全国意識調査報告書』

アクセス日:2018年1月4日

https://www.fairtrade-forum-japan.com/

2. イオン「環境・社会貢献活動」『フェアトレード』

アクセス日:2018年1月2日

https://www.aeon.info/environment/social/fair trade/

3. Think the earth「英国に広まる「フェアトレードスクール」1000 校を超える!」『Think Daily』

アクセス日:2018年1月8日

http://www.thinktheearth.net/jp/thinkdaily/news/education/1183fairtradeschool.html

4. フェアトレード・ラベル・ジャパン「聖学院中学校 2 年生の公民でフェアトレードの授業実施」

アクセス日:2018年1月8日

http://www.fairtrade-jp.org/get_involved/school/000197.html

5. フェアトレード・ラベ・ジャパン「聖学院中学校、フェアトレードのサッカーボールを導入」 アクセス日:2018年1月8日

http://www.fairtrade-jp.org/news/news.html?id=296

6. 読売新聞 (YOMIURI ONLINE) 「授業で学んだフェアトレードを広めたい」『地域を巻き込んだ「エシカル」な学院祭…玉川聖学院』

アクセス日:2018年1月8日

http://www.yomiuri.co.jp/kodomo/jyuken/information/CO005945/20171107-

OYT8T50103.html

7. 聖学院中学校・高等学校「中学2年生フェアトレード・ラベル・ジャパンの講演を行いました」『お知らせ』

アクセス日:2018年1月8日

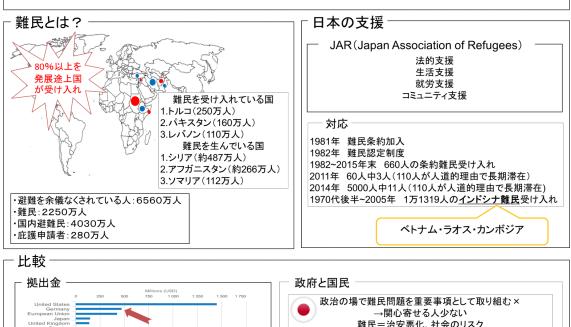
https://www.seig-boys.org/news/3602

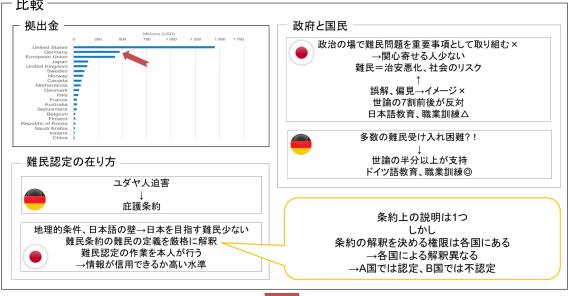
8. 東京書籍「新編 新しい社会 公民 年間指導計画作成資料」『中学校年間指導計画作成資料』 アクセス日: 2018 年 1 月 10 日

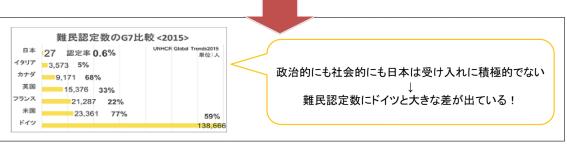
https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/chu/keikaku/koumin/index.htm

難民受け入れ ードイツと比較ー 国内学園高等部 11年 山口千裕

研究動機:日本の難民受け入れ×→受け入れが多い国は? 結論:難民認定数に大きな差







学内発表 パワーポイント原稿 (ラウンドスクエア)







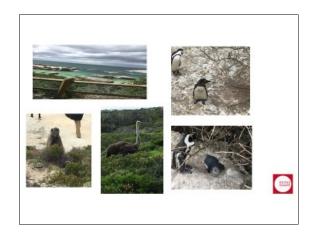


























◆執筆担当 玉川学園 SGH 常任委員会教諭および担当

	項目		担当	
課題研	①グローバルキャリア講座	上村	雅明(英語)	
研究	②「Tamagawa Super Global Leaders 48」認定制度への登録	SGH 事務局		
	③12 年公民科選択科目「ワールド・スタディーズ」「World Studies in English」	硤合	宗隆 (社公)	
	④アフリカン・スタディーズ (現地研修) への参加	前田	則文(英語)	
	⑤自由研究「グローバル・スタディーズ」の履修	坪井	佑夏 (英語)	
	⑥ラウンドスクエア玉川国際会議の企画・運営・参加	横山	絢美 (数学)	
	⑦ヨーロピアン・スタディーズ (現地研修) への参加	島津	遼(国語)	
	⑧模擬国連の実践を通した外交・国際協力の理解	後藤	芳文 (国語)	
	⑨A. 学内 LAN による広報	上村	雅明(英語)	
	⑩B. 日本語および英文ホームページの作成による広報	上的	作的 (央韶)	
	①C. 研修参加生徒による生徒発表会や展示発表の実施ペガサス祭、研究会、	大原	健 (地歴)	
	英語力A. 英語検定と TOEIC 受検の奨励を行い、GTEC (ベネッセ) 導入B. 11 年生選択科目「英会話 I 」、12 年生選択科目「英会話 II」の			
	コンテンツグローバル化	有川 坪井	7, 7, 7, 7, 7, 7, 7, 7, 7, 7, 7, 7, 7, 7	
	C. 学内レシテーションコンテストの実施	TT	四及(光品)	

データ管理・運営補助 玉川学園 SGH 事務局 濱野あづさ・都 慶子

